臺灣日日新報

本日二十四頁

發行所 臺北市 臺灣日日新報社

皇國日本の眞精神を示せ
―既に非常時第一步へ―

新年に際し先づ第一に念頭に浮ぶ所感は、皇室の御繁榮［illegible］明に中外に照り輝きゆく事である。

日滿兩國の親交と新興滿洲國の發展とは、申すに及ばず極東における日本の對外政策を、殊更らに之を曲解する者を除いては、アジア全民族の共鳴し支持する所であり、歐米諸國にあつてさへ大勢は日本の立場に主張の是認に傾きつつあることは、特に留意すべき現象と申さねばならぬ。殊に海軍五・五・三の比率を以て縛り付け二等國であるかの如き感を懷かせた華府條約も、我が帝國の廢棄通告に依り二ケ年の期間を經て將來に向つては其效力を失ふに至つた。日本が英米の五に對する三の海軍比率しか持ち得なかつた爲めに支那國中侮日や抗日の態度に出た國も、今後は其の態度を自然改めねばならぬ機會に到達するものと思料される。

○

更に又昨秋以來の倫敦會談等に見ても、日本全權は斷然主動的立場に立つて會商の空氣をリードし、英米の強國を相手として進取的態度に終始し、軍備平等權の原則確認に一步を進めた事は、世間周知の通りである。かかる外交折衝において日本が主動的立場を取り其の堂々の主張を飽くまで強調した例は、我が外交史始まつて以來の事であり、此一事を以てしても皇國日本の輝く姿は、漸として世界に光被するに至つたものと申して敢て不可はない。

○

日本が、名實ともに本年より國際非常危局に突入する事は疑ひなき所である。さりながら過去一兩年間に我が國民が上下官民一致協力して、非常時局への準備工作に最善を盡した爲めか、國際政局に對する先の見通しも漸次ついて行くやうである。無論本年三月になると日本の國際聯盟離脫の豫告期間たる二ケ年も經過し完全に脫退する事となり、從て南洋委任統治問題その他派生的の紛爭が生じないとも限らぬ。又華府條約廢棄の跡始末たる倫敦會議の續きや正式會議等もあるべく、其の結果如何等によつては、帝國の孤立は一段と深化さるべき場合もあるであらう。是等に對しては、日本商品の海外進出に伴ふ各國の壓迫と相待ち充分の對策を錬り難局打開に勇往邁進せねばならぬことは勿論である。唯極東の實情に即しつつ公正妥當なる主張に始終懸引なく直進してゐる日本の立場が、漸次列國に諒解さるるに至つた事も決して此際見のがし得ぬ所である。

○

國際諸情勢に對する批評家の意見は區々だが世界不安が眼前に迫つてゐる樣な見解にも幾分疑ひ無きを得ない。極東事情を觀察し歸米したエドワード・ベル君の如きも關係者の意見を參酌しつつ「不安はある、然し本質的な急迫した危險はない」と喝破してゐる。現在世界不安の震源地と見られてゐるのは、不斷の紛爭と葛藤とを繰返してゐる中歐と並に極東とであるが、中歐に於ても小問題は起るとしても所謂本質的な不安や急迫事態は無い樣である。この一月十三日に迫つてゐるザール領域の歸屬を決定する人民投票の如き、大過無くゆく見透しがついてゐる樣である。極東に於ける諸情勢は、日本が全責任を以て其平和維持に當つてゐる限り微動だも有り得まい。

○

翻つて國內諸情勢を見るに、近年來天災や冷害等のため困窮に陷つた地方もある。然し叩かれても反撥し倒れても直に起き上る日本國民である。此內外危局に際し毅然として動ぜず撓まず、行ふ所正を踐み、行ふ所中を執り、以て極東平和の確保に向つて勇躍すると共に、我が軍縮方針に列強をして共鳴せしめ以て華府條約に代る公正妥當なる新海軍協定の締結に成功せしめねばならぬ。皇國日本の眞の意圖は、世界の文明が白人社會にのみ偏在したり、又所謂人權が白人種のみに偏重されてはならぬ事を指摘し、主張するのであつて、皮膚の色の黄白黑の別なく均しく人類共同の平和と幸福とを熱願するに外ならぬ。此基本方針には毫頭誤りも偽りもないのである。而も此の理想こそ實に之を中外に施して悖らぬ皇國精神そのものであるのだ。吾人［illegible］新年劈頭に於て此の一大理想を［illegible］國民に［illegible］ものである。

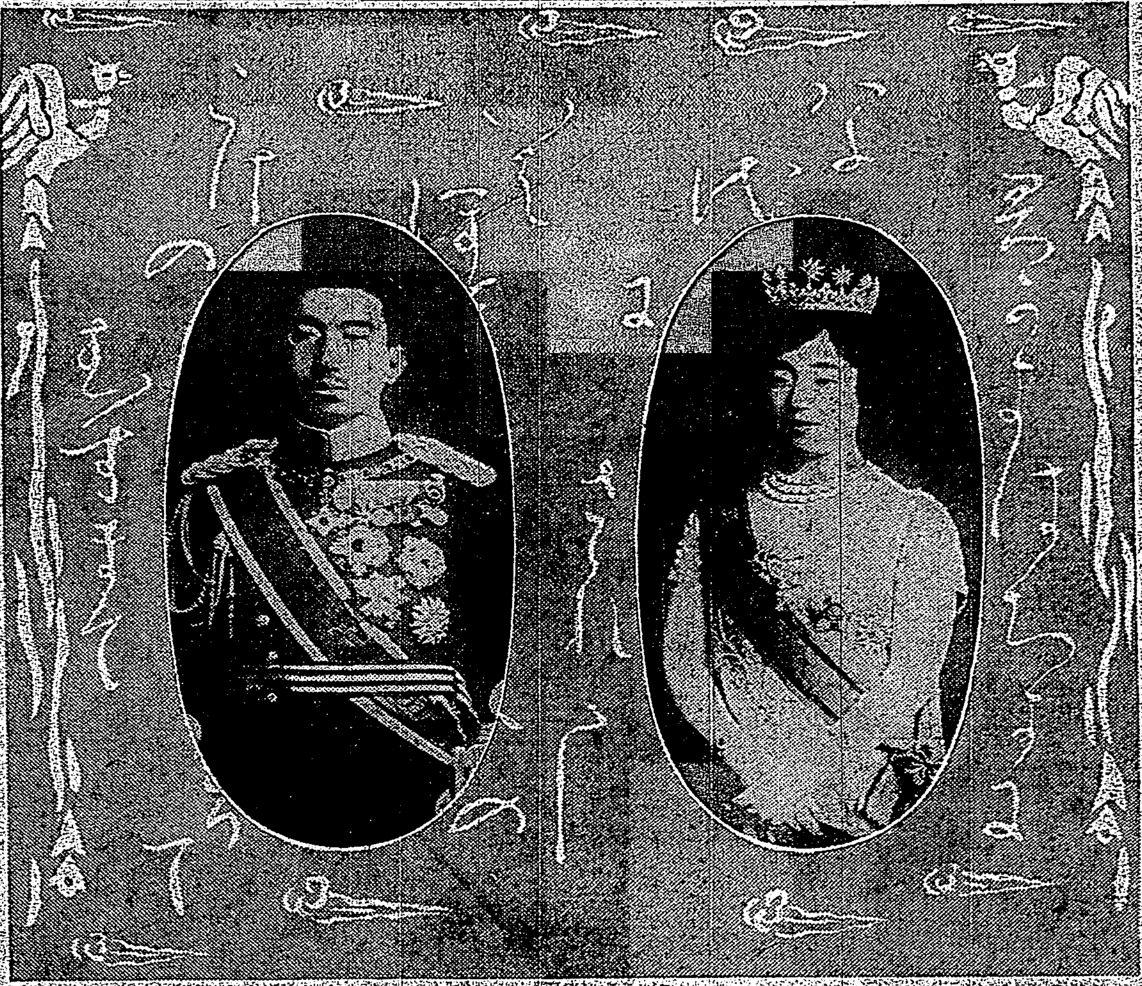
南方經濟發展に臺灣の使命は重大
拓務大臣 伯爵 兒玉秀雄

聖壽萬歲に亘り、昭和十年の新春を迎へ、內外兩地の同胞相與に聖代を謳歌するを得るは、洵に欣喜の至りである。客歲我が國土の隨所に天災相踵いで起り、甚大なる損害を蒙つたのであるが、朝野の［illegible］其の災害に對しても畏くも天皇皇后兩陛下より御軫恤の御思召を以て多額の御內帑金を下賜せられたことは、外地蒼生の上に垂れ給ふ大御心の程を拜察しひたすら恐懼感激に堪へざる所である。今や之等の災害も官民一致の努力に依り善後の方途を進められ漸次復興への道程を辿りつつあるが、吾々は常に斯る警告を拳々服膺し協心戮力［illegible］の一に報い奉ることを期せねばならない。

◇

朝鮮を初め各地に於ける統治の狀況を觀るに、治安、文化、產業其の他各般の方面に於て治績年と共に擧がり、內外兩地同胞の融和［illegible］住民親しく皇化に浴しつつあることは洵に慶びに堪へぬ。而して最近に於ける國際情勢の推移に鑑みるとき、外交上、經濟上各外地の重要性は益々其の重要性を加へ來つたことを痛感する。日滿經濟提携を全からしむるに於ては朝鮮は重大なる使命を有し、又臺灣は南支及び南洋諸島の開發に於て其の重大なる使命を有し、北方［illegible］樺太の地を開拓することは言ふを俟たない。

余は各外地の官民各位がそれぞれ其の地域に有する使命の重要なるを省察し、一意國運伸長の爲に勇往邁進せられんことを切望すると共に內外地同胞が愈々其提攜を密にし相互の理解を深くし以て兩地の利害を［illegible］圓滿なる融和を期し克く共存共榮の實を擧ぐるに努められんことを希望するものである。更に此の［illegible］之を世界に光被せしめ、我が國民た［illegible］



躍進する國には內外に問題が多い
―非常時の新年を迎へて―
內閣總理大臣 岡田啓介

年改新にして茲に昭和十年の新春を迎ふるに當り謹みて聖壽の萬歲を壽ぎ奉ると共に國運の愈々進展せんことを祈るものである。私は新年に於て我が國が日に日に前進しつつある姿を茲に明かに認め得る樣な氣がする。恐らく何人もさうであらう。吾は茲に國民全體が夫々更始一新の氣分を以て各自の職務に更に一層精勵せられんことを希望する。［illegible］我國は［illegible］の大なる轉機に直面して居る。［illegible］

國が躍進するとき國の內外に色々の問題が生ずるのは固より當然であつて世上所謂非常時と云ふのは此の狀態を稱するものと思ふ。滿洲事變の勃發、國際聯盟の脫退以後に於ける諸々の問題又我が商品の世界進出に伴ふ經濟的國際關係の推移、殊に海軍軍縮會議を目前にする現在の國際事情等は今更說明する迄もない。國內的には農村問題、中小商工業問題等の益々重きを加ふるに至りたる上に更に昨年は全國各地に各種の災害が相次いで起り國の內外に於て政治的に經濟的に社會的に適正に解決せらるべき問題が山積して居るのである。併し乍ら吾等の［illegible］其の御稜威の下に萬民協心戮力して內にしては國家康寧を增進し外にしては國際大義を［illegible］ばならぬ。國民の一人々々が夫れ夫れ其の職分に應じて［illegible］之が言ふ迄もなく［illegible］使命である。年頭に際し［illegible］此の重大使命に對する自覺を新にし日々新又日新の意氣を以て［illegible］

過去の四十年と新希望の四十年
―始政四十年の新年を迎へて―
臺灣總督 中川健藏

昭和十年の新春を迎へ茲に本島に在る官民諸君と共に新らしき年の初を迎へますることを［illegible］元旦や神代のことも思はるる」との古句の如くに［illegible］皇國三千年の歷史の［illegible］此の金甌無缺の國體と共に［illegible］

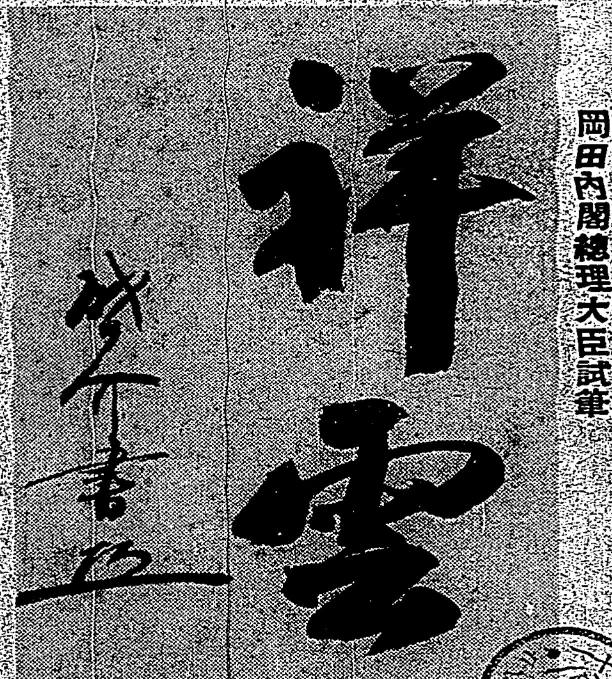
明治天皇の御稜威に依りまして、我が帝國の領有に歸してより茲に第四十年を迎へ［illegible］

天皇の御威德と［illegible］官民諸君の上下一致せる努力と［illegible］あらゆる文物制度整備し［illegible］本島の光輝ある四十年と言ふ一紀元に立ちて［illegible］過去四十年を基礎として新に將來の四十年を展望し［illegible］國運の隆昌に貢獻し、島民の［illegible］

新條約の提唱は正義の獅子吼だ
海軍大將 大角岑生

本年は［illegible］帝國政府が華府條約の廢棄通告をなした後をうけて帝國の前途［illegible］各國國防の安固と國際平和の促進とを［illegible］

祥雲
岡田內閣總理大臣試筆



政治と國民
法學博士 佐々木惣一

(一)

今日我國において［illegible］

初日影
松村英一

初日影うららに照る代々木の木高き杜に鳥が音きこゆ

池邊鶴
青木月斗

浪音
荻原井泉水

(二)

(三)

皇太子様を御中心に　瑞祥にみちた我皇室
多幸な日本帝國を象徴

大禮をつがせらるべき皇太子殿下―繼宮明仁親王殿下を御中心の大内山の春は、譽春に富んだ日本帝國を象徴する、いとも瑞祥にみちた御情景である。天皇陛下には、御齡御三十五、皇后陛下には御年三十三、皇太子殿下には、早くも御數へ年三つにわたらせらる。皇太子殿下の御姉君、照宮様には御齡十一、第九回の御誕生を迎へさせられたから、今春は御年十一歳、孝宮様には御七歳でおたのしい女子學習院御通學の春を迎へさせられ、御五ッにならせられた順宮様と御共々、いよ〳〵御健かにわたらせらる。大内山の聖趾ますます遠く栄させらるゝ時、わが宮中―御皇室の御繁榮も目出度にめでたく、九千萬赤子御欽仰のうちに、新な皇紀二千五百九十五春を迎へられたのである。

×　×

御精勵の程は、拜するだに畏き御多忙で、天皇陛下には、御英邁、御聰明、の天皇陛下には、昨秋いよ〳〵御壯健で、天機うるはしく、御政務に御軍務に、昨今國際時局重大を加へ、ロンドンにおける軍縮豫備會談に伴ふ華府條約廢棄通告はじめ緊要なる御裁可事項から、御親閲、御親臨など、實に繁多を極め、御親定遊ばされた各般各様の御日課をとは、臣々拜され、側近に奉仕する鈴木侍從長はじめ侍從達は、御健康に御影響がありはせぬかと恐懼する程とのことである、陛下の御日課といふのは、概ね各種各様な儀式、拜謁、御裁可、御茶の會、などと、その一日の時間―午前九時頃より午後四時頃迄の時間を嚴然と區分されてゐるのである、御日課のうち、御乘馬は隔日に、ゴルフ、その他の御運動もまた御乘馬と隔日に行はせられ、政務、軍務の御繁忙は、時には日曜といへども拜することがある位、缺かせ給はぬのである

×　×

今次の滿洲事變で、異國の爲めに戰死した第十連を合祀する靖國神社春季大祭には、皇后陛下御同列で御参拜行幸遊ばされ、天長節觀兵式行幸、昭和十年十月には陸軍大演習御統監、一月には陸軍大演習に引き續き

御統裁に引き續き萬乘、社會の各般をも親しくみそなはせらるゝ爲め、滿洲國皇帝陛下に行幸遊ばされ、行幸なき所數十ヶ所に對しては、侍從を御差遣遊ばされるのが御慣例である。また皇宗、皇靈の御祭祀の御思召いとも深き陛下は、一月元旦の四方拜から、元始祭、紀元節祭、明治天皇祭、春季皇靈祭、秋季皇靈祭、神嘗祭、大正天皇祭を御親祭遊ばされるが、十一月二十三日行はせらるゝ新嘗祭には、夜を徹して御親祭遊ばされる中を伊勢神宮の御遙拜に過ごさせらるゝを承れば陛下の御恵に寄せ給ふ大御心の程偲ばれて恐懼に堪へない次第である。大御心は、更に災害地の赤子の上にも洽く垂れさせらる。先般の關西地方の風水害に際しては、四十二萬餘圓の御救恤金下賜と、小山、久松の兩侍從をして災害の實状を視察せしめられた。東北六縣の冷害による凶作には、適當な應急策をなすやうにと、畏くも五十萬圓を下賜遊ばされるなど、天災地に、蒼生の恐懼に浴する數は實に、陛下の御手許金の御支出は少なくない。かくて年々歳々御増額するばかり昭和十年御編成する宮廷豫算一千二百三十萬圓の總額は極度の緊縮方針でいつも變りはないといへども、御下賜金額だけは漸増の形である。今春は、適々、滿洲國皇帝陛下が、帝國に對する日本國朝野の援助と天皇陛下の御慰撫の爲め御來朝遊ばされるので、四月桜の頃の御來朝遊ばされるのであるが、そのため秩父宮殿下を御差遣遊ばされるのである、その御交歡と共に官民の盛んな奉迎があるべく今からその盛儀が偲ばれる。

×　×

皇后陛下にもまた、一昨年春皇太子殿下を御分娩遊ばされて以來といふもの、御健康いよ〳〵勝れさせ給ひ、御機嫌うるはしく御過ごしと承はる。内親王様御三方の上に、さらに皇太子殿下を加へさせられて、畏き宮殿の御賑ひ、御團欒のさまは、まことに御美はしい御家庭とも申すべく、姫々と御たはむれ遊ばす御いとけない宮様方の

御元氣なお聲は、明るく、御朗かに宮殿内に聞きわたるとのことである。皇后陛下には、天皇陛下の御身の廻り一切の御世話から皇太子殿下、三内親王様の御養育に、御日常は何かと御多忙にあらせられる。御召物の御世話の外に、昨日大官夫人等に對し拜謁があり、赤十字、愛國婦人會等の公共團體の、女子學習院、東京女高師など遊く、行啓の沿革を持つ學校には行啓遊ばされ有り難き思召しによる御言葉を賜はる。陸軍の將士に對しては所要用の眞綿を下賜遊ばされる。東京府下の細民には恩賜御とし年末一萬圓を賜はるなど、御とも宮中御恒例の一つとはいへ、恐懼に堪へないところである。

御新築の大宮御所につゝましく御暮らしの皇太后陛下を御慰め遊ばさるため、天皇皇后兩陛下には屢々御揃ひで行幸啓遊ばされ、御孝心深くも、屢々御物語りに御過ごせらるゝ。皇太后陛下には、先帝の御靈祇をただ御一すぢに祈らせ給ひ、御日常も質素に極度に無駄を省かせられ、畏くその御宇を垂れさせ給ふ。世にも偉れた御態者の上を思召されては、かかるわるき病氣を御擦撫の御意味で、毎年多額の資金下賜、御歌などにては患者の上に御同情の御心を寄せ給ふのである。先帝御崩後一昨年沼津御用邸に、しばらく御靜養になられたが、これとても大宮御所の御增築の爲め一時、御移居になつたのであつて、今年御駐の伊勢神宮、伏見桃山陵、神武天皇山陵の御参拜も、今春こそは果させ給ふべく目下御準備とのことである

×　×

宮中御團欒の御中心は、皇太子殿下にて、御恩親王殿下であらせられることは既に仰ぎ奉つた。皇太子殿下には、御風邪一つも召されず、至極

御壯健に、御發育の御健げさ、はや天顔の御ひらめきが、隆時拜し奉られ、この頃では一二歩の御歩行も遊ばされるまでに至つたとのことである。皇后陛下にはこの御發育の目ざましきにと、畏くも數々の御玩具を御配慮遊ばされ、また良き姉宮様であらせられる照宮様は、御學業の御餘暇には、皇太子殿下の御遊び相手を遊ばされ、兩陛下の御膝下で御過ごし遊ばされるとのことである。御遊び事を遊ばされるとのことである。照宮様には今春より女子學習院―御姉宮、照宮様の御通學遊ばされてゐる學習院にお通ひのうれしき日も近いことと、御賑やかさも一入にて、大内山の瑞気こよりの邸が拜されるのである

皇太子様の御近影

滿支の通郵・圓滿解決
きのふ關東軍より發表

【新京三十一日發】滿支通郵問題は十二月十四日北平における關東軍代表と支那側郵政當局代表との間に協定成立したるをもつて北平においては三十一日午前九時、關東軍においては同十時左の如く發表された

長い間の懸案であつた滿支間の郵便業務回復に關する問題も今回愈々關東軍側及び上海郵政總局側との間に圓滿解決を見先づ一月十日より普通郵便を次いで二月一日より普通小包の取扱を實施せられることとなつた、之に伴ひ滿洲國側では中國宛郵便料金を次の如く決定した

△普通　書狀四仙、葉書二仙、速達料八仙、書留料八仙

△小包郵便料　一斤まで四角、一斤を増す毎に一角を加へ最高二十斤

△郵便爲替料　十圓まで一角五分、五十圓まで二角五分、百圓まで五角五分百圓まで一圓、一百五十圓まで一圓九角以上五十圓を加へる毎に四角を加ふ

支那郵政總局から布告

【上海三十一日發】支那側郵政總局は三十一日左の布告を發した

東三省の郵便事務は情勢に迫られ民國二十一年七月二十一日來暫時停止されてゐたが茲に民衆の利便を圖る見地より郵便、小包、郵便爲替の業務を山海關、古北口の二つの中繼機關に依りこれを行ふこととなり遼寧、吉林、黒龍江、熱河四省との間の郵便は省名、地名を明記し且つ「滿洲國」の文字を入れざるものは一月十日より接受、爲替は、小包、爲替は二月一日より取扱ふ

倘右には特別切手を必要とし他は無效となる　この場合には右郵便機關が責任を負ひ退款金を徴せぬと説明してゐる

自由主義經濟に落つくまでの辛抱
景氣は急に持直さない
大藏大臣　高橋是清氏談

國民の壓倒的な人氣と親しみと信賴の二重奏の後を受けて八十一歳の老齢を顧みず、非常時財政の大料理番、否國家の安危を買つて出た高橋藏相は「危機」の呼聲とともに近づく昭和十年を展望して次の如き興味ある時局談を試みた

◇私が岡田君の後を引受ると岡山の如い子供の僕から激勵の手紙を山君から貰つた、農村からも子供の手紙がつけられてゐる皆こんな手紙を讀むといぢらしい子供心に泣かされるよ

◇昭和十年に入つたとて景氣が急に持直するものとは考へられない、世間が近く第二の世界大戰が起るだらうと云つて居り世界を擧げて『危機來』を怖れてゐる、彼のイギリス外相サイモン氏すら『千九百三十五年だけは戰爭は起るまい』と斷言に發表したが一年以上先の發言の自信のないのを見ても世界的な危機の打開は困難だ

◇歐洲はドイツを中心に何か一大事が發生しさうであるが、歐洲で戰爭があつたら日本は漁夫の利を占められやうと考へるのは大間違ひだ、世界全體の暴落なくして日本の經濟的立直は出來ないよ、大正七、八年とは全く國情が違ふ

◇ロンドン軍縮會議が決裂すれば建艦競爭は遺憾ながら免れまいそれは何と云つても世界の不幸事だ、英米が假令百日になつて無茶苦茶な競爭を始めても日本國民だけは目明きにして貰ひたいそのためには言論の自由を尊重せねばならぬ、國民に不安や動搖を與へぬやうに努めねばならぬ

◇現在の世界的不況の大なる原因をなして居るものはアメリカが歐洲に持つてゐる戰債の問題だ歐洲國民が一齊團結して國力の回復を圖つても貿易の外に巨額の金をアメリカが、側から持つて行つてはとても働く氣にはなれまい、と言つてアメリカに搾取させられもせぬ又日本が音頭を取つて世界の景氣立直の會議を開けゝと云つても日本に其の力はないよ、何と言つても英、米佛が矢面に立たねば駄目だよ、フランスだつてドイツを恐ろしがつてゐるから動かしい、然し歐米の諸國が自國の我利を捨てゝ世界を引摺つて行つて貰ひたい、世界各國はブロック經濟だと言つて立籠つてゐるが結局は自由主義經濟に落付くべきだと思ふ、それまでは何とか辛抱せねばならない

◇我國の中小商工業者が疲弊してゐるのは何も今に限つたことではない、彼等も組合を造つて合理的な商賣をしなければ便利なデパートには勝てないね、昔のやうに主人、番頭、小僧まで、火鉢に噛りついて商内が出來るやうな時勢ぢやないよ

◇事業家の内には未だ金利を下げて貰ひたいと云ふ聲があるが「安い金だとして借る時ばかりよい氣になつても返へす氣はないのが多いんだ、から云ふ連中は儲かり乍てても仕事はしない心でゐるんだから銀行が貸出を嗇ましく言ふのは當然な事だ」

臺灣には色々と遣る仕事が多い
自治制の批評は御免
貴族院議員　松村義一氏談

▷▷▷▷▷▷▷▷

目下來臺中の貴族院議員一行は二日臺北發花蓮港及びタロコ峽を視察し五日歸臺北七日便船で歸還することになつた一行中有吉氏は一行と分れて東海岸視察をなす筈である、三十一日は大田大藏兩氏は總督の案内で淡水のリンクスで遊戯を試みたが、松村氏だけは市内の視察を行つた、同氏は官邸別館にて往訪の記者にこの十日間における中南部の視察談を試みた

この度の視察は別段深い意味はない、あつてやつて來たのではなく、單に臺灣の實際を見て置きたいと云ふだけのことで來てみると内地で想像してゐた臺灣とは非常な相違がある、中南部の廣い平野にしても、到る處青々とした山の姿など、全く綺麗なその比較でなく、時候はよく果物は豐富で天惠に富んでゐる點では内地の比較ではない、地方では内臺人が一番良いと聞いた

計畫が

臺灣の諸問題に話題を轉ずると實は風物に接したまでのことで諸問題について批判することは避けたいが、議論は避つて居らぬ、こちらに來てまだ二、三の人に會つただけで、地方制度の問題で一、二の本島人からあの程度の改正では物足らぬと云ふ

意見があつたがあの人達の要望としては當然の意見であらう

東京では各方面に可成り反對意見があるが當地でも内地人側に同様の意見を持つ人があるやうに聞いてゐる、私としてはあの程度の改正でよいかどうかは、又行ふ時期等についても意見を申上げるわけにはゆかぬ、ただ外地の統治は非常に六ヶ敷しく困難なもので此の點統治に奉仕する人々に深く同情申上ぐる次第である、米の問題についても研究してみたいと思つて來たが、まだ僅かな研究で何んとも言へぬが大いに研究の餘地があるやうに思ふ、要するに地方制度は兎も角として外になす可き澤山の仕事が殘されてゐることは事實でこの方面に對しても大いに熱意を持つて貰ひたいと考へる、日月潭も羨ましい歴史を持つて居るがその役割に行つて實に喜ばしいことである、この電力が臺灣の産業と直接結びついて發展してゆくやうにありたいと思ふ、云々

精神方面をも考慮した豫算
岡田財務局長語る

大和丸神戸出港【神戸三十一日發本社特電】岡田財務局長、中瀬殖産局長、松岡高雄州知事、臺灣拓殖社長等は年の瀬の三十一日出帆の大和丸に乘船したが岡田財務局長は

豫算で發表も殆んど我々の云ふ通り承認されこの上ない、内地は大體昨年を標準だが臺灣は八百萬圓の增加である、一番骨折れたのは社會方面で實に練習會とか改造地方研究室であつた、この他新規事業として基隆港擴張費、臺北、基隆間道路舗裝費、水路改良費、飛行場設備費、安平港改良費、下淡水溪堤防費、國勢調査費、博覽會費、地方制度改正費、その他の諸張が認められた、これは産業方面と平衡して精神方面が可成り認めらせになつてゐる現狀に鑑み劃期的とも云へる譯だ、豫算としては今の所これ以上望むは無理で大體に於て成功と見て貰へると思ふ

鳳梨合同は新春纒る
中瀬局長語る

米穀委員會も二十日迄開く期間振りだがまだ纒らず來年へ持越である、成行きは既に新聞に出てゐる通りで變つたことはない

恒例の渡臺
松方帝糖社長語る

今期ビートは一割六分の新記錄步留である、支那の砂糖專賣說は勝手な說ではないか、發育としても擴張してゐて可なりだ、鳳梨合同も新春には纒まると思つてゐる、で正月をする、新春の糖界も異變なく發展するものと思ふ、北海道のビート工場は既の豫算が通れば來年私の方と明糖で擴張新設のことになつてゐる

佐藤參與官　二日對岸へ

佐藤拓務參與官は二日午前十時二十分臺北驛發十一時二分基隆着午後二時上陸直ちに市内を視察し午後二時大球丸で對岸視察に向つて出發する

謹賀新年（イロハ順）
臺灣日日新報社
河村徹
赤石定藏

石原幸作　伊藤進二　池端貞雄　石原清秀　岩田强榮
德野正治　岩澤慶二　岩村梅雄　入貝良郎　長谷理叡
服部榮一　林松太郎　馬場八重子　濱中弘行　西田力松
西川爾　二ノ戸貞智　星野有終　原[illegible]　張仁
張清德　林佛國　林東辰　李聯壁　大澤貞吉
岡山實　大平榮太郎　大澤榮之進　大屋林吉　小倉啓
小川方郎　渡邊義孝　渡邊良太郎　酒島孝二　渡邊國弘
金崎勲　擇山齊數　郭榮宗　加藤誠一　吉田平三
吉田清一郎　吉田一正　吉野昇之助　吉光祐七　谷河梅人
田中貫爾　武田一　武富嘉代一　高橋慶天一　磯部麗記
田島信治郎　竹澤太　武田千代治郎　相馬市太郎　留長嘉仲太
津森眞治　中曾根武多　永井文三郎　永井三郎助　永井省三
中柳勝次　成井貞雄　長宗重一　長井安太郎　中島佐二
中島文進　槇子清　植田稔之助　上田久吉　上田商人
氏家康一　野村秋平　野澤正留　野村幸一　國島守
桑原博　黒田清政　黒江清吉　倉田春雄　山田象三
山本英一　山崎三浩　山本奈良男　山村光男　八木孝喜
前田武吉　前野鶴若　増田直次郎　松田清二　松田務
松井貫之　牧野昇二　松原元義　福原正雄　船越吉良
深川市次　福島唯夫　福島正道　小崎義雄　木場一三
黄賓樹　黄屋氏秋佐　小林正方　西川首　江口清作
衛藤俊彦　江原五三郎　江之口榮藏　有富宇一　佐々木齋
笹盛治平　佐々美彦　坂田嘉家久　郭清德　木下七郎
許賓亭　菊地厨藏　木津秀男　湯川範雄　三宅和木近
宮本義壽　宮尾進　正村愚三郎　謝倉　謝鮫
重松爾麗　島田福吉　島守太郎　白石彌吉　志波宗紀
平野桑榮　樋口武太郎　平松德　森岡喜留　杉野嘉助
鈴木喜　鈴木竹之介　杉浦義貫聰

客員
井手元一　陳燮　陳鏡波　陳家駒　陳生仙
張基茂　陳鈴芽　陳金榜　陳欽顯　陳登龍
張聖堅　李傳亮　劉錫上　林萬來　李賞同
林福濤　林家佐　林連福　林榮桑　大津留次郎
加藤談一　菅野尙夫　何碧書　河野初次郎　何鳥
郭鐘　楊春吉　火旺　楊生春　楊長泉
楊曩材　蔡海水　津本信重　長木義輝　夏井相吉
永井永太郎　植松保次　安武二郎　山崎齊　増田正一
吳若臣　黄天經　吳天送　吳清老　彭作衡
高欽榮　吳水木　鄧啓東　有田忍　秦法元
洪[illegible]　[illegible]　[illegible]志一　周石輝　德新茬
馬炳璋

シナチク

臺灣總督府の高等官中で亥年生れの者を究明に調べた物好きがあるが、どうしたものか亥年生れの人に馴染い、出世の目ざましい者が非常に多い、少し大袈裟に言ふと亥年の男子でないと出世できない―なんかんとも言へさうな程に多い、兎に角猪突的に突進しないと身も成功もできぬかも知れない、亥年生れの官吏諸公は氣を好くして可なりである▲さて其の顔觸れだが、明治八年生れの亥年に中川總督、平塚長官竹内高等法院長、明治二十年生れの亥年に、竹下臺中知事、深川殖産局長、安武文教局長、帝大の平坂教授、新竹の石橋税務課長、川副高雄税關長、殖産局の土井技師、井上北港長、など▲明治三十二年生れの亥年には、殖産局の須田商工、鑛務局の坂口保安、同森田鑛務、營林所の佐治照務の諸課長、如何にも亥年らしい新竹州警務部長の高原逸人君等々▲亥年の人といふと高原君位の人物が多いといふ風に世間にも考へられてゐるが、平塚長官とか竹下臺中、深川殖産局長などと温和その他の人物もあるので必ずしも猪突的とばかりは限らないやうだまア男の亥年の者はよく出世する位に考へてゐたら宜いだらう。

二日付朝刊は休刊

元旦は恒例の定休日に當りますので二日付朝刊は休刊致します、尚ほ夕刊は六日が日曜に付き七日から發行します

蓬萊丸より（來航）三十日夜より低氣壓の影響を受け風波强くも晴れ、戸塚海軍大佐、伊東紹言、黑田秀博夫妻、岡谷部等の諸氏（同無事）一月一日午後一時基隆着の豫定（十二月三十一日著無電）

人事

▲平光吾一氏（九大教授）、高旺吉氏（九大名譽教授）、小口忠太氏（名大教授）、楠木（名古屋精神病院長）三十一日離臺
▲平田德太郎氏（臺林高林業試驗所技師）一月南部より歸北（日の丸館）

本日の本紙定價　十四頁定價一部金十五錢

大阪商船出帆　基隆
門司神戸行　蓬萊丸　一月四日後四時發　高千穗丸　一月九日後四時發　瑞穗丸　一月十四日後四時發

近海郵船出帆　基隆
門司神戸行　吉野丸　一月二日後四時發　大和丸　一月七日後四時發　富士丸　一月十二日後四時發

辰馬汽船出帆
内地行　桐葉丸　一月上旬基隆發　宮殿丸　一月下旬基隆發

大連汽船出帆　基隆
大連直行　山西丸　一月七日後五時發　山東丸　一月十四日後五時發　代者丸
丸一組

謹賀新年

石炭採掘販賣　益興炭礦株式會社　代表取締役　周錦樹　本社　七星郡汐止街茄苳脚　電話汐止七番　礦業所　五堵停車場前　電話汐止十番　坑場　臨架、北港、鉄内、社後、南港

德興炭礦株式會社　代表取締役　周錦樹　本社　七星郡汐止街茄苳脚　電話汐止七番　炭坑　七星郡松山庄三張犁　電話北二〇〇番　二張犁炭坑　七星郡松山庄三張犁　電話北二〇〇番　松山炭坑　七星郡松山停車場前

松山　臺北メリヤス製作所　代表者　伊藤和三郎　電話貳參番

保證責任　松山信用購買販賣利用組合　組合長　陳復禮　松山　電話八番　理事　潘迺賢　同　蔡九冊　同　徐春鄰　同　周河　同　佐藤政勝　監事　中島浦四　同　莊有南　外書記五名一同

松山庄役場　庄長　中村安藏　助役　潘迺賢　外職員十四名一同　電話貳〇番

復記産業合資會社　代表者　陳復禮　七星郡松山　電話八番

松山和興炭鑛公司　代表者　潘迺賢　電話參四番

アルテックス製作所　柏熊福太郎

七星郡内湖庄役場　庄長　助役　會計役　外職員一同

内湖信用購買販賣利用組合　組合長　郭華讓　理事　監事　一同

蘇澳庄協議會員　長谷川砆郎　村上次一郎　遠藤眞清　横井勝治郎　藤嶺利幸　游兆圭　莊阿凰　劉傳旺

蘇澳消防組

蘇澳街　蘇澳堂藥店　電話六番

蘇澳港　淵菓子店　電話四番

蘇澳港　中野組　電話二番

蘇澳驛前　カフエーグリーン　電話四六番

製造元　臺灣石粉株式會社　蘇澳

日用雜貨　東榮商店　陳九連　蘇澳南方漁港

蘇澳南方漁港　福島製船所

蘇澳南方漁港　蘇澳水産株式會社　電話七十番

蘇澳港　水質撈所　揚連水　電話貳四番

蘇澳港　公醫　嘉村治剛　電話四七番

海南興業公司（蘇澳船舶株式會社代理店）電話四番

蘇澳港　御旅館壽館　電話拾番

蘇澳港　御旅館近江屋　電話貳番

蘇澳港　臺商　木原猛三　電話貳七番

蘇澳南方漁港　御料理　有明

蘇澳郵便局長　溝越勝三

蘇澳港　御旅館東洋商會　電話壹七番

蘇澳驛前　御旅館蘭陽軒　電話貳貳番

蘇澳郡大南澳　大南澳製糖公司

蘇澳郡守　小島猛　庶務課長　常田正　警察課長　須藤義一郎

蘇澳庄長　小辻宇吉　助役　高橋均　會計役　雷木水

蘇澳南方漁港　中町造船所

臺南州斗六郡斗六街斗六　圖南産業合資會社

斗六郡醫師會員一同

斗六街役場

斗六街魚市場

有限責任　斗六信用購買販賣利用組合　組合員一同

大和拓殖株式會社烏塗子製糖所　同　坪頂製糖廊

斗六街　世界座劇場

臺南州斗六郡大埤庄　庄長　劉本

斗南商工會

斗六驛前通り　斗六自動車株式會社

斗六街酒類賣捌所　莫沙清泉

古坑庄長　吳桂春

斗六郡莿桐庄　陳奎生

斗六郡漢藥種商營業組合　組合員一同

斗六郡獸肉營業組合　組合員一同

斗六運輸組　代表者　浦木小三郎　主任　陳添泉

謹賀新年

非常時の新春を迎へ世界の平和と國家の萬福を祈る
昭和十年元旦
臺北市榮町四丁目十八番地
川田種治
在臺四十年・本年七十一歲

土地建物管理取扱
臺北市榮町二丁目一番地
池上信託商會
電話七壹參番 振替臺灣七五四番

綿布商
臺北市大平町三丁目八十一番地
分星加商行
電話二〇六〇番

臺北市本町二ノ四九
矢野果物店
電話三三二三番

公認華道家元池坊
臺北州橘會
會員一同

臺北鐵道株式會社
臺北市新富町五丁目五〇
電話一九八番

土木建築請負業
堀江組
臺北市老松町二ノ九

專賣特許 ミカド襖 臺灣全島特約店
建具商 表具商
（カ）葛西貞三商店
臺北市新起町二ノ六
電話一一八一番

華道家元池坊
臺北州聯合橘會
會員一同

鐵材商 營業軌道臺北萬華枋寮板橋間
臺北市新起町三丁目
（源）蔡溪商會
電話長八四二六八二

理化學器械 度量衡器
合資會社 幸野商會
臺北市新起町一丁目

臺北市新起町二ノ三
大歲食料品店
電話五〇三番

家元 蟹江尾州
同幹事長 江副北州
同顧問 菊地張州

臺北市榮町三丁目
富士屋菓子舖
電話六四七番

臺北市兒玉町一丁目
高砂菓子舖
電話一一九五番

臺北市榮町一丁目七番地
海野商店
電話三一八番 二七二〇番

臺北市京町二丁目
松尾陶器店
電話一九五六番
西門市場八角堂
松尾陶器店支店
電話二七〇〇番
高雄市山下町一丁目
松尾陶器店高雄支店
電話七八〇番

臺北市表町二ノ三
水木紙函臺北支店
電話一六二一番

臺北南人力車營業組合
電話一、四〇三番

鈴木學
臺北市若竹町

有限責任
臺北市壽町三丁目八番地
工材信用購買販賣組合

荷造函 衣裳函 洋服函 各種紙函商
中村洛陽堂
臺北市榮町二ノ二六
電話一八八五番

菓子問屋（A）
九州製菓株式會社臺灣販賣店
青島商店
臺北市表町二ノ二八

（太）植松材木店
臺北市北門町七番地
電話八二四七〇番

天幕 帆布 シート加工 諸ロープ及附屬品一式販賣
美坐商行
美坐時習
臺北市京町二丁目一番地

公設
御成町食料品小賣市場
公商會員一同

オフセット・石版印刷
ワタヌキ印刷所
臺北市榮町一丁目（新公園前）
電話一八〇五番

富士モートル・ベークライト
サクラ電氣商會
臺北市表町二ノ二〇

オリエンタルペイント株式會社
臺北出張所
臺北市太平町一ノ三
電話三四五番

除蟲菊取扱發賣元
帝國除蟲株式會社
臺北市新起町三丁目

米、雜穀卸商
藤村精米所
臺北市老松町二丁目

東屋染物店
臺北市若竹町

柳藥局
臺北市京町一丁目
電話壹〇四〇番

諸紙文房具 活版石版印刷
江里口德市商店
臺北市京町貳丁目

臺北病院眼科御用達
眼鏡商 久松千吉
臺北市京町二丁目

印舖 文林堂
臺北市京町
電話九五〇番

串本金次郎商店
臺北市新起町二丁目

提灯 雨傘 及材料卸商
柏屋商店
臺北市新起町二丁目

木炭 卸小賣
辻本商店

下野盛豐堂
臺北市末廣町二丁目一番地

ヒコウ靴製造發賣元
ヒコウ商會
臺北市若竹町二ノ二

祖父江商店
臺北市新起町二ノ四

東洋コンクリート株式會社
臺北市御成町二ノ一九
出張所 臺北、臺中、嘉義、臺南

和洋御菓子
三好堂
臺北市兒玉町二ノ二

日の本洋傘店
臺北市京町二ノ二

精工堂
岡垣謙
臺北市京町四丁目一番地

大曲紙函店
臺北市本町

臺北名物
メロー商閣
臺北市京町一丁目

博善株式會社
臺北市表町

履物並に洋雜貨
（全）出口商店
臺北市榮町四丁目

制帽專門
カメダ帽子店
臺北市本町一丁目二十五番地

賀正
小野刀劍店
臺北市本町通り

臺北下宿組合一同

スズキ自動車商會

德丸貞二

和洋食料品
竹浪商會
臺北市新起町

臺北市榮町二丁目二〇番地
第一區煙草賣捌人
谷河梅人
電話一一九六番

臺北市明石町二丁目六番地
千代田生命保險相互會社
臺灣支部長 伊藤麻吉
電話二八七〇番

今田渉

臺北市北門町八番地
（金）原川運送店
電話長一八〇三番

石版 凸版 木版 寫眞版 コロタイプ版
印刷
臺北市八甲町
盛文社
電話八七九番

臺灣鐵道ホテル
電話五六二
營業請負人 後藤鐵二
支配人 福島篤郎

杉村組
杉村庄一

臺北土木建築請負業組合

臺北菓子商組合

愛國婦人會臺灣本部

臺北市公設
千歲町食料品小賣市場
公商會員一同

純良牛乳 ヨーグルト 純良生バター
臺灣畜產株式會社

米雜穀 砂糖麥粉 各種油類 精米業 印麵類
吉岡德松商店
臺北市表町一丁目

日本赤十字社臺灣支部

新春の陽光を浴びて榮光よ輝けと
躍榮え行く玉寶に朗かに合掌させて下さい
東郷堂寫眞工業株式會社
直營臺灣營業所
臺北市京町二丁目 電話四〇五〇番

Ford
臺灣全島フォード特約販賣店
ダンロップタイヤ日本總代理店
日本自動車株式會社
臺北驛前 臺北出張所
臺南驛前 臺南出張所

臺灣書籍商組合

臺北庶民信用組合

臺北驛運輸組合員一同

臺北市南門町三丁目
片倉合名會社臺北出張所
富國火災海上保險株式會社
臺北出張所
電話二二二三番

臺北市齒科醫師會

日本最高基準品
賀正
CHIYODA
POMADE
千代田
日本最
千代田ポマード
CHIYODA
千代田ポマード
スポーツで年あける國のわかさよ
ちよだでくしけづる髪のめでたさ
スポーツマンらしい軽快
な自然な整髪調です！
うは光りせぬおちついた
艶のしとやかさです！
糊つけ頭にせぬ汚れを呼
ばぬ爽快さです！
洗ふ時石鹸によくとける
おちよさです！
千代田ポマード
純粋植物質
普及瓶入
大瓶・五十錢 小瓶・三十錢
チューブ入
一個・三十五錢
整髪御料専門 東京・株式會社山岸商店

財界人の年頭感

昭和十年は 工業臺灣へのスタートたれ
動力問題は既に解決しあり
調査機關の充實を期待す

總督府中央研究所工業部長理學博士　加福均三

臺灣工業の心臟とも云ふべき日月潭水電は昨年中に完成し更に其の第二發電所の既設が計畫されつつある昭和第十年を迎へて吾人は今更ながら工業臺灣の目覺ましき躍進ぶりに驚歎せざるを得ない。さりながら現下工業日本の立場から見れば僅か十萬キロ位の發電所の既設は決してセンセーショナルな大事件ではないのであるが夫れが臺灣にとつては劃期的の進展と見られる點はつまり今日迄の臺灣は農業が主で工業は從であつたからである。昭和十年は此意味から云つて工業臺灣のスタートの年と見るべきである

△　△

此意義ある工業臺灣の新春を迎ふるに中つて吾人は吾人の工業臺灣の前途を祝福すると同時に慎重に其合理的發展について考慮を要することは必ずしも無駄なことではない。私は年來中央研究所に於て臺灣の化學工業を中心とした研究の世話をして居る關係上今日茲に特に臺灣に於ける化學工業振興上の一問題につき些か思ふ所を述べやうと思ふ。若し此小文が幾分なりとも臺灣の化學工業界にとつて刺戟となり其發展向上に少しでも貢獻し得るならば寧ろ望外の幸である

△　△

由來化學工業は單獨の發達を遂げ得る場合は例外とする所で一般に幾多數の事業が相携へて互に有無相通じ彼此相扶けて始めて進展を見るを常とする故に將來の發展を期する爲には先づ現在の狀態を詳細に知悉し其弱點缺點を知り得て始めて將來の途を拓き得るのである。然るに現在に於ける臺灣の化學工業は殆ど無統制の下に隨時隨所に起つた傾向を遺憾なく發揮して居る。これは同事業の幼稚な時代に於ては全く止むを得ない所であるが特に此種の缺點の原因をなすと考へられるのは調査乃至統計機關の缺陷である

△　△

統計事業は當局當局に於て臺灣の調査はしてゐるのであるが其調査は消極的で決して積極的に街頭に進出して臺人に知らしめ様とする勢を持つて居らぬ。隨つて世人は如何なる事業が何處に如何にして興り又は潰りつつあるか又其技術的要領を付與する資料が何處にあるか等のことに關しては全く無智で過ごすより他はない。若し之を知らうとするならば非常な手數と時間とを非能率的に要さねばならぬ。之では各種事業相互間の連絡を保つことが非常に六ケしい。から隨つて其種事業の發展の上に不便此上ない、と云ふことになる

△　△

此意味に於て私は先總督府當局が調査及統計機關を充實して而も其結果得らるる資料を敏速に府外に發表するか或は需に應じて提供出來る様にすることを提案したい。此提案にして若し實現された曉には我臺灣の化學工業界は異常な速度を以て進展すべきこと火を睹るよりも明かである

△　△

要するに殖產局とか官房調査課とかが中心となつて必要な技術者の指導の下に必要な經費をもち必要な事務員を整へて組織的に現在の狀勢殊に技術的方面の世界的進展と常に步調を揃へて其調査を公表することは我工業臺灣が其發展の第一步をふみ出す時に中つて絶大なる應援と云はねばならぬ。此意味に於て筆者は筆者の提案が輿論をまき起して今年中に其實現を見るに至らんことを切望して止まぬものである

内臺經濟界に現れた好轉の兆
だが慢心は禁物である

臺灣銀行副頭取　吉田勉

昨年の我經濟界は年初來米國平價切下、蘭領東印度に於ける輸入制限又は英領各植民地の輸入割當制等々實施されたが、依然として前年來の基調を堅持して變らず

◇後半に至つて内閣更迭、關西に於ける未曾有の風水害並に東北、九州地方の旱害、冷害等相次で起り、財界亦多少の波瀾あるを免れなかつたが、大局より觀るときは概して平靜、金融緩慢裡に推移し來つたのである　先づ金利はコール翌日物季初の六厘五より漸次低落して五月上旬終に五厘一毛なる最低率を現出するに至つたのみならず、各地預金銀行は一月來此低金利趨勢に順應して順々

◇利率の引下を行ひ、六月末東京及大阪の乙種銀行亦之に追隨して其協定率を引下ぐるに至り低金利の全國的普遍化は遺憾なく徹底することになつた。而して此結果起債界は嘗て見ざる盛況を呈し、公社債の發行及借換は著しく促進され、十月末突發せる增稅問題により一時減退ありたるを除き、十一月に於ける新設及增資及社債總額は一億四千萬圓餘に上り前年同季に比較して實に六千五百萬圓の增加を示して居る、又全國銀行勘定に就て見るに前年以來の

◇傾向たる預金增加貸出減は愈々深化を加へ、昨年十月末現在預金總額は六十七億九千八百餘萬圓に達し、前年同月末に比し實に三億七千八百餘萬圓の激增となつて居るが、反之貸出は却つて前年同期より一億七千三百餘萬圓の減退を示し、預金對貸出の開きは益々擴大される傾向となり、前記の如き放資難は益に銀行業者の手持有價證券を必然的に增加させる結果となり、昨年十月末現在の手持高を前年同月に比すれば無慮五億六千五百萬圓の增加となつて居る、而して

◇臺灣を觀るに主要產業たる砂糖は引續き順調なる發展を遂げ、糖價向上し各社の收益激增したが、日滿食糖、和蘭金幣等先行懸念あるにつき斯界は既に業界を前にされず從前の如く當業者は生產費の可及的低下と海外輸出販路の開拓に絶大の努力をすることは勿論である。又米は内地凶作に基く銀米不足の爲め、移出旺盛を極め相場は上昇の一途を辿り此等二大物產の活況は著いて

◇農民の懷工合に好影響を齎し、更に茶、柑橘類の新興滿洲國への輸出も從來見ざる增加を示す等、產業界は近年稀なる活況を呈し、之がため臺灣銀行券は年初以來激增に增發を重ね、昨年十一月の發行額は無慮五千七百萬圓に上つたのである。顧みて昨年も亦前年に劣らざる多事多難の年であつたが、今年の我經濟界は更に一層多事多端たるを免れない

◇倫敦に於ける三國海軍豫備會談は結局決裂されて居る、又バタビヤにて昨年四月以來開催して居る日蘭會商も亦遷延決裂を傳へられ遲々として進捗して居らんのである。加ふるに臺灣の治安維持其他、且又友邦滿洲國の治安維持を始め其他に要する新規赤字公債は本年度も七億圓に達する巨額發行を豫期される等眞に内憂外患相次ぐ非常時昭和十年である、從つて近時内臺經濟界に現はれたる好轉の兆を目して我經濟界が全般的に好化せりと斷ずるのは未だ早計の譏を免れぬ宜しく此際國民一致協力して内外の國難に當り邦家百年の大計を樹立し國威を宇内に宣揚する心掛が必要であると思ふ

專賣事業の意義と使命

田端專賣局長談

臺灣の財政は歷代總督の施政善しきを得、極めて順調な發展をなし明治三十八年には早くもその獨立を見るに至りました、之は我國の外地中、臺灣を除いては他に類を見ない所でありまして實に臺灣の誇りと申さねばなりません、然も文化的施設の普及、鐵道、港灣、產業の開發獎勵のため財政は益々膨脹して來ましたに拘らず、本島財政がよくその獨立を全うし得ましたのは實に專賣事業の健全なる發達に俟つこと大なるものがあるのであります、之を歷史的に概觀しますと、明治三十年阿片の專賣政策の確立と共に本島財政の一助として先づ阿片專賣を創設いたしました、當時の專賣收入は僅かに百六十四萬圓で本島歲入の約三割一分に過ぎなかつたのでありますが、年と共に鹽、樟腦を合しまして同三十二年には五百四十二萬圓餘、煙草を加へました同卅八年度には千六十萬圓餘、酒を併せました大正十一年度には三千七百十七萬餘圓となりまして臺灣歲入の約四割五分を占むるに至りました、爾來年々總督府財政の五割内外を占めて來て居る狀態であります、然し斯の如き重大なる財政上の役割を荷ふのみがその目的ではなく、專賣事業も單に財政收入のみならず社會政策上の重要なる目的を併せ有することを看過する事は出來ぬのであります

顧へつて現時の國民經濟の見地よりこれを考察致しますに、大戰後各國何れも武備を固めるの必要に迫られ、その膨大なる軍備費は累年不可避の經費として各國の議會に提出せられつつあります、それにも拘らず一方各國は何れも戰後經濟恐慌に基く公債の過多に苦しみつつあるのであります、戰敗國には之に加ふるに過大なる賠償金の負擔がありまして、世界各國何れも、止み難き財政上の困難に遭遇しつつあるのであります、然るに國家のかかる支出を負擔すべき國民經濟は國内に於ても商工業に於ても各々兩價を重ねて國家は之が爲めの巨額支出を削減し得ないのみならず却つて增大せんとする右の支出との負擔と財政的困窮を加へつつあるのであります

斯くの如き多難な國民經濟の間に處するについて我が專賣事業の如きは現時に於て甚だ有效適切なる方策でありまして專賣事業の意義は又かかる見地からも、之を把握することが出來ると信ずるのであります

以上のやうに考へ來りますと我日本國民としては殊に我が臺灣の住民は從に眼前の私利に拘泥せず常に大局に目を注ぎ國家永遠の方策を確立し所謂過ぎたるを思ふ心を以てこの時局に處し皇恩に報ゆる所がなければならぬと確信する次第であります

易から觀た本年の財界

高島象山

昭和十年は、乙亥の年である、世俗には亥年を稱して猪の年が來るといふものがある、然れ共亥と云ふ字は閡と云ふ字で、閡と讀み之れを門碍へを閡して亥と云ふので猪では無い、時候の變化を示したもので當十月立冬の候萬物閉藏の象で閡の義これを亥と號し性は陰中の陽に屬する、而して乙は軋するの義にして春一月の頃草木土中に在りて屈し伸びざる意義にして性は陽中の陰に屬し今將に地上に伸び立たんとするものが乙である、これ等の天地交代四季變化の意義を利用して今年度の運命を解述すると

◇……◇

十二支の陰中の陽は陰極りて陽に轉し萬物改まつて進展し陽性の活動に入るの義にして總て積極的變化を生ずる年柄である、乙は陽中の陰に屬して進展の途程に在るも時未だ充實せぬ爲め彼を惡ひ居る義にして善惡邪正共に彼にふれて積極的活動を開始せんとするの義である。經濟關係は初め順にして後逆に至る義あれば總て物價は順調に進展し春より夏へと上半期は向上するも秋から冬は逆に至つて高低區區となり聊か變化を生ずるものと考察される、殊に孤獨年は諸物價孤立進展の義ありて我れ先に各々物價は新値へ新値へと飛び立つものにして中にも大暴騰を演出するもの出來て好景氣が來るものと豫想される。其の内春は一月より二三月が暴騰期となり夏は七八月が暴騰する意義を有してゐる。而して年末は區々の變化と上下を來して一定せざるも土地家屋の如きものは冬期に至り騰貴するの年柄である。

◇……◇

株式、期米、綿絲、生絲の諸相場は上半期は極めて順調に進展し其の内一二三月は株式の進展目覺ましく續いて生絲の暴騰となり期米綿絲も高く活況を呈する事になる。而して夏は期米の大暴騰となり續いて綿絲の活躍となり株式生絲も高い事になるが、生絲は秋から冬へかけて人氣示はず目立つ活動はないものと見て宜しい、然れ共綿絲は年末暴騰の義を含んでゐる、而して家庭必需品から總ての物は大第高となり商勢活況を添へる事は確實の年柄である。

次に農作物は國民生活上の重大使命を有すると同時に之れが豐凶如何を觀察すると、當年の作柄は稻作は陰陽の理に支配されて始めは誠に不良の意義を發揮する所多く不作人氣に至る傾向あるも實收は相當見直して平年作以上に至るものである、其の内早稻は不良にして中稻は所によりては宜しく晩稻は良となる義あれば晩稻に力を入れて宜しく、而し作ら値は早稻を第一とする。土地は東北に宜しく西南又良作なりと雖も中間地點たる關東から中東路は作柄に變化が多い年である。

◇……◇

更に畑作は春の麥は相當の良作ある義なるも春陽季に作運れの義もあれば遲るるは不作の兆となり不良に至るものである。夏作たる大豆、小豆、粟の類は何れも平年作は下らぬ年で果實類は極めて良收あり。然れ共酢味を有するものは出來不出來を生じ易い。

次に蔬菜は、概して出來よろしく殊に春蔬は良收あり夏蔬は稍不良となり秋蔬は所に依つて變化あるも三期を通して良收となる義であるから春蔬に全力を注ぐ可きである。然る時は値段も宜しく農家の喜ぶ可き年である。

昨年中の臺灣財界を顧る
本島好況の一因には内地の凶作が織込まれたるを忘るな

古賀三千人

本島財界は一昨年を一轉機として多年連續し不況から脫却し始めた昨年は益々好況裡に終始したのである、即ち昨年は七月に颱風雨があつて一部地方に多少の被害を免れなかつたが夫れ以外には殆ど天災らしきものもなく全島的に見て農產物は頗る豐作であつた上に意外の高値で賣捌かれた、就中米の移出高は未曾有の記錄を表はし茶は十年以來の高値で取引された、其他稻實、鳳梨、蜜柑或は地方民の副業とする紙帽に至る迄近年無比の大好況を示した、之等に依つて地方農民に餘裕が出來、一般購買力が頗る旺盛になつたことも當然である、土地賣買の盛んになつたこと、綿布、雜貨等の賣行が活潑になつたこと、信用組合や銀行預金が激增したこと、或は十二月の臺灣銀行券發行高が劃期的の膨脹を示して六千萬圓臺を突破した事などは財界好況化の事實を雄辯に物語つて居るのである、之にも增して喜ばしいことは本島永遠の富源となる日月潭電力工事の完成であつて工業臺灣の第一步を力強く踏み出したことである、近く設立されんとする輕銀工業會社は還て本島工業の花形となるであらうし又最近成業した製紙工業も前途頗る洋々たる趣がある、此外油田の開發、金礦業の發展等々何れの方面を向いても寧ろ樂觀すべきもののなく眞に財界盛運の數字を以て更に多幸ならんとする曙かしき昭和十年を迎へたのである。が爰に深く考ふべきことは禍福は糾へる繩の如しと言ふことで、本島今日の好況化は素より一昨年來の進展であるが、昨年に於て之に拍車を加へるに至つた原因は主として米價の躍進的なる騰貴であつて、又其原因が内地の旱害、大風水害、冷害に依る凶作である、即ち本島好況の原因中には内地農村の大慘狀が多分に織り込まれて居ることを思へば好況なりとて之に陶醉して浮かれ立つ樣なことがあつては極端に疲弊せる内地農村に對して申譯のない次第であるか、苟くも浮華放縱に流れず、折角多年の不況から脫却して漸く常態に回復した本島財界を一層堅實化して非常時突破に貢獻することが肝要であると思ふ

本年の全日本產糖 千八百八十萬擔見込
今後は輸出に進展するやう糖業者の大努力を要す

臺灣製糖會社社長　武智直道

昨昭和九年の世界糖況は依然不振場裡に顯著なる變動を見ずして打過ぎしが、各糖國は過去の減產より增加の趨勢に轉じ前年に比し約百三十萬噸增となり、又消費は北米合衆國の如き未だ回復に至らざるものあるも概して徐々增進しつつありて、此傾向は本年に及ぶものと察せらる、昭和十年度の世界產糖豫想は歐洲大陸に於て甜菜糖の增加を見るべき外に甘蔗糖に於ても又多少の增產を示すに至るべく考察せらるるが、印度始め世界各國が自國糖業の爲めに門戶を閉鎖するの狀勢は漸く緩和せられて砂糖輸出の範圍は益々縮小せられ、支那の如きも廣東政府は砂糖の自給策を要するに至り、三ケ所の新式工場の建設に着手し内一工場は既に製糖開始の運びとなれりと云ひ、又比律賓は對米輸出割當の爲めに其過剩糖の處分に苦慮しつつありて、從來無關係なりし比島の砂糖が東洋方面に進出して來るに至るべき時期も遠からざるべく大に吾人の注目を要すべきものとなれり

顧へつて我國の本年度の砂糖狀勢を見れば昭和七年度の大增產の結果として過三八、九兩年度に於て生產の減少を見たるも本年に於ては再び著しく增產する事となり、其豫想に臺灣千五百五十萬擔、沖繩百六十萬擔、南洋諸島九十五萬擔、北海道其他七十五萬擔、合計千八百八十萬擔、即ち百十二萬英噸にして、前年に比較し實に五百萬擔以上の生產增加となり、一面消費に於ては前年は多少の增進を示せるを以て本年も尚ほ漸增を期待し得べく豫想せらるるも、尚ほ數十五百萬擔を超過する事大ならざるべし、從つて茲に前年の持越糖を加へ多額の過剩糖を生ずる豫定となるが故に、我國本來の關係上臺灣に於ては最早前途の增產は實に困難となるべき故に、我國產糖に今後海外輸出に向つて進展せざるべからざる事となり糖業者の大努力を要する時期が到來すべし。斯くして日蘭會商の如き若くは臺灣、金本位國の對策等のために起るべき影響を避け得らるるものとすれば、先づ本年は國產糖の需給關係に於て平穩無事の新年を迎へ得らるるものと見て差支なかるべきが、茲に我國の糖業が主要產業の一として益々重要性を帶び來れる事は國家產業の立場より見て誠に悅ぶべき事と思はる

株式投資家も國家的觀念で

高砂商店　上田熊次郎

株式相場の華々しい活躍時代は既に去つたと雖も低金利の趨勢には變化がない、現物本位、顧客本位を信條とする私の店では昨年來一部顧客の傾向が現物より長、短期に走り現物から離れるやうになつて來たのは一つは株が反動、波瀾期に入つたからでもあらうが長、短期では株式店と顧客とが兎角利害相反する場合が多くて面白くない、投機よりも投資が堅實であるとすれば資產家としては矢張り採算本位で優良株及將來性のある有望株に投資するより外はない、一流株の利廻り五分五厘に對して預金利息が四分内外では株を買つて預金するわけにも行かない、一九三五、三六年の國際危局に當面しては株式の安心買も出來ない、とは云へ必ずしも戰爭になるとは云へないし日本國民の非常なる決心と用意と努力とは必ずや此の難關を突破し得るものと信ずる、今の非常時には子孫の爲めに計るといふ觀念が薄らぎ國家の爲めにといふ大きな犧牲的精神の下に事業を經營し或は商工業に從事するといふ風に變つて來た、投資家も亦國家と運命を共にするといふ覺悟で投資し或は株を持つべきであらう、本年の株界には斯うした見地から善處すべきで決して悲觀してはならぬと思ふ

本島と南支南洋
投資と金融への正しき理解を要す

有田勉三郎

本島を據點として、南支南洋方面に對し、我國の經濟的發展を策せんとする企ては、中央に於ても、亦本島に於ても官民多年の熱心なる要望であつて、從來これがためには、總督府に於ても多勢有爲の人材を派遣して調査研究を進められ、又少からざる資金を割いて各般の施設をなさるる等、非常に努力せられた所である。又民間に於ても、例へば臺灣銀行は夙に此方面に支店網を張り、又總督府と協力して華南銀行、南洋倉庫會社等を創立し、邦人の南方發展に大なる援助を與へるのである

……◇……

總督府が、此方面に對し與へられた種々の援助は、非常に大きなものであるが、臺灣銀行や華南銀行が捨石として、拂つた犧牲も、恐らくは數千萬圓の巨額に上るであらう、併し、この援助、この捨石があつたために、我國の南支南洋に於ける地步は、今日盤石の基礎の上に立ち、歐米各國と角逐して少しもひけをとらぬ様になつたのである、勿論過去の沿革を辿ると固より一進一退、必ずしも順調の發展史ばかりではない、殊に最近數年に亘る[illegible]、[illegible]其他重要土產品の深刻なる不況は、邦人當業者に甚大なる打擊を與へ、投資額一億を超ゆる是等邦人事業の根蒂を搖かしたのであるが、當業者も金融業者も、克く此の難局に堪へ、一方總督府に於ても、直接間接に機宜の後援を與へられ、相俟て今や難關を突破して一陽來復の春を迎へ得たのである

◇……◇

併し何しろ、海外に於ける仕事であつて、諸般の事情が、内地や臺灣と著しくちがふ、今良い狀態にあるからといつて、決して油斷は出來ない、殊に最近の如く、本邦の輸出貿易の躍進に對し、歐米各國が悲鳴を擧げて居る際、如何なる報復手段に訴へて、邦人の事業に壓迫を加ふるか、豫斷を許さぬ、[illegible]べき時であると信ずる

◇……◇

殊に此地方に對する金融業に就て一言したい、一般邦人の金融業の立前は事業には關與せぬことになつて居る、從て事業そのものが如何に有利であつても、金融業者は利息の支拂を受くるのみであるが、萬一投資した事業が失敗すれば、其尻拭ひをさせられる、天下の憂に先だつて憂ひねばならぬ組織になつて居る、殊に海外に於て金融業を營む場合には、其危險も一層多く、苦勞も何倍か加はる、併しそれはそれで良い、[illegible]、海外發展の如きは到底望めないのであるか、併しそれが營利を目的とする銀行である場合に於て、其異へられた使命と、そして其營利會社たる本體との間に大きな矛盾がある、その矛盾のために何時も苦しめらるるのである

この矛盾を如何にして調節するか、そんなに甘い解決策がある譯はない、當業者が克く其の立場を理解して最善の努力をなすと共に、又必要の場合國家としても相當の援助を與へらるる外はない

[illegible]

產業興隆の根源は南に在り

臺南　栗山新造

宇宙の森羅萬象は、之は若く、吾々祖國の民が、皇祖天照皇太神の御姿なりと禮しあげて居る所の、御日輪！のみ光に照され、はぐくまれて、伸び榮えゆくものであつて、恰も彼の向日葵が、お日様を向いて廻るやうに、吾々人類も無意識的にお日樣の方を向かうとする、本能を持つて居るものである

×　×　×

日本國中に北向の和莊が存在せぬといふことも、北向の家が現在に陰氣で榮えないと云はれることも、同一の樹木に出來た果物が、如何なる場合にも、南側に實つたものの方が、大きくておいしいと云ふことも、乃至京都市の發展繁榮が北に向つては絶對に伸びないと云ふことも、その根本原理はみな同じである

×　×　×

この根本の天意を無視して、どんなに大規模の施設をやつて見ても、補助獎勵に手を盡して見ても、それは丁度、海の中にお金をつぎこむのと同樣に、徒らに勞多きのみであるから、都市計畫などを考へる場合には、この深遠なる天意を眞劍に考慮し、企畫の當初に於て、如何に南を活かすかと云ふことを充分に考慮すべきである、若し萬一、グレ的に、此の天意を無視して工作施設されるやうなことがあつたならば、後年に至り其の地方民が泣かされることとなるであらう

×

臺灣の臺北州都會で中心部から北部でも南部の樣に、產業施設に力を盡せ、と云つたやうな[illegible]

[illegible]

本年の米價は政府の方針次第
高値あるも消費は減退

杉原產業北支店長　井出松太郎

一、米價の大勢　凶作尻を受けた本年度の需給關係を見るに相當の消費減を免れないものとして供給不足を憂ずることなきは申すまでもなく先づ一千萬石程度は次年度へ持越となること明白で此の持越見込數量は現在の政府持越と同數であるから今後の米價高低は要するに政府の方針次第といふことになり豫測を許さざるものがある然し乍ら新聞發表された改正公定價格、卽ち最低二十四圓二十錢、最高三十一圓五十錢より之を見るときは年内の三十圓乃至三十二圓五十錢の往來相場が新春に入りては三十圓五十錢中心と伸び悩み[illegible]五十錢見上り糶を買ひ咋春初夏の頃に至り一度は三十三圓五十錢位の高値出現すべきにあらずやと思はる

二、臺灣米は蓬萊、昨年一期蓬萊の移出意外に多く移出力三百萬乃至三百五十萬袋と見込まれ内百五十萬袋近くは昨年末までに移出されて結局半數を本年に持越されたわけだが最近時價大陸倉渡の九圓七十錢は内地朝鮮米と比較して好値といふべきで政府持古米の拂下げに壓迫され易いとは云へ一期米の多收高値で[illegible]

[illegible]

亥歳の米價は最高價を突破せん
古米だけでは調節力なし

加藤商會支店長　曾根秀之介

昨年後發表された最高公定價格三十一圓五十錢は昨年最高價格に比し一圓上げに過ぎなかつたが、政府の所有米一千萬石が今や古米となり九年產米は僅かに買附への分四十萬餘石に過ぎない、政府が公示した古米格は一圓五十錢以内とあるが、一圓餘りの格では古米の處分が出來さうもなく[illegible]九年產米を多く抱擁し臨時に之を賣却するのでなければ米價調節に威力を發揮することは出來まいと考へられる、最高價格に據差をみて米の採算點は三十三圓位になるが、政府の古米拂下値と格付からみて正米が三十三圓になり期米が三十五圓迄上ることはあり得るやうに思ふ

[illegible]

株式は依然採算相場時代

田俊吉

[illegible]

謹賀新年

野口敏治

松岡一衛

赤司初太郎

後宮信太郎

木村泰治

阿部吟次郎

大島卓爾

近藤有曾

田中勘次

中辻喜次郎

江原節郎

高橋猪之助

臺北辯護士會員

岩本喜之助 臺北市永樂町一ノ二 電話三八一番

石堂明治 臺北市蓬成町一ノ一四 電話一〇〇四番

堀田眞猿 臺北市太平町一丁目 電話二三九五番

知念政信 臺北市蓬成町一丁目九五 電話三二四八番

陳有輝 臺北市元園町一〇 電話一六九五番

陳逸松 臺北市太平町一 電話四三六二番

李瑞漢 臺北市永樂町二ノ五九 電話三五九六番

岡野才太郎 臺北市蓬成町二ノ三 電話一〇二六番

渡邊里樹 臺北市京町四ノ一〇 電話四二九番

金子光太郎 臺北市末廣町三丁目七 電話八六六番

川村淳 臺北市表町二丁目五 電話三五〇番

金子保次郎 臺北市下奎府町一ノ二五〇 電話二八六〇番

神村三郎 臺北市永樂町一ノ四八、四九 電話四二六六番

横山市治 臺北市太平町二丁目九二 電話一四八九番

古江潤國 臺北市京町二ノ二二 電話三五九番自宅二九九一番

鼓包美 臺北市太平町二ノ四五 電話四九番

土屋理喜治 臺北市大和町一丁目二 電話三三六番

永山章次郎 臺北市大正町三ノ二〇 電話二四八〇番

長尾景德 臺北市蓬成町二ノ五 電話一四九八番四九一番

安則三之助 臺北市下奎府町一丁目六 電話二五二九番

桝見良作 臺北市蓬成町壹丁目九貳 電話八六七番

松本安正 臺北市東門町壹五八 (若松安藤) 電話四參四壹番

古屋貞雄 臺北市京町四丁目參番地 電話貳九九八番

小山隼太 臺北市下奎府町壹ノ貳六八 電話壹五六番壹七壹番

小宮元之助 臺北市本町四ノ七 電話四四四番

吳鴻麒 臺北市蓬成町壹ノ九貳 電話四壹九四番

黃士譽 臺北市下奎府町壹ノ壹五〇 電話壹八〇六番

榎木田泰輔 臺北市北門町壹四 電話四四四八番

潁川增福 臺北市本町四丁目七、八、九 電話參八九〇番

安保忠毅 臺北市下奎府町壹丁目壹六八 電話壹五六番壹七壹番

有水常次郎 臺北市下奎府町參ノ壹〇 電話壹四四番

蔡式穀 臺北市太平町貳ノ九貳 電話參四壹六番

木村長十郎 臺北市大和町四丁目八 電話四四貳番

蓑和藤治郎 臺北市古亭町壹四 電話五〇貳番

三谷仁思 臺北市末廣町四丁目壹 電話五七六番

周延壽 臺北市太平町四ノ七 電話參四七參番

蕭祥安 臺北市北門町四 電話參參七五番

井川正直 臺北市蓬萊町四四 電話貳八參七番

檜垣元秀 臺北市下奎府町壹丁目壹六八 電話壹五六番壹七壹番

(いろは順)

帽子和洋雜貨商 東京式履物

大倉本店

臺北市榮町二丁目三角 電話六五九番 振替九九〇番

和洋雜貨 婦人小間物 牛乳 化粧品商

小島屋

臺北市榮町二丁目 店主 小島伊三男 電話參四七番

處方箋調劑 計量器特許販賣 藥酒特許販賣 新藥賣藥 各種滋養強壯劑 醫、化學用藥品 工業用藥品 醫化學用器械

皆々樣ノ家庭藥室トシテ 益々内容充實セル

ヒラノ藥局

ヲ此上ノ御利用御願申上マス

局主 藥劑師 平野文男 電話參八七六八番 振替四八〇八番

臺北市京町三丁目

高進商會

電話三二八番 二〇八番

賀正

(東光)

藥品 工業藥品 石鹼原料 清涼飲料水原料 諸工業原料品 脫臭魚油 農藝藥品 グリセリン 洗濯石鹼 化粧石鹼

東光株式會社

本社及工場 臺北市綠町三丁目 電話四〇二三五二番

大阪藥品部 大阪市西區京町橋 南海西粉ビルデング 電話一九四五八五五六番

臺南藥品部 臺南市港町一丁目 電話一四六番

龜甲萬醬油販賣株式會社

本店 臺北市本町三丁目一番地

出張員 臺南市白金町三丁目百五十番地

臺北寫眞業組合

臺北消防組

本町 電話三〇〇〇番

大稻埕 電話一六〇〇番

萬華 電話一五〇〇番

臺北市表町二丁目十四番地

臺灣煉瓦株式會社

松山工場 嘉義工場

圓山工場 臺南工場

新竹工場 高雄工場

臺中工場 宜蘭工場

日本石油株式會社

臺灣鑛業所

臺灣製油所

臺北販賣店

臺北市大和町二丁目八番地(電話八二五番)

社團法人 **臺灣土木建築協會**

日華紡織株式會社臺灣苧麻工場

臺北市大安 電話二七四番 電話二二〇一番

臺北市上奎府町三丁目二番地

日本食料工業株式會社臺灣支店

電話 八八四番 二一五五番 二四五番

本社 東京市麴町區丸ノ内二丁目二番地

管内出張所及工場

基隆出張所(八五番)

高雄出張所(貳五參〇番)

臺北工場、臺北萬華工場、基隆工場、基隆双葉町工場、臺中工場、彰化工場、嘉義工場、臺南工場、臺南鹽埕工場、高雄工場、高雄湊町工場、屏東工場

臺北市末廣町三丁目四番地

臺灣合同電氣株式會社臺北出張所

電話八七五番

澄宮さまは今冬 宮家を御創立
御成年に達し給ふ日に

陸軍士官學校に御在學中の澄宮崇仁親王殿下には新春を迎へさせられて御年二十一にお成り遊ばされ、今冬には御成年に達し給ふので、皇室成年式令の御定めにより今年十二月二日のめでたき御誕生日を以て畏き邊りでは殿下に特に宮家を御下賜、一家を御創立せしめられることと承はる、殿下には今春陸軍士官學校御卒業の上は士官候補生として騎兵第十四聯隊に御勤務、次で今秋には陸軍騎兵少尉に御任官あらせたまふのである、なほ畏き邊りでは御任官と共に大勳位に敍させ、菊花大綬章を賜はる筈で、宮家御創立の上は現御養育掛長田内三吉氏、御養育掛十亀保太郎、御用掛山尾三郎の宮家職員の諸氏は引續き新に別當事務官を置かせたまふことになると承はる（寫眞は澄宮殿下）

輝かしきけふ元日に 早大、鐵が晴れの會戰
勝敗の鍵は渡邊の肩と 鐵の强打主義の煥發力

輝かしく明け渡つた昭和十年の新春……明朗な元旦を迎へ臺灣の杜は靜かに、その流れは清らかに、清浄の空氣は圓山球場に立籠めてゐる、けふ早大對鐵團の會戰の日だ、昨日臨時列車の豫であつた早大對鐵團の對抗戰が降雨のため取止めとなつたので、けふの快戰が鐵團の戰ひとなつたわけである、兩軍共未だ絶えて交へないため

素敵 の狀態に在つて各々秘策を練らしてゐるが、早大軍の陣容は固きに據れるが如く、投手陣は主戰投手渡邊に新鋭矢原、手島、永田を配し、剛球大下の快投を或ひは望み得るかも知れない、捕手陣は强肩猛打の山本に嶋、一壘太田、二壘小島、三壘佐武、遊擊吉澤に外野の長野、永澤、横山といづれも無敵の健將を列ね、强力打陣を構成せる所は一應鐵だつた早大軍のコンデションを觀るに最後の練習を圓山球場で行ひ、高須、佐武、鶴岡、小島、長野、永澤など中核打線の當りは好調で皆んなワン・バウンドで左翼、右翼と痛烈の大物を飛ばしてゐる、守備方面では二壘の小島、遊擊の高須、三壘の佐武と輕く球を捌いてゐたが後陣の二壘今木、遊擊白川なども輕妙な態勢の强肩に守り正確な二壘投球は鮮かで一壘太田の守りも鋭いが後陣としては捕手の鶴岡がその打力を生かして一壘に入るものと見られる、打撃も高須、佐武、鶴岡、小島、長野、永澤と配して七番、八番を捕手と投手、ラストを横山が打つもののやうに思へる、いづれにしても新年度早大軍のレギュラー・メンバーを構成する上の資料として若干試されるわけだ、これに對し鐵團は正々堂々の陣を張つてマウンドには大宮渡邊を送り、捕手は山木と木村の中

打力 の好調にあるを起用せしめ、三壘は三山の出場を望み得べく、一壘は本多、二壘は堅實な川島、後陣に飯田を配し遊擊は輕妙の日立、外野は强打内山の缺場は痛手であるが、老巧永田、才木、三浦に新進大川を配しての固めだ、戰局は如何に展開するか？いづれにせよ、一方にて鐵團傳統の力たる打力が早大の投手力を沒殺せない限りは不利の戰ひと見るべく、他方、鐵團の重大な危惧は渡邊を輕打し得る好リリーフ投手のないことである、若し渡邊不調の場合、或ひは六回以後に脆弱さを見せるやうになつた渡邊が

不利 の狀態に陷つたときの救援投手がないだけに鐵團の打力は之を充分補整せねばならないわけだ、日立、川島の好打、本多の强打、渡邊の剛打、三浦、三山の猛打に永田、才木などの渋い當りに氣銳の大川を加へた鐵團の打線は老巧さを待つだけ强振一本槍を慎んで堅て主義に行けば若い早大の投手團の要點中のものとなるやうなことはない、勝敗の鍵は渡邊の肩一つと、それを補整する鐵團傳統の强打主義の煥發力の如何に懸かつてゐる

戰ひを前に ―兩軍主將語る―

審判員
【球審】飯島 【壘審】大浦、山口、井ノ邊

ベンチ
一壘側 鐵團
三壘側 早大

ベストを盡す 福田早大主將

そぼ降る冬雨に濡れて二時間餘の猛練習をなした早稲田軍の主將福田君に、明日の心境を叩けば、紅潮した雙頰に汗の珠をひきつつ語つた

お天氣がこんな具合ですからグランドが惡く充分な練習、殊に遠目がきかなくて打撃の練習が思ひきりやれなかつたのが心殘りです

明日は愈々鐵團とですが、昨日今日と身體の休養は充分にできましたから今は全員ベストを盡して對戰する丈です、お天氣になつて呉れればいいですが……試合上の指導ですか、それは私がやります

と打撃早大軍の總師福田君心持ち眉をひそめる

いかなる方策が福田君の固い大きな胸に秘められてあることかともあれ同君の元氣は自信たつぷりだ

飽まで頑張る 才木鐵團主將

三壘側スタンドに、ネズミ色の外套を着け早稲田選手の練習を熱心に見守つてゐる才木鐵團主將を打診すれば、時折り巧いですネーと感歎しつつ左の如く語つた

内山、波戸両君の缺けたのは打撃ですが、皆な張り切つて元氣一杯な練習を續けることが出來ましたから、渡邊、熊共、小松の投手團の好調と相俟つて、愉快な試合ができると思つてます、主將才木と主將君には遠ひないでせうが、飽迄頑張つて喰ひ下り、機を得れば勝運を摑む丈の自信は持つて居ります、それに皆な當つてゐますから或る程度までは打ちこなすことが出來ませう、氣分は斷じて引けを取らない心算です

早大對鐵團第一回戰
午後一時半から圓山球場で

元日、二日の放送

―一日―

【六・二〇】明治天皇御製謹話（東京）第一日―子爵石井菊次郎 引續いてラヂオ體操（元旦より以降ラヂオ體操は年中無休）お天氣のお知らせ

【七・二〇】全國氣象通報（東京）臺北觀測所發表

【八・〇〇】吹奏樂（臺北）君が代 臺北音樂會、指揮細田榮重△年頭の決步（臺北）堀田朋△奉祝唱歌（臺北のみ）一、一月一日、二、君が代 臺北第二高等女學校生徒△奉祝唱歌（臺南のみ）一、一月一日 二、君が代 臺南市南門小學校兒童

【一一・五九】正午の時報 氣象通報（臺北のみ）臺北觀測所發表 放送局編輯ニュース 演間娯樂時間（レコード演奏）一、長唄「補島」唄―松永和風、三味線―杵屋五三郎、上調子―杵屋勝吉四、唄物―梅屋勘兵衛社中 二、箏三味線合奏「七福神」箏と唄―今井慶松、三味線と唄―若柳子松風 三、三曲合奏「御代の祝」（宮城道雄作曲）三味線―宮城道雄、箏―牧瀬喜代子、尺八―矢坂鈴山、唄―牧瀬數江 四、三曲合奏「里の曉」（松浦檢校作曲）尺八―吉田晴風、三味線と唄―吉田恭子 内臺間定期航空臺大連時刻と接續列車時刻のお知らせ―鐵道部運輸課發表

【一・二〇】野球の中繼（臺北）臺日主催早稲田大學招聘野球大會第一日：早稲田對鐵團第一回戰 臺北市圓山野球場より中繼

【五・〇〇】子供の時間（東京）

【五・二〇】コドモの新聞（東京）

【五・二五】講演（東京）年頭の所感―岡田首相

【六・〇〇】子供の時間（臺北）兒童劇 くらげのお使（臺北愛國兒童會）

【六・三〇】詩吟（東京）大麻博之

【六・四五】長唄（東京）遊囃子 唄 芳村伊十郎、三味線 杵屋榮藏

【七・二五】常磐津（東京）子寶… 語―常磐津文字八、三味線―常磐津松尾太夫

【七・四〇】義太夫（東京）伽羅先代萩 中村歌右衛門、大谷友右衛門、澤村訥子

【八・三〇】時報（東京）

【八・三二】謠曲（臺北）羽衣…吉見嶺外四名

【九・〇〇】和洋合奏（臺北）長唄

【九・二〇】氣象通報（臺北觀測所發表）放送局編輯ニュース（臺北のみ）

―二日―

【六・二〇】明治天皇御製謹話（東京）第二日―明治神宮宮司有馬良橘、ラヂオ體操、お天氣のお知らせ―臺北觀測所發表

【七・二〇】全國氣象通報（東京）

【七・四〇】實況中繼（熊本）鹿兒島縣阿久根の鷄の實況

【九・二〇】講演（新京）年頭の辭 南滿洲大使

【一一・五九】正午の時報、氣象通報（臺北のみ）臺北觀測所發表、放送局編輯ニュース、演間娯樂時間（レコード演奏）ピアノと管絃樂 一、ピアノ協奏曲、變ロ長調（モーツアルト作曲）ピアノ―アルトゥール・シュナーベル、管絃樂ロンドン交響樂團、指揮ジョン・バルビロリ 第一樂章アレグロ及カデンツア、第二樂章ラルゲット、第三樂章アレグロ及カデンツア 二、フイデリオ序曲（ベートーヴェン作曲）英國放送協會交響樂團、指揮ブルーノ・ワルター

【一・〇〇】氣象通報（臺南のみ）臺南測候所發表

【一・二〇】野球の中繼（臺北）臺日主催早稲田大學招聘野球大會第二日：早稲田對CB團第一回戰 臺北市圓山野球場より中繼

【五・〇〇】子供の時間（東京）童話劇「輝く日本」東京童話劇協會劇團五十二

【五・二〇】コドモの新聞（東京）

【五・二五】講演（東京）猪に因む話…猪と新人 西岡英夫

【六・〇〇】子供の時間（臺北）お芽でたいはなし…長谷部川義親

……笑ひの夕べ……

【六・二〇】落語（東京）二番煎じ 三遊亭圓生

【六・五五】二人漫談（大阪）僕の家庭…横山エンタツ、同エノスケ

【七・二五】新作浪談（東京）樫本傳一、二村定一

【七・四〇】落語（東京）はなしが出る…林田五郎、柳家金三

【八・〇五】萬歳（大阪）芽出度目出し

【八・三〇】時報（東京）

【八・三二】箏曲（臺北）一、明治松竹梅 二、紅梅の曲…川井良都、中山喜世子、有馬光子、中村辰男

【八・五五】常磐津（臺北のみ）一、高砂松 二、勸國、池邊館（岸澤古民作曲）常磐津―岸澤古式美、同梅本梅吉、三味線 岸澤古民、上調子 梅本梅路

【八・五五】常磐津（臺南のみ）新君が代 唄…長唄（臺南のみ）浩姫 唄―菊葉

【九・二〇】氣象通報、臺北觀測所發表、臺日ニュース（臺北のみ）放送局編輯ニュース（臺北のみ）

活況を豫想さるる 二日の初荷
農村景氣を反映して

昨年末の島内市況は米の增收好値と一般農産物の好況による農村景氣を中心として近年にない活躍を示し、問屋筋の賣掛け回收順調にして且つ賣上高を增し、本島人側に需要多き味の素の如きは昨年上半期の二割增に對し下半期は三割の增加を告げ、數量では三割六分の增を示し、又臺中文園油販賣會社の昨年中賣上高は一斗樽に換算して十萬挺に達し、一昨年に比し一萬挺の增加を告げたるなど、主に農村景氣の反映とみられてゐる、此農村景氣は本年に持越され新春の市況は舊正を控へて地方農村の購買力を刺戟し相當活況を呈するものと期待され、從つて問屋筋の意氣込み旺んで島都二日の初荷は昨年以上の賑ひを豫想されてゐる、即ち主なる會社、商店の初荷は次の通りである

▲一六軒 新高製菓の初荷は二日午前七時半古亭町工場より樂隊付自動車二臺を先頭に貨物自動車十數臺にバナナキヤラメルを満載して出發、市內各取引先へ配送する、本年は初荷の行列を所々で止めて市內のお子供達にお年玉としてキヤラメルを進呈すると

▲原田商店 老松町の同店では二日午前八時樂隊を先頭に十三臺のトラックに龜甲又、龜甲萬、ヤマサ、ノーヒール、菊正宗、どりこの等を滿載 市內各取引先へ初荷出しをする

▲森永製品販賣會社 二日午前八時自動車にて森永キヤラメルを始めビスケット、森永チョコレート、ミルクドロップ等を各特約店へ配給する

▲東光株式會社 綠町の同社では二日午前八時化學工業用藥品約三千噸及ラーピー化粧石鹸、東光石鹸、藥入化粧石鹸等をトラック數臺に積み市內及各地方へ初荷出しを爲す

▲神木洋行 クラブ化粧品御使品宣傳の爲五十錢以上賣上の顧客に映畫とレヴュウ大會入場券を進呈、商業用各大榮商品を初荷として新年正月に二千柳、美顔化粧品の小賣新柳附、高級化粧品の動畫池邊の御大顔附特賣各五百柄を出し近年に類なき初荷盛況振りを期待されてゐる

▲十一屋 化粧品卸部では四日市內へ、六日地方へ向けウテナ化粧品の昭和十年度の特賣品とマスター化粧品の新春特賣品とを各取引先へ初荷として配給する

▲西川化粧品卸部 二日午前中にヤマニホーザン石鹸を始め各化粧品を市內取引先へ初荷として配給する

春興行

春興行として榮座では元旦から十日迄曾我廼家五郎の喜劇を上演するが、常設館を初め本町の空地に設けられた小屋も一齊に開場する

宮中の歳旦祭
聖上陛下御靜養の爲めに 御代拜を以て行はせらる

【東京三十一日發】輝く昭和第十の春を迎へさせ給ふ宮中では一日四方拜及び歳旦祭の御儀式を行はせ給ふ筈になつてゐるが、天皇陛下には御風邪後の御靜養のため御親拜に四方拜の御儀は御取止めの旨仰出されあらせられ、歳旦祭のみ御代拜を以て行はせらる、初春の黎明さしそめんとする午前四時、神宮に於ては第一殿を大臣として祭主二條西、菊田神宮大、少宮司以下神官、神職、内宮職員に參集し、第三殿の合圖にて諸員は順々と昇殿し大神宮内院に參進、伶人の奏でる奏樂裡に正宮大御前に神饌をはじめ海山種々の幣を獻じ、嚴かな祝詞を奏し、新しき年の始めを祝ひ、國運の隆昌を祈り奉る

神宮歳旦祭

【宇治山田三十一日發】新春の陽を浴び神路高倉の山々に…御内儀…奏らる

三ケ日のお天氣
上々吉ではないが 懸念する程でない

臺北觀測所の打診による正月の天候は上々吉ではないが、しかし、さして懸念する程の悪模様でもないらしい、既ち三十一日正午の觀測によると七百七十八ミリの高氣壓は満洲に盤踞し、七百五十六ミリの低氣壓は九州の西部海上にあつて日本海方面に進み、次第に發達する模樣である、三十日東支那海上で發生した小低氣壓は九州方面に去つたのであるが、元日は北東の季節風が稍强く曇り勝ちで時々小雨の模様である、この天候は二日も同様で、三日には更に少し惡化するらしいと、然し今發生されてゐる小低氣壓が發生せねば常夏らしい春日和の正月を迎へることにならうと

總督官邸や 長官官邸を歷訪
きのふの早大選手

早大野球部選手一行は三十一日午前十時から本社社會部長佐藤、瀧川兩本社員の案内で總督官邸、長官官邸、本社を訪問した後市內を見學、午後一時からは圓山球場で練習を行つた、長官官邸では平塚長官と山本部長は膝を交へて昔の野球漫談やら元旦の始球式の話などで思はぬ時間を過したが、長官は

僕の投球はどの方向に轉がるかわからないよ

など戯談を一くさりやつたので選手連も思はず大笑した

平塚長官を訪ねた早大軍一行

劉、孫の部下が 呼應して兵變
停戰地區に亂入の虞あり 我軍は成行を監視

【北平三十日發本社特電】數日前北平南方良郷にて反亂を起せる劉桂堂部下約三百名は中央軍及び萬福麟軍の一部と交戰しつつ通州に向ひつつあり、これと呼應してチヤハルトの省境に於て孫殿英部下楊中少は約一千の兵を率ゐて二十九日兵變を起し、宋哲元と交戰中で停戰協定地區に亂入する懼れあり、我が軍部では事の成行きを監視しつつあり事態惡化の折は適當有效な處置に出る模様である

萬華の巡査斬り
今年も暮るる大晦日の夕 新莊郡警察課へ自首

臺東の臨時所へ入所中…臺北市龍山寺町二の一七○支那人（二一）と不義の快樂に耽つてゐたのを發覺して不義者を殺害せんと決意し先發の位牌を焼き拂つて萬華新起街西盛三〇二、○○（二〇）は勇敢な自警防犯係の巡査に瀕死の重傷を與へた後更に折から不在中の吳文德が事件發生の十四日以來今日ケ月に亘り州刑事課、直來刑事、防犯方面を擧げて行方を捜した臺北州警務部が苦心して犯人を探しいでゐた所三十一日午後四時新莊郡警察課に自首した、身柄は直ちに臺北署に送行され取調べを開始した犯行後第一水門から砂利船で向ふ岸に渡り海山郡鶯子歌及新莊郡西盛附近の甘蔗畑を轉々してゐた模様である

新羅丸坐礁 釜山港口で

【釜山三十一日發】三十一日午前零時十五分釜山出帆の臨時關釜連絡船新羅丸（三〇二五噸）が正月歸りの客二百八十名を満載し一時頃釜山港口第二灣岬附近に差掛つた際、大吹雪と共に坐礁し、多數船客は大動搖し立となり、暗夜の海上に大混亂を來し、救助により若干の負傷者を出したが人命には異狀なく多數汽船出動引卸し作業をなせるも效せず正午再びの時を期し再作業の筈である

天右春興行 萬華芳明館で

新春の興行界は例年映畫方面は相當のものを上演してゐるがこれに比し演劇方面は寂寞たるものがあつたが今年は阪神地方で人氣のあるサトウ天右一行のボードビル劇團が來臺することになり好劇家を喜ばすこととなつた、新舞踊、ジャズ、ダンス、オペレッタ、獨唱、寸劇等の内容で一行は三日來臺、六日より萬華芳明館で蓋を開けることになつてゐる

水原選手らが 醉つて暴行
奉天署で取調

【奉天三十日發】リンゴ事件と麻雀騒動で新聞を賑はした元慶應野球選手水原茂、唐田四郎兩君等の慶應偶像選手鑛物局務吉田光穀君等に對する傷害事件が二十九日奉天署から奉天地方法院に提出された、事件は去る二十四日奉天到着の當夜二十四日のクリスマスに何故かでメートルをあげた一行七名は夜十二時明星ダンスホールで他は憲兵隊員だと稱して鮮人自動車運轉手柱枝（二七）の頭部をウイスキーの瓶で毆り三週間の重傷を負はせ更に三浦憲兵隊長と居合つてゐた某新聞記者島某に喰つてかかり、傷を負はせたものである、被害者一名より告訴されると同時に奉天領事館で嚴重取調べ中である

高木正年翁 昨曉逝く
第一回總選擧以來の代議士

【東京三十一日發】民政黨代議士高木正年氏は去る二十五日の議會にて新衆議院議長に對する挨拶演説の爲め風邪を冒して出席した爲め途に急性肺炎を發し、二十八日以來赤十字病院に入院療養中であつたが容態惡化し三十一日午前六時五十五分途に逝去した享年七十九、氏は東京府の生れ、明治二十三年第一回の衆議院議員總選擧に當選して以來當選十三回、盲目ながら議員の職務に熱心なることで知られてゐた、これで第一回總選擧以來の代議士は尾崎行雄氏一人となつたが衆議院における最年長者で又黨派の區別なく全院の尊敬を一身に集めてゐた（寫眞は高木正年氏）

元旦より特別公開 晝夜二回興行
河の上の太陽
高田稔 小杉勇 江川なほみ 瀧花久子 主演
月形龍之介 鈴木澄子 尾上菊太郎 競演
若衆影繪
萬華芳明館

喪中に付き御年始御遠慮申上ます
新竹市東門 福田調髮所

喪中に付き御年始御遠慮申上ます
新竹市北門九八 新泰春吳服店

謹賀新年

安保忠毅法律事務所
臺北市下奎府町壹丁目六拾八番地 電話二五一七番

昭和製糖株式會社玉井製糖所
所長 加藤清郎

臺北州文山郡役所
吉田駛馬

北斗郡 北斗信用組合

中壢郡畜產組合

福長美業社

北斗郡二林庄 貸地業 陳老多

西螺街役場

西螺信用組合

虎尾郡水利組合

二崙信用購買販賣利用組合

西螺街 李錫禧

虎尾郡 榮成農場

廖泰憲

西螺公醫 瀨上醫院

廖承丕

彰化市 郭脳

博愛堂藥房 彰化市北門二五二番地 電話二〇番

彰化市協議會員 公莊勝三郎

彰化市協議會員 近藤進之助

彰化市 永野種伊

彰化市協議會員（順序不同）
松崎嘉市 中口金作 山口德治 吳上花 陳英方 呂世明 林文章 林有信 杜錫圭 吳蕎秋 張日昌 巫金山 針原幸次郎 黃銀漢

秀水信用購買販賣利用組合農業倉庫
彰化市西門五八番地 李崇

文物整備島民悉沐皇化

須更發揮皇國精神

中川總督新年詞

吾等迎來島。今復迎來年初春。首向東方。恭祝聖壽萬歲。復祝全島官民各位幸福。回顧所以。回顧帝國建有光輝三千年歷史之迹。而思國體愈尊嚴。感謝享生于此金甌無缺。天壤無窮大八洲國之幸福而我等祖先。以皇室爲中心。乃築成今日之國運。考其歷史之跡。實其新銳意氣。溯國難制。此實我大和民族。獨于新年。感得爲特權。當此歲首。回顧過去。並對將來。痛感要更加一層新銳元氣。發揮我皇國大精神。至宣揚國威。本島精明。治天壽御稜威。歸隨版圖。已閱四十年。歷歷代天皇御惠澤及先輩官民各位。上下一致努力。一切文物。制度整備。闔島士民。悉沐皇化誠如鼓腹擊壤之世。不勝同慶。然固不以此爲滿足立于此四十年之一紀元。以過去有光輝四十年致基礎。而新展望將來之四十年。本乎本島統治之根本方針。以奉報皇恩于萬一貢獻于國運之隆盛。而對躬進島民福祉之精神的經濟的。講求各般事業施設期收成績。今也。列國形勢。極形緊張。若一步有誤。惹起世界的禍亂危機處于此間之帝國立場。誠重且大。無須待言。就中我臺灣。乃帝國南門之鎖鑰。而在經濟發展礎石之地位。至整其任務之重大吾等島民。須全一致協力發揚國民精神。充實國力勿辱東洋平和保障者之使命。余于此歲首。觀過去之歷史。而想將來所繫責任極大。乃于此機會。希望一般官民諸位之協力賛助不已也。

帝制實施後一年中

外交內政咸舉佳績

謝滿洲國外交總長新年詞

物換星移。新年復屆。回顧客歲。帝制實施後。民心日見安定。國基全形鞏固。南美薩巴路共和國。繼日本帝國。承認我國。羅馬敎王。亦將滿洲布道區獨立。與中華民國分離外交方面。重要事件之北鐵買收交涉。相互接觸。重見紆餘曲折。幾瀕于決裂。幸賴帝國。日本幹旋之力。機續折衝。日趨于接近。其他美國記者視察團。英國產業調查團等。相繼而來。實地視察新國家眞相。法國派遣經濟代表。提議開始貿易。法國商與滿蒙合資。欲經營物產。此皆過去一年間我國之好現象也。然其占歷史上重要一頁者。爲地方制度之改革。我滿洲國建國以來。一切法制。殆據舊政權時代之舊規。對新國家之施設。殊不適宜。且反于新國家立法精神。於是政府。設立地方制度調查委員會。經愼重考察。于客年十二月一日。實行地方制度改革。以利施政以原有四省。依地理形勢及歷史沿革。分爲十省。中央已易統轄。地方亦便政治。從前舊政權時代所遺留一切制度。由是永遠消滅。其弊政弊端。亦以是掃盡無遺。人民耳目一新。國家之氣象大振。自是以來。王道大事。實現樂土。此即將來最可慶賀之事也。然而一九三五年國際問題。最爲困難時期吾人旺應世變。責任彌知際此元旦。益須自勉。

小野巡査問題

徹底糾明

雖犧牲亦滿足

玉里支廳小野巡査事件。去二十八日。警務部。發表經過。而事件發生地之花蓮港廳。亦同時發表。據當時任搜査之某氏。所談如左。

觀今等之搜査方針有誤。亦屬不得已。我等己有覺悟至判明時引責。當初我等搜查結局。在警務局。謂全無一顧之價値。且根抵否認。出以如斯態度。殊甚遺憾。今更改變陣容。徹底的糾明眞相。我等雖犧牲。亦十分滿足也。

志賀氏墓前祭

大甲街。教育界功勞者。故志賀哲太郎氏。今年恰逢逝後。十週年。由街有志發起。於去二十九日午前十時。在鐵砧山脚山館氏之墓前。舉行十週年墓前祭。參列者官界教育諸團體。計二千餘名。有祭文輓詩花環輓聯等。燒香頂禮。式畢散去。

早大鐵團初回比賽

本日在圓山球場

卅一日訪問總督長官等

既報本社所招聘之早大野球部選手一行。二十九日抵臺北。於按三十日午前中。向各方面敍禮。後爲乘船疲勞。是日在蓬萊旅館休養。三十一日午前十時頃訪問總督。長官兩官邸。及到本社敍禮。午後休養訂本元旦。與鐵團。行第一回比賽。是日兩軍。鐵團在一壘。早大在三壘。又去二十九日降雨。至三十日太歇。早大對專賣比賽。因圓山球場未乾。不得已中止延期。期日俟協議後定之。似在十二日以後云。

馘首老番

原因蕃女失踪

屏東蕃社爭鬪

屏東郡下兩蕃社爭鬪事件內容尚秘密。據所探聞去二十八日午前八時頃。有加蚋社蕃人數名。赴管內山中。途遇草埔粉社青年阿貝十數名。突被襲擊北者走脫。有七十餘歲老蕃。及其長男。被其馘首而走歸番丁。即與全社蕃人齊執武器。欲往復讐。此時駐在所員接急報。馳到現場鎭壓。一面急報于郡當局。森課長入山。慰撫全番社。從事搜查加害番人。未幾逮捕。送還首級。於是一時激昂之番情始歸平靜。其原因未明。右似內草群粉社蕃女儒沙二十五日往加儒社溪附近耕地。爾後不知去向。故疑加儒社蕃人所爲。出爲復讐。又加害蕃人等三十餘名。去二十九日。押之下山。至三十日經森課長等。嚴重查究中云。

羅東

元旦諸式

羅東街。本一日午前九時。在羅東街役場。遙拜新年祝賀會羅東小學校。有御眞影奉拜式而名刺交換會。即訂午前十時開于羅東公會堂也。

我國廢棄條約

美視爲新發生事態

將爲極東政治問題

二十一日東京電。美國以我國廢棄華盛頓條約。視爲發生新事態。爲此對抗意味。對明年再開倫敦海軍會談。或提起極東政治問題。前頃按斯代表。對松平代表以非公式言有此意之事實。外務當局。關此點亦警戒美國態度。然美國提起極東問題表面理由以華盛頓條約。于大正十二年。與九國條約同時簽印者。兩者有關聯此點我外務當局。抹殺美國見解如左。

一、我國之通告。乃出于欲達新軍縮協定之目的

一、尊重九國條約。對中華門戶開放。我心希望英國亦經理解。

一、將現在九國條約補强或再確認之提案。我國亦參加。然對中華問題與歐美諸國論戰。我國絕對不得承諾。

條約廢棄

中華憶測

三十日上海電。中華各方面。對我國之廢棄華盛頓條約通告。以爲日本于極東。欲制霸之一段階。對中華前途。甚抱不安。綜合各方面意見如左。

日本之華府條約廢棄通告。聯盟脫退。滿洲事變。天羽聲明。在滿二位一體制實施。乃日本于世界挑戰一貫之政策而表示專入他國之意志日本所窺視者。在中華之極全。然條約廢棄之結果。軍備競爭爲必然且以太平洋爲中心。不免惹起第二次世界大戰千九百三十五年之世界可謂危機。

大安溪堤防工事

同藝相妬煽動勞工

包辦者不甘將提起告訴

由住吉組斧札之大甲郡大安溪堤防工事。長三千餘軒。嗣以該工事。付與其配下陳木火氏包辦。金九萬多圓。工事晝夜兼行中可稱順調。因此該組甚器重之。不圖日前爲往竹北募工。竟不知被何人煽動。致一時人夫。嘩然欲散。幸豆子埔警所官吏出爲極力鎭壓。始歸平靜一面警所。以事關風潮。立行追究原因。始知有許某者。受日南某包辦者之託。出爲策動。直即拘在說諭。聞該包辦者。專以此種手段害人。因此陳木火氏。心頗不甘。擬欲提出告訴。徹底與較。以警戒後人云。

蔣氏抵杭

重要協議

三十日上海電。在鄉里奉化靜養之蔣介石氏。二十九日朝。挈同宋美齡夫人乘自動車赴杭州。是日午後一時半抵該地。直入澄廬宿舍。旋與浙江省政府首席黃紹雄及由上海而來之財政部長孔祥熙氏等會見。爲重要協議。孔祥熙氏顧念蔣介石氏。特到杭州者爲最近進行中之對借款二千萬弗所圖報告。並欲受其指示。尋旋于中央西南間之王寵惠氏。亦三十日抵杭州。在蔣、王、黃三者會議。關對西南問題。拉孔祥熙氏之南下問題。必然爲主要議題云。

嘉中學生

別租宿舍

失火一棟半燒

嘉義中學生。別租之宿舍乃市內朝日町四丁目一二家主韮氏森。年二十三所有者。去三十日午前八時半。學生不在中。突由樓上第一室天房上發火。是時市內警鐘亂鳴。伊東署長以下全署員。及消防組員。驅水龍。急到現場撲救。同九時鎭火。一棟半燒。損害二千二百餘圓。發火原因目下嚴查中。

會事

▲新莊郡山脚公學校卒業生同窓會。日前在同校內開役員會協議結果。定來正月二日午後一時起。在該校講堂。開謎會餘興現探偵。舞踊。口琴合奏活動寫眞映寫（夜間）等云

詩壇

乙亥新年書懷　蘇澳　五十嵐海洲

匡時恩遍濟飢窮。年入新正淑氣通。幾點梅花先破臘。既冬節過又春風。

履端長賀仰朝曦。萬戶千門酒滿卮。老我天南成白髮。椒花頌獻聖明時。

乙亥新年感賦　古閩　王良有

爆聲喧萬戶。斗柄轉鴻鈞。客邸陳椒頌。鄉關積劫塵。壁比雙鬢短。容易一番新。信美非吾土。登樓悵憫頻。

元日試筆　新竹　黃竹塘

歲月疾如馳。年增說可知。賤貧人所棄。力命我猶疑。對客常傾酒。尋芳樂賦詩。猶餘情一種。不減少年時。

除夕　李天民

捧觴供老父。咸座憶慈親。酒滿高堂宴。殘宵飮數巡。歷歲錢分子。迎春十種貢。山妻同待旦。萬象更翻新。

謹賀新年

島田利吉

三宅菊次郎

金瓜石　黃仁祥

瑞芳鑛山　翁山英

金瓜石　簡深淵

金瓜石　呂阿火

金瓜石　詹雨田

（イロハ順）

金瓜石水南洞出張所　伊藤勇治郎

今道組出張所　本店 臺北市元園町 電話 [illegible]

石井愛二　本店 臺北市 [illegible]

岡田組出張所　本店 臺北市老松町 [illegible]

田村組詰所　本店 臺北市北門町七 [illegible]

菊池詳三郎　本店 茨城縣日立鑛山之內

高田昌三　本店 茨城縣日立鑛山之內

廣木組出張所　本店 基隆市義重町 [illegible]

東洋鋼材株式會社　金瓜石鑛山出張所

三機工業株式會社　臺灣派出員

基隆郡瑞芳庄小粗坑五番地　金鑛業　金厚利公司　電話一〇番

瑞芳鑛山　黎元醫院　內科 外科 一般 レントゲン 物理治療科　詹添木

基隆郡瑞芳庄焿子寮一一三　臺福公司　王天木

瑞芳庄　庄長 宮川三二　助役 劉尙　會計役 劉港

協議會員 [illegible]

金瓜石　鑛山ホテル　電話基隆壹參六番

瑞芳鑛山　カフエーときわ

御料理仕出し　瑞芳鑛山　朝鮮亭　韓昌國

明けましてお目出度ふ　本年も相變らず御ひいきに……

四脚亭茶業公司　度量衡器販賣者　王文松　本店 基隆郡瑞芳庄四脚亭

公醫　黃烟象

瑞芳驛前　瑞生運送公司　電話八番

瑞芳酒類煙草小賣人組合

增岡與喜千

臺陽鑛業株式會社　瑞芳鑛山調進所　電話貳番

基隆郡瑞芳庄　瑞芳鑛山ホテル　電話貳參番ノ乙

基隆郡瑞芳庄　瑞芳鑛山興業場　昇平座

基隆郡瑞芳庄　瑞芳鑛山　高九登

基隆郡瑞芳庄　瑞芳鑛山　陳天註

基隆郡瑞芳庄　瑞芳鑛山　曾有富

基隆郡瑞芳庄瑞芳鑛山　金鑛業　曾阿茬

基隆郡瑞芳庄瑞芳鑛山　金鑛業　鄭厚重

基隆郡瑞芳庄瑞芳鑛山　金鑛業　林沙云

基隆郡瑞芳庄瑞芳鑛山　金鑛業　張同

瑞芳鑛山　王統

瑞芳鑛山　潘宏水

瑞芳鑛山　余棠林

瑞芳鑛山　郭水生

基隆郡瑞芳庄焿子寮三一七　瑞芳鑛山　林溪土

基隆郡瑞芳庄焿子寮三二七　瑞芳鑛山　張添壽

基隆郡瑞芳庄焿子寮三二七　瑞芳鑛山　謝朝金

基隆郡瑞芳庄大粗坑　振山金鑛部

基隆郡瑞芳庄瑞芳鑛山　金鑛請負業　潘宏德

基隆郡瑞芳庄四脚亭　芳隆鑛業合資會社　代表社員 王文炳

基隆郡瑞芳庄焿子寮一六五　米穀 什貨 雜貨 酒類 煙草　彭勝利商店　店主 彭在

基隆郡瑞芳庄水南洞二七　請負業　許金財

基隆郡瑞芳庄水南洞一六　田村組配下　酒類 食料品 販賣 洋雜貨　葉雲蒼

基隆郡瑞芳庄水南洞一七　請負業　邱石發

基隆郡瑞芳庄水南洞二七　煙草 酒類 日用什貨 化粧品 其他各種　裕豐商會

瑞芳郵便局　佐伯鄉介

金瓜石郵便局　寺師爲內

雙溪郵便局　村田爲廣

基隆郡瑞芳庄　東和採炭公司

瑞芳鑛業合資會社　代表者 沖亮吉　基隆郡瑞芳庄 電話壹六番

平溪庄庄長　渡邊源作　會計役 [illegible]　協議會員 [illegible]

基隆郡平溪庄　春山醫院　春山元雄

瑞芳驛前　元春堂藥房　林全

猴硐作業所　運送店

平溪線菁桐坑驛前　運送店　蔡碧

淡水街長　烏井勝治　電話二二番

八里庄役場　庄長 谷善次　助役 鄭金溪　會計役 張增壽　外吏員一同

三芝庄役場　庄長 盧根德　助役 黃火元　會計役 蘇丁波　外吏員一同

石門庄役場　庄長 江文通　助役 郭[illegible]玖　會計役 潘[illegible]仕　外吏員一同

淡水街　盧阿山

淡水街　施禎益

淡水街　老義發材木商行　代表者 [illegible]　電話五四番

淡水街　有限責任淡水信用組合　電話五五番

淡水街　保證責任淡江信用販賣購買利用組合

淡水街　酒類賣捌人　大歲德太郎

淡水街　煙草賣捌人　雷俊臣

淡水街　鹽賣捌人　黑川義夫

淡水街　吳傳宗

淡水街　川口屋　中野金太郎

公醫　濱田理八郎

淡水　土木建築　請負業組合

淡水街　土木建築請負業　森山傳

會席御料理　肥後亭

淡水街　土木建築請負業　張媽進　電話四五番

淡水街　土木建築請負業　野島俊宗

中行商會　土木建築請負業　李宗鐸

土木建築請負業　吳乞

淡水街　會席御料理　山口亭

淡水海水浴場　和樂園

淡水海水浴場　街營休憩所

臺灣淡水港　株式會社　施合發商行　電話 [illegible]

臺南州協議會員　番社庄長　陳按察

新營郡新營街　森脇嘉一

鹽水街長　伊藤鎭三

白河庄長　五十里子之作

新營街長　野興吉

酒類賣捌所　加藤長次郎

臺南州新營街　運送店

臺南州新營街　運送店

新營郡

新營信用購買利用組合

鹽水港信用販賣購買利用組合

店子口信用販賣購買利用組合

柳營信用購買利用組合

番社信用購買利用組合

菁寮信用購買利用組合

海行かばみづく屍

太平洋の怒濤は高し
遂に來た一九三五年！
艨艟堂々四海を壓す
生命線の守りは固し

忍びよる危機の正體

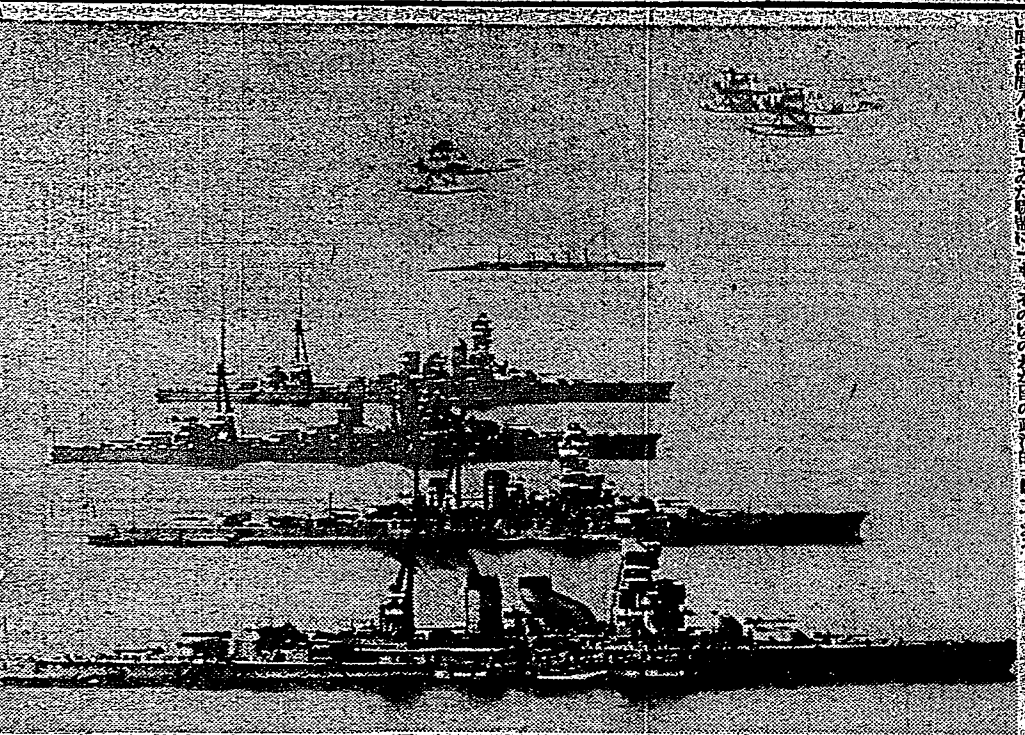
一九三五、六年の危機！これは數年來非常時日本に掲げられたスローガンである。軍部では勿論のこと、學校でも會社でも、工場でも田園でも、或は滿洲でも、さう叫ばれて來た。その未曾有であると豫想されるところの國家的危機を要にした一九三五年は今年遂に來たのである。まことに緊張のやうな年がやつて來たものである。ところで一九三五年が何故危機なのか打ち見たところ、いつものやうに綺麗に門松が立ち、國旗が揚げられ、羽子板の音も長閑に、まことに平和な新春を飾らしてやつて來た一九三五年のどこに恐るべき危機が潜んでゐるか。危機の正體は何か、先づそれから見よう。

危機の一　聯盟脱退

危機の一は國際聯盟の脱退である。滿洲事變の勃發から滿洲國が出現した。これに全生命をつぎ込んでその出現に援助と指導を與へたわが國は、内田外相の所謂「焦土外交」によつて十三對一（九三四十二對一）の國際的孤立のうちに敢然として聯盟脱退を決行し、去る昭和八年三月二十六日これを正式に聯盟に通告した。規約によれば正式通告二ケ年後に脱退することになるのだから、いよいよ歐洲大戰後最高の國際機關として生れ永い間お仲間入りしてゐた聯盟におさらばを告げるのは今年の三月二十六日である。これ以後は全く何等聯盟に拘束されることなく、所謂「光榮ある孤立」となるわけだが、またそれだけ世間の風も荒くあたることを覺悟せねばならぬ點で危機の一つである所以である。

危機の二　海軍軍縮會議

その二はロンドン條約の規定に基く海軍軍縮會議である。ロンドン條約は昭和五年（一九三〇年）四月二十二日調印を終り日英米三國に關する限りは批准書の寄託を了し（佛伊兩國は今もつて批准しない）その年の十二月三十一日から效力が發生してゐるものである。この條約は我國に非常に不利であると海軍部内はもとより、國内の輿論が擧つて反對したけれども、その頃のわが國の政治的情勢はその反對を押切つてこれを成立させたのであつたが、これが後に海軍青年將校を起たしめた五・一五事件の遠因とすらなつたほどのものである。このロンドン條約の有效期限は昭和十一年（一九三六年）に前の條約には何等の拘束を受けることなく、然し前の條約に代つてその目的を遂行する新條約を作成するために會議を開催すべきことが規定されてあつて、これに基き今年その會議が開かれることになつてをり、そのための豫備會談が昨年秋以來わが國からは松平、山本兩代表が出席してロンドンで行はれてゐるのである。この會議は又次のワシントン條約による會議とも關聯してわが海軍の兵力を決定することになるのでその會議の如何はまた危機の一つなのである。



王道の國
財政部大臣　熙洽

滿洲國建國以來茲に三年を閲す。熙洽此の年頭に當り滿洲國前途に對し最も愉快とし希望に勝へざるものあり。即ち我が皇帝陛下大命を奉け大位に即かせ給ひ茲に國基益々固く萬民の眼に一新せり。[illegible]誠に欣快に勝へざるなり。本部の政事に至つては本より王道に則り國利民福を圖り、金融の整理、稅政の改正に就ては一意努力[illegible]として歩を進め過去三年の成績を[illegible]。之により見るに今後必ずや國運の發展、事業の隆昌は日に月に進み期して待つべくこれ希望に勝へざるなり

危機の三　廢棄通告

その三は、いふまでもなくワシントン條約の廢棄通告である。そしてそれがため開かれる會議である。この條約は大正十一年（一九二二年）二月六日ワシントンに於て調印され、同年八月十七日各國の批准書寄託を了して實施されるものであるが、同條約第二十三條に「本條約は千九百三十六年十二月三十一日迄效力を有す、締約國中何れの一國より右期日の二年前に本條約を廢止する意思を通告せざるときは、本條約は締約國の一國が廢止の通告を爲したる日より二年を經過する迄引續き其の效力を有すべく（中略）何れかの一國のなしたる廢止通告が效力を生じたる日より一年内に締約國全部は會議を開催すべし」とあつて、期限は一九三六年末と規定されてはゐるが、その二年前即ち昭和九年（一九三四年）十二月三十一日までに廢棄通告をしなければ何れかの國が廢棄を通告し、それから更に二年經過するまで――さういふ國が出て來なければ永久に――效力を有することになるわけだから、今日では五・五・三の比率に滿足しない我が國は斷乎として昨年その廢棄を通告したのである。

そこで右の規定に從つてわが國の廢棄通告による會議が一年以内に即ち今年一九三五年に開かれねばならなくなつたのであるが、折柄ロンドン條約更改のための會議が開かれることになつてをり、兩者とも同じ海軍兵力に關する問題であり、互ひに相關聯してゐる部分もあり、二つの會議をわざわざ別々に開くにも及ぶまいから實際にはこの二つの會議は合流して開かれることになるであらう。かくて國際聯盟脱退の實現、ロンドン條約の滿了、ワシントン條約の廢棄通告に含まれた三つの危機は合流して今年一九三五年は來たのである。明一九三六年はこの危機が[illegible]

太平洋の危機

聯盟の脱退はすでに矢は弦をはなれたのであつて、それの直接の原因となつた滿洲國の出現は同時にわが國の生命線の確立でもあるから、もはや絶對にうしろに退く事はできないのだ。それだけに滿洲國の建設は同時にわが國の基本的危機の大い一線であることは勿論である。それが太平洋の波浪に大きな影響を與へてゐることはいふまでもないが、その生命線の護りには精鋭無比なるわが陸軍が嚴としてその任に當つてゐることであるから姑く措き、ここでは太平洋のまもりを見よう。

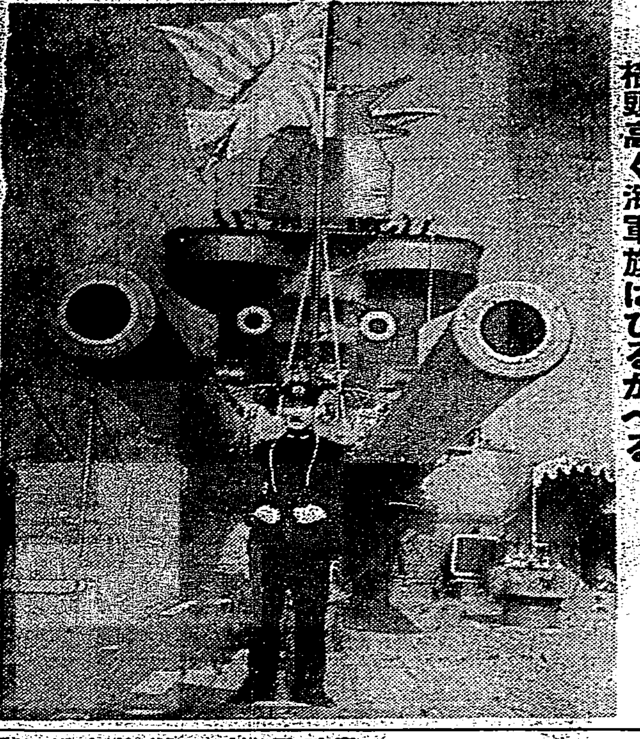
太平洋の護り――いふまでもなくそれはわが海軍である。近代科學の粹を蒐めた艨艟と忠勇無比なる將士とによつて成るわが海軍が存する限り太平洋のまもりはとこしなへに安らかであることは疑ひないのであるが、然し海戰、殊に近代の科學的海戰にあつては戰ひの勝敗を決するのは人的要素、機械力等のものを除いては基本的にはその有する兵力即ち軍艦及び武器の數である。いかに忠誠なる兵士を乘せてゐるところで軍艦の數において武器の精鋭さにおいて劣るならば必勝は先づ期し難いといはねばならぬ。このことは陸戰に於ても同樣であるが、海戰において殊に然りである。大和魂は戰ひを勝利へもつてゆく精神的推進力ではあるが、これに力を與へよりその偉力を發揮せしむるものは武器であり、科學的機械力である。大和魂ただそれだけでは戰へない時代となつたのである。而も戰爭は相手方のあることだから、この兵力量は常に相手方の兵力量と相對的に考へねばならぬものだ。そこでお互ひに軍備を少くしようといふやうな相談の會議でもその比率といふことがやかましくなるのは當然である。

華府條約と情勢の變化

ワシントン條約で定められた主力艦及航空母艦（近代海戰の基本的戰鬪力であるところの）五・五・三の比率は當時といへども、固よりわが國では不滿であつた。それにも拘らず敢てこれに調印したのは當時の一般的軍縮の風潮によるものだが、專門的には當時の軍艦の戰鬪力は少なかつたし、太平洋の海軍根據地の防備制限がこれに伴つてゐたし、それに補助艦に制限がないために、この方で何とか補ひはつくといふ見越しから同意したものであつた。けれども今日では燃料に重油を用ゐることによつても、軍艦の航續力は二倍にもなり、米國には既に一萬カイリの航續力を有する戰艦すらあるやうになり、加ふるに空軍の發達はめざましいものあり、その上最近世界の國防器械の發達は特に各國海軍の強力化を促進しつゝある情勢となつては、到底當時の比率をもつては帝國「國防の安全感」は保持されなくなつたのである。

平和も危機も今年の會議に

ロンドン條約については當時既に海軍をはじめ國内に於て強硬な反對論が與へられてゐたことは前述の通りである。殊に日本海軍の主張を重視する潜水艦がその所要量[illegible]から五萬二千七百噸に減ぜられ、甲巡も對米七割を要求したのを六割に引下げられたことは最も痛切に感ぜられたのであつた。これも當時の若槻全權の政治的考慮と、條約が極めて短期間であつて而もその有效期間中には實際的には甲巡の對米比率もほぼ七割一分に保たれてゐるといふことのために漸く調印を見ることになつたものであるが、然しこの結果一九三六年末に日米兩國の艦艇保有量は、日本百五十五萬[illegible]、米國百三十三萬[illegible]で、その比率では對米七割六分、補助艦だけの比率では九割五分であるが、現存の條約をそのままでゆくと一九三六年末頃は[illegible]日米の比率は六割四分に低下するのである。これでは到底安心して太平洋のまもりにつくことは出來ないといふのがわが國の主張なのであるから、聯盟脱退によつて不退轉の決意を示したわが國の主張が、貫徹されずんば決裂をも辭せずとするのは當然の勢ひで太平洋の平和も、危機も全くかかつて今年の會議にあるのである。


檣頭高く海軍旗はひるがへる

新鋭の意氣で皇國の使命に邁進
臺灣軍司令官　伯爵　寺内壽一

茲に新年を迎ふるに當り遙に東方に向つて聖壽の萬歳を壽し奉り、更に全島官民各位と共に此光輝ある新年を祝福したいと思ふ。吾人此の喜びに在る者として新年の初頭に於て特に想起すべきは今より四十年前、明治天皇の御稜威に依り新たに本島が皇國の版圖に加へらるるに至つた其御聖業である。更に當時に於ける世界の情勢並に東洋に於ける皇國の地位に鑑みる時、皇國が多大の犠牲を拂つて本島を領有するに至つたことは實に東洋平和の保障の責に任じたる結果に外ならぬのであつて、爾來今日まで或は國運を賭して露國と戰ひ、或は[illegible]上海事變の如き何れも東洋の平和延いては世界の平和に貢獻せんとし給ふ御聖業に他ならぬのである。

◇

而して歳既に四十年にして今日の如き平和の天地を實現し、其文化の程度に於ても殆ど三千年の歷史を有する母國と異なる所なきに至つたことは實に世界の驚異とする所であつて、我國つて來る所を思ふにつけても[illegible]の重大さに今更の如く感激せざるを得ないのである。顧みて世界の現狀を見るに皇國の地位は實に容易ならず、一歩を誤れば直ちに世界的禍亂を惹き起すべき危險に直面して居るのである。一旦有事の際には本島は皇國の南方に於ける第一線として極めて重要なる使命を帯ぶるものであり、吾人國防の任に當る者は一層責任の重大なるを感ずると共に全島官民各位の協力を期待して已まないのである。本年は昭和の御代も既に十年を迎へ、[illegible]方さに四十年に達し、[illegible]と共に一致と新鋭なる意氣を以て[illegible]皇國の使命に向ひ邁進せんことを期待するものである。

始政四十年の業績を顯彰したい
博覽會其他二三の施設を計畫
總務長官　平塚廣義

茲に昭和十年の新春を迎ふるに當り畏くも聖上陛下を初め奉り皇后陛下、皇太后陛下、皇太子殿下各宮殿下には御機嫌麗はしく[illegible]の御榮は誠に[illegible]の眞に感激に堪へない次第であります。殊に昨秋は伏見宮[illegible]御成を辱うし有難き御仁慈に浴し奉りまして本島は洵に無上の光榮を新にする次第であります。

☆

今内外の情勢を見まするに隣邦滿洲國は建國第三年を迎へ其の國家的基礎漸く成り、列國は事實として其の存在を認めんとの[illegible]に至りました。又一時中華民國との間に存在しました滿洲上海事變以來の惡感情も漸次解消されて我が國の眞意を諒解し親善を增すに至つた事は誠に喜ばしい次第であります。財界に於ても[illegible]軍需工業は相當好況を示しては居りますが、昭和七年以來深刻化した農村の一般的不況は未だ回復せざるに加へて昨年は各地に水害、風害、旱害、冷害等が頻出しましたので實に憂慮すべき狀態に陷り、政府は之が救濟の爲に特に臨時議會を召集して[illegible]

☆

[illegible]

國難を克服し萬邦無比の國體を守れ
強固なる覺悟が必要
臺北州知事　野口敏治

萬里雲ら遍限もなき新陽の光を浴びて、希望ある皇紀二千五百九十五年を迎へたることは寔に歡喜に堪へない次第であります。恭しく惟みるに、我皇室におかせられましては、一昨年國民の待望裡に御降誕あらせられました日嗣の宮殿下には其後益々御健やかに御發達あらせられ、皇室の御榮えは申す迄もなく國運愈々固きを加へますことは九千萬國民の齊しく慶賀に堪へない所であります。更に又本島におきましては昨年は相前後して元帥海軍大將伏見宮殿下、元帥陸軍大將梨本宮殿下を奉迎申上げ、南方の要地に海陸兩元帥の宮殿下の御英姿を拜し御威德に接し得ました事は、無上の光榮と[illegible]であります。

[illegible]

高橋聯合艦隊司令長官試筆

軍縮難と智慧
打開と收拾の能力
伊藤正德

（一）

同じ手を始終打つてみれば、相手に見破られて效果が漸減する。立派な手であつても、段々と勝率を減じて來る。戰術にも、正攻の傍らに奇襲を必要とし、而して其正攻も奇襲もまた時に應じ、所に因して轉變しなければならない。大體の法則は[illegible]として打ち立てられてゐるが、智謀のある將軍が、これを自分の頭で修正して用ゐる。これが活用だ。その修正は、多くの場合一寸した修正だ。人間の頭腦の働きに大差があつても、その距離はさうひどく違ふものではない。しかも、その少量の差が勝敗を左右するのである。勝敗の結果は天地の大差であるが、畢竟は實に一籌ほどの智慧の差から生ずるのである。

（二）

名將フォッシュ元帥が言つた訓言の中に「戰鬪の勝敗は大部分は豫備軍によつて決定する」といふ一語がある。その意味は、兩軍の主力戰鬪は、多くの場合に於て[illegible]

神の春
長谷川かな女

明治神宮初詣

御扉仰ぐや森の初鴉

初鴉眞杉揃うて光りけり

御篝火守る少年凛に寂氣あり

竹杓に滴る御手水に初明り

[illegible]の御砂踏

[illegible]

謹賀新年

基隆市 桑原政夫

基隆 安詮院貞熊

竹田義治 基隆市

金山庄長 蘆田俊
萬里庄長 黃棟郷
七堵庄長 中村忠三郎
瑞芳庄長 宮川三二
貢寮庄長 白澤傳吉
雙溪庄長 鎌田清熊
平溪庄長 渡邊源作

基隆市天神町 石門商會 野尻錠一 砂利、玉石、砂 其他建築用材商

金物商 基隆市義重町三丁目 合資會社 小川商店 電話四四番 八八番

基隆市日新町二丁目六番地 基隆土木協會 電話五九二番

石炭採掘販賣業 林開郡

基隆市 富士號 山輪自轉車商會

基隆市双葉町十七番地 潘榮春

基隆市義重町四丁目 加藤質店

基隆市義重町三丁目 かね由洋品店 電話五七六番

有田材木店 基隆市日新町二ノ四 有田榮一 電話九五番

基隆市日新町五ノ五 基隆貸座敷業組合

カフエー太陽

基隆市義重町三ノ二 カフエーホウライ 喫茶部

基隆市義重町三ノ二 カフエーホウライ内 あけましておめでたう みき子

基隆市旭町 カフエーボタン 陳石棚 電話二七一番 女給一同

市内バス營業 基隆市高砂町二番地 流水交通社 流水偉助 營業所電話

顏國年 基隆市

范寶動 基隆市

基隆 許梓桑

基隆市 富貴市場組合員一同

ノーリツ商會 石坂健橘 基隆市日新町一丁目二番地 電話七貳九番

基隆倶樂部

有限責任 基隆商工信用組合

基隆市旭町二ノ六 木村龜吉

基隆市旭町二ノ一 基隆市街自動車株式會社

新春の御寫眞は是非 下地寫眞館 基隆市天神町

基隆市日新町一ノ一 公會堂食堂 竹下長三

基隆驛前 船越旅館

基隆市義重町 岸田食堂喫茶部

基隆市義重町三丁目四番地 平戸本店 平戸喜代治

基隆市義重町 是枝本店

材木商 老建和商行

基隆市旭町壹丁目拾九番地 基隆義成家畜合資會社

新吉發材木商行 本店 基隆市旭町一ノ八 出張所

基隆市義重町二ノ七 新原書店 電話五五〇番

姬路亭 カフエーキママ 基隆市義重町四ノ一

竹の家 中川竹松 基隆市

基隆市入船町二ノ一 米滿鐵工場 電話六二四番

基隆市義重町一ノ一五 宮下事務所 電話八四七番

基隆市義重町壹丁目 藤盛食料品店

新年の御寫眞は當店へ是非 青葉寫眞館

本島を引揚げ南支南洋に進展し又は故山に歸臥せられんとする志士仁人は其地方の圖書館に對し記念として多少に拘らず圖書の御寄贈を希ふ 基隆 石坂莊作

基隆劇場

株式會社 雲泉商會

臺陽鑛業株式會社

合名會社 義和商行 臺北州基隆市壽町貳丁目拾九番地 電話一二番 一三四番 四〇六番 四〇七番

泰記汽船株式會社 電話九五四番 現場一二〇七九番

基隆港(基隆驛構內合同廳舍前) 山ヨ運送株式會社 出張所 臺北、大稻埕、臺中、彰化 社長 柏原米太郎

臺灣煙草賣捌人組合基隆支部 尾辻國吉 阿部貞祐 黃棟郷 野上鶴四 緒方則繼

基隆市濱町五十三番地 株式會社 林兼商店基隆支店

基隆料理屋組合

基隆市日新町 自由亭

基隆市旭町三丁目六番地 食糧品雜貨商 田邊善吉

新春の團欒には お好みのレコードで 基隆市義重町一ノ九 石黑樂器店 電話一〇四六番

基隆市入船町三丁目一番地 臺灣水產株式會社

ひぢり屋建築事務所

基隆市日新町四ノ一 葉泰發 電話七五番

臺灣牛乳會社 基隆 臺北

基隆市天神町 竹の家 竹次 清方 千代子

基隆市元町 凌峰閣 電話六一八番

基隆市旭町 日用雜貨 邱錦順

基隆酒類煙草小賣人組合

基隆酒類煙草小賣人組合聯合會

基隆市旭町二ノ三 臺灣水產販賣株式會社

基隆醫師會

海南製粉株式會社

基隆驛前(合同廳舍前) 基隆館運送本店 店主 田尻信次 支店所在地 臺北市北門町七

E通E 國際通運株式會社 基隆支店

基隆市旭町三ノ三 廣田幸平

基隆驛構內 合資會社 海陸赤帽組 電話七六二番

大倉洋品店 基隆市

明比實平

內臺通運合資會社 基隆市

基隆市濱町五十三番地 共同漁業株式會社 臺灣營業所

臺灣肥料株式會社

臺灣酒類賣捌人組合基隆支部 玉理三造 前島知德 許海亮 黑木長助 余德興

基隆市 カフエー紅雀

私設軌道 自動車運輸業 基隆市玉田町壹丁目參拾貳番地 基隆輕鐵株式會社

基隆市義重町一ノ四 基隆藥局 電話五五一 七五八番

基隆市代書人營業組合

基隆市 松浦新平

基隆市日新町三ノ九 角谷定吉 電話一五番

有限責任 基隆信用組合

基隆市 近江時五郎

石炭採掘販賣 基隆港 中臺商事株式會社

基隆吳服商組合

(イロハ順)

富元吳服店
近江吳服店
片岡吳服店
かね山吳服店
かねこし吳服店
山一吳服店
松井吳服店
布施吳服店
木村吳服店
山岸吳服店

基隆市双葉町九ノ三 顏赤九 蕭石頭

基隆市義重町(合町市場) 林商店 林双輝

基隆市 石井鐵工場

基隆市哨船頭三番 雲源公司鐵工所

基隆市日新町六ノ二 水產業 河井良平

基隆飲食店組合

基隆市撞球營業組合

日本食料工業株式會社 小賣人組合員一同

基隆市玉田町貳ノ七九 謝裕記商行 恒裕商行

基隆鹽魚組 利記公司 謝裕記 合成公司 陳泰成 義豐 陳裕豐

基隆市旭町 金義德商會 陳君平

基隆市福德町一丁目廿、廿一番地 金裕德商店

基隆市 金子英雄

基隆市旭町貳ノ四四番地 昇隆公司 電話八六四番

料亭吾妻 基隆市 中根ヤマ

濱の家 基隆市日新町 木村みね

御料理仕出し 基隆市義重町五ノ一 滿つや

基隆市入船町 大島鐵工所 本工場 機械工場

前田鐵工所 基隆市入船町二ノ一 前田清作 電話七七

基隆市入船町二ノ二 吉井商店

基隆市 新德源商行

基隆市 臺灣海陸物產株式會社

基隆市高砂町 陳泰成商店

基隆市福德町一丁目 基隆船商公會

海をながめつつ生新御料理を 巖亭 山本初太郎

山本材木店

日本石油株式會社特約販賣店 基隆市玉田町 横井石油店

基隆市 基隆商和會

基隆市義重町二ノ四 黑澤商店

玉理三造 基隆

基隆市義重町 カフエーオリエント 電話六四番

基隆市義重町二ノ一五 具志堅商店

菓子とパン製造販賣 基隆市義重町二丁目十七番地 一福堂

田邊吳服店 基隆

西村多郎助商店

瑞祥行

基隆港水先人組合事務所 電話六三三番

世界一――と 日本一を持つ基隆
是れ丈は誇ってよい

大それた…飛行機の献納を企てたり、お茶とコンセで本要を露にし五人の元祖を氣取つたり、何やかやで此非常時の基隆下に色々な不祥事件を仕出かしたりする、抑々其の本質は何を物語るかと云つても基隆は物騒しい物騒な所だと云ふ事にしかならないかも知れぬが、基隆は物騒な一面、臍曲りの御仁も多い様だ、何しろ雨や雨や雨に困されて居るからだ!と云ふ事なれど之れ即ちお天氣のなせるワザであつて相手に取る事も入らないが些か臍の曲げ方向を不祥事件に引つかけて色んな飛ばつちりを撒き散らすのだつたら助からない、何としても悪い事件の起るのは基隆だ!悪い人間のアラ〜しるのも基隆だ!といふ事になつたら基隆八萬市民に取つて救はれない屈辱だ、それに依つてだ、基隆にだつて他では見られぬナンバー・ワンが澤山あるんだ!とお歳をやつた上で御臍お剰りが出ればメーキアップ迄もやらうといふ臍曲り連に代つて恐の深い臍見を起しました

八島丸異變て 有名な市尹

闇の市を締めて何とかの灯をともせ!といふ馬太傳の聖句を□□るかに思つた時で昭和八年十月初旬神戸港伊予川の川尻で一生一代とも云ふべき八島丸遭難に打つ突かつて一躍有名となつたのは我が桑原基隆市尹だ、遭難は遭難でも命は完全に助かつたし、桑原夫の存在を天下に喧傳させたし、お陰で遭難小唄の自作も出來たし、また〜此れたしか澤山出來たので兎に角の市尹としては絶好の經驗を得たものだと感心させた所がこれは港の市尹許りではなく口と手を合せて三十六丁もあらうといふ多藝多能の士だ、臍が曲にしても謡曲にしても相當の趣味や材料はあるし、スポーツにかけては昔のアルピニストで著名だし、庭球に、水泳に行くとして可ならざるものはなくその他十余□、好古癖には□□の專門家としての鑑識眼があり、自ら計畫した全島唯一の郷土館には各方面から蒐集した様々な收藏品を陳列して居る程だ、其他に自然植物の栽培に獨特の手腕をもつて特に洋蘭にかけては島内でも一流のエキスパートと稱せられ自ら閑に任せて手入れを行つて居る數は百餘鉢に及んで居るその他の趣味は新舊兩面の奥人として中央に知られて居る外夫妻とも外人に交友が多く政夫市尹、政子夫人ともに英語をペラ〜ラ〜と出來るのは先づ基隆にかける一つの異色であらう

日本一に長い 基隆驛陸橋

之れも一つ即ち基隆の雨が齎せるワザだが直轄驛降の客に便にしてから驛の待合室前より野る陸橋は合同驛舍を横に睨めて汽車の頭を連ねたやうに第一上屋倉庫の階上に引つかけ、更に第一上屋から第二上屋迄渡廊下で繋いだ長さといふものはいざり勝五郎を思く初花娘おやまとても大至させる程のもので…つあるかその全長は約七十丁、即ち四百餘間、もう一つ即ち七百九十米程で曲線を中にして驛から驛を見渡せば通行の人間豆の如しとある。最も長い船の際第一上屋なれば全部の陸橋を歩き通さぬでもよいが第二上屋の際は特に老人、病人など後め悪情を惹するものもあると聞かる。内地にだつて最も長いと謂はるる□□驛陸驛の乗降橋も基隆に比較しては大陸二三十間の差異はあるだらうとのその筋の觀測であるがその長い陸橋も入出港船當日、即ち毎日といふ事になるがその乗降時間前後を通じ各種雑多な人種二三千名を吞吐せぬ事はないと謂はれるテラ・モード人種の猶り場と稱さる宿者を示し所謂本島にかけせらるるものであるさうな

基隆驛陸橋（驛車連絡の□□□□ 陸要塞司令部認可□□）

黒潮の渦に躍る 世界一の壮者

基隆船籍の第一國吉丸は表南洋の蘭近いニューギニア附近メネラシヤ群島で英國官憲の爲め密漁船嫌疑で押へられたのは最近の事實であるが八幡船、海賊時代にかけた海の祖先の血を受けた命知らずの壮者がクタビレ至した三十噸内外の發動機船を繰りながら五千餘海里の波濤たる大洋を乗衣一枚で押し渡りをやるのである、海圖を持たず、磁針がなく、天測を知らず、外國語や國際法は謂ふ迄もなく一切無茶苦茶で出かけて行つて仕舞ふ。物がなくなれば土人と漁獲品の交換をやり、船舶が破損すれば航海中臨急手當で間に合せる其やる事考へる事總て破天荒である、斯うして數ケ月に互る航海も船長の第六感のみに委ね然かも五千海里の航海を往復して來た船は實際の所三四回に止まらず、今回の吉國丸は運悪く拿捕されたといふ事になるうな、外國は元より日本内地にあつても生命其他の財産總てを運に任せて此の如き無謀な冒險をまる航海を爲すものは外には無からうとさへ謂はる、然しながら港と基隆にかける特殊な存在として南洋向、對岸向と船舶の黒潮荘をおごこで指揮する船長達は時代的人物の豪壮なる船長は市内に三十人以上何日でもくすぶつて居るといふ船長の指揮一つによつて海上の危険區域を突破し得ると稱せられ彼等は一と船出しから歸港迄數月の間全く一匹しも許されぬものだと謂はる程の特殊な海のヌシがゴロ〜して居る事も異色と稱すべきものであらう

船舶錨地のヌシ 大佐の貫禄

基隆港のヌシとして、ハーワー・マスターとして基隆でも内外商船に港地指定其他の取締に任ずる港務官の職來は所謂非常時にかける對外計畫の第一線に關くものとして特に基隆としての環境の上から重要視さるるのは謂ふ迄もない、殊にインフレ景氣の發展は思ひ込しい内外船舶の輻輳を見るやうになつて基隆市としての景氣もこれにより相當の潤ひを見るやうにもなつたので先づく港のヌシ港務官福田三良氏の張り〜くを多少ともたたへずはなるまい、大正十年中港内の内外船舶出入數は五千隻、計一千萬噸と稱せらるるが内には怪船があつたり、暴風船があつたり又スパイ船があつたりで時節柄監視取締にも相當の覺悟があるといふ、所で此のハーワー・マスターの主役である福田港務官といへば基隆を知るの士同氏を知らぬ人もあるまいと謂はれ國海軍大佐従四位勲三等の肩書を有し曾つては聯合艦隊参謀や艦長等を歴任して赫々の海軍武官たるものであるが兵學校同期生には現在の海軍次官長谷川清中將や後輩に現呉公驛港部司令大野竹中將などがあるといふ、モーター船のホイツスルに節をかけたやうな俳曲は自慢で知ると知らざる人を嬉へさせて居るのは御本人唯一つの趣味だといふ、世界の基隆港としての存在の上に緊要欠からざる國際人である

基隆市を挾んで
"臺灣寶塚"と自然水族館

國立公園候補地としての大屯山脈からなだらかなスロープを金山北海岸に下れば基隆に繋がる臨海道路は北部海岸の景勝を集めて更らたるドライヴウエイとなり自動車で僅か一時間足らずに基隆市と聯絡が出來る事となり、恐らく大屯國立公園が出現すれば野合地からウオーク・エンド連が押し寄せて來る事に依つて基隆市では國際的な交驛となつて案内人設備をせらなければならぬ―と謂ふ事になるか但し夫は國立公園の指定と臨海道路の完成を見た後の事である故向二三年の將來を待たねばならぬ―といふ事にはなつても決して實現性の薄い問題ではない、馬鑿に若する野柳附近の奇巖から淡白なる砂濱き金山の未だ人跡になつかぬ釣魚場や、海水浴場、溫泉など世に出る事が稀かつた斯うした自然遊樂地は國立公園の呼びを前奏曲として全島的にアッピールする準備につく事となつた、金山から萬里角、淡水を經て觀北に至る自動車道路の外今度から山腹なる桃の竹子湖を繞ぐり草山溫泉に瀰する景趣の散策も改めて行けるる事となつて同所を中心とするハイキングも都人士に取つてはピクニック氣分として懐かしまるるに相違はない、斯うした自然的な條件を根幹に基隆市にかける知名の士近江時五郎、顏國年、山内小藤二、和泉藤次郎の諸氏發企の下に金山庄の溫泉及海水浴場地帶數萬坪の貸下を受け追つては臺灣の寶塚たらしむる目標の下に株式會社を起し取りどりの遊樂地施設を行ふべく此の程取敢ず土地の貸下申請を行つた、希望として既に五、六萬圓の資本を以て區劃された地域内に公園設備を行ひ風致圖の植付、花井園の造成、北投又は草山式の公共浴場、同海水浴休憩場、生簀の釣魚場並に各種の屋外運動設備、サンマー・ハウス様式のホテル兼宴會場その他の特殊施設であるが大屯山の秀麗を背面に仰ぎ暗前海水浴場なり溫泉なり遊びに任すといつたやうな恵まれたる遊樂地は全島を通じ此の土地を措いて外にはないと謂ふ明治二十八年の大與日土匪に襲撃されて憲兵屯所員の大部分が殉職したといふ悲しい記念碑は金包里公園内に建設されて今尚口碑に殘されて居るのも同所を臨ろつの歴史であると見るべきで大屯山國立公園内の特殊地域として必ずや世に紹介さるべき箇所でなければならぬ

基隆市から東する海濱は北白川宮殿下本島御討征に關する御遺跡地として澳底、三貂角は永く知らるべく同海岸八斗子、跌子嶼水南洞一帯を繋ぐ勝景は未だ世に知らるべくして知られない名勝である、砂は白く潮は鮮かで大正區はあり洞窟があり、海水浴場もあり、又珍奇な自然植物等もあつて夏季には一日の行樂に充分の滿足を感じ得るものがある、現在基隆八尺門より水南洞に通ずる共同鑛業の運搬軌道開通を見る事となれば世に出る機會を得る事とならうが今回八斗子(基隆市より約三哩)海水浴場施設を行つて土地の貸下許可を受け目下設計について着々施設を急いで居るといふ話がある、灣内の一部を締切つて近海にかける各種の魚族を飼育しその自然生活の狀態を平面なり立體なり各方面の角度から興味的に觀察せしむるものを主眼としたものでその面積は數千坪による豫定であるが附近に附屬して各種鮮魚族の飼育場を設け簡易に安價に釣狂連の滿足を得せしむる外それ等魚類の調理にも應ずるといふ便宜な方法も講ずる筈であるが今まで海に關する特殊な施設をもつて居ない基隆での自然水族館は一般の注目を惹くものと見られ賑やかな話題となつて居るが基隆を設視する斯うした施設は將來發展の基礎たるべく二元案として同市民の間に大に歡迎されて居る

基隆地方の先住蕃 ケタガロンの老婆
社寮島に唯一人今尚生存 同族の歌などよく記憶

八幡船や海賊隊などに依つて基隆は日本の存在を臣かにした當時から西班牙、和蘭占據時代に至る基隆市のとりどりなる遺蹟は順次世に紹介されて色々な文献と事實を語らうとして發見されつつあるが西班牙占據時代、即ち今から三百數十年前の本島北部の先住民ケタガロン族の遺族の一老婆は本島千餘學の研究者である桑原市尹により社寮島に於て發見された、ケタガロン族は特に記録するものなく河原基隆市本島北部一帯に居を構へ淡水より基隆河に沿うて海岸に至る迄三十六部落を擁し一帯を浚つてサナサイ(社寮島の事か)に勢力を張つたと稱せらるる當初山中に棲んで居たのが凶作の爲め下山し北部各地から遠く海岸地帯を宜蘭、タクキリ溪までの勢力範圍を維持し相當の文化を有して西班牙人を支配して居つて來た日本人と相當に深い交渉を行つた記録も文献の上に現はれて居ると謂ふ――斯うした歴史的の先住蕃の殘された老後の一人であるケタガロン族婆さんは本年七十三歳、潘氏と稱しその姓名から察すれば風俗等漢人に變はれぬ極普通の本島人と異なつて居る、夫も子供もなく本島人の養子から扶養されて居るが同族も同人の死後絶滅する事となるので桑原市尹はその他の人々が國語教ひにしてケタガロン文化の華やかなりし頃をとりどりの記録を編纂しようといふ熱心さた現在の用語は元より言語であるかは言葉や記述を記との事で何れとしてもその記憶ははつきりして居るらしい、即同人の言葉によれば基隆の下書社の新社に縁故が居るといふが久しく交通を斷つて居る爲め生存して居るかどうかも判らないとの事だしケタガロン語はそれに依つて同人一代で全く死語となつて了ふ運命にあるものらしい、先住蕃一人の發見だに色々な遺蹟を有する基隆に取つても生きた歴史として稀有のものと喜び合ふべきであらう

謹賀新年

宜蘭街長 樋口要司

宜蘭 梅永二郎

宜蘭 秋山敬治

宜蘭街 重藤幹一

宜蘭街南門通 辯護士 佐藤麻男 電話一〇八番

宜蘭街 辯護士 佐藤德治

宜蘭 坪井醫院 坪井二郎

宜蘭煙草賣捌人 小島仁三郎 電話一三三番

平戸宜蘭支店 電話一六番 一四七番

宜蘭土木建築協會 電話一二三番

蘭陽土木協會 宜蘭街 砂田隣太郎 (電話一四番)

宜蘭醬油株式會社

内地諸新聞雑誌 文房具 化粧品 和洋雑貨 宜蘭郡宜蘭街字坤門六十番地 田中榮續堂 電話一五六番 振替三九二番

宜蘭建築信用組合

中山歯科醫院

杉崎旅館 宜蘭街(電話五五番)

伊藤工場 宜蘭街(電話二七番)

田中呉服店 電話六一番

臺北州羅東郡羅東街 小野田快雄

蘭陽米商協會 會長 副會長

臺灣臺北州羅東郡五結庄二結 臺灣紙業株式會社二結工場

羅東街 波江野吉太郎

宜蘭街 振和商行 黄再壽

羅東街羅東 壽康醫院 清野滿五郎

羅東街 煙草賣捌人 中野七二郎

羅東郡羅東街羅東 蘭陽自動車株式會社 取締役社長 胡慶森 電話六六番

宜蘭街南門通り 電話百八番 蘭陽歯科醫院 古口順三郎

有限責任 礁溪信用購買販賣利用組合

宜蘭街 有限責任 宜蘭信用組合 電話貳四番

宜蘭郡宜蘭街 電話貳〇七番 有限責任 員山信用購買販賣利用組合

宜蘭街 ライト寫眞館

宜蘭街 諸橋信彌

宜蘭街市場内 電話貳八番 陸軍御用達 三河屋深津商店

宜蘭街 (八)下山欽一商店

頭圍酒類賣捌人 石鐙遠

日用食料品商 宜蘭街市場内 許深商店

三星 天送埤 羅東郡羅東街十八番地 三星自動車合資會社 行乘合自動車 代表者 陳新田

下里履物店 下里元三郎

渡嘉敷醫院 電話十六番

宜蘭 吾妻旅館 電話五九番

羅東郡羅東街 演劇 映畫 羅東座 龍鳳社興行部

羅東 太平閣

羅東街 羅東亭

久保田金藏

宜蘭街 金森林一

宜蘭醬油株式會社

宜蘭街南門 織物商 新建發商行

羅東郡羅東街十八番地 共營自動車株式會社 取締役社長 林木火 電話一八〇番

洋品 雑貨 大正堂

鹿野醤油 ゲンジ醤油 コトブキ醤油 醸造元 源成美醤園 羅東街羅東一二九

森永種治郎

浦島登

謹賀新年 羅東街長 陳純精 五結庄長 林維 三星庄長 佐藤慶三郎 冬山庄長 江兆麟

羅東土木協會 電話貳九番

保證責任 利澤簡信用購買販賣利用組合 米穀、莫蓙、干魚、草縄、叺、委托販賣

羅東街 宜蘭殖産株式會社 電話一番

宜蘭料理屋組合

羅東酒類賣捌所 折尾德慧

有限責任 羅東信用購買販賣組合

食料品 大和屋商店 林茂輝

宜蘭街 カフエータツミ

笹川正路

宜蘭街 株式會社 宜蘭座 代表者 黄天賜

昭和製糖株式會社 宜蘭 電話長四〇〇番 二〇〇番

謹賀新年

新竹州苗栗街 日本石油臺灣鑛業所 所長 上野幸作

鈴木伊勢教（苗栗）

苗栗食鹽元賣捌人 頭屋庄長 鍾建英

新竹州苗栗郡苗栗街 臺灣軌道株式會社 電話六番

本支店 竹南郡後龍庄 苗栗郡苗栗街 米砂什肥料穀類販 謝建隆商行 店主謝本然 電話七番

苗栗街苗栗字內麻四八九 製材 建築材 各種木材販賣 苗栗製材所 店主 林阿

六車藥局 苗栗街電話壹貳〇番

ヤウ紹安材木部 苗栗街苗栗南四七

吉昌藥房 苗栗街苗栗壹九貳 店主 朱長順（電話壹〇八番）

新竹州苗栗郡苗栗街 源和米穀商 苗栗街苗栗七五番 米穀 肥料 店主代表 江定煌 電話壹貳六番

謹賀新年

新竹州苗栗郡苗栗街六七番地 土木建築請負業 鍾添來

產婆 蕭陳氏阿燕 新竹州苗栗街苗栗六四六

謹賀新年 苗栗驛前 旅館及汽車營業 苗栗館 電話十四番

苗栗街市場前 和洋菓子 松月堂菓子舖 主人 山口 電話六壹番

新竹州竹北驛前 振泰商行米穀部 新竹局電話

振泰商行運送部

苗栗街市場前 活版印刷 和洋紙 文房具 運動用具 川瀨商店 店主 川瀨 電話四八番 振替四貳九〇番

苗栗街苗栗四四貳番地 呉服 陳錦成商店 店主 陳

新竹市西門 林德勝糸店 電話長參八番

新竹市東門通り 和洋雜貨 伊勢屋商店 電話四壹九番

中村邦次郎 苗栗街

㊁新原泰生堂藥舖 新竹市東門 電話八番

新竹土木建築請負業組合員一同 新竹市南門外 電話六三番

保證責任 新竹州物產販賣購買利用組合 臺灣新竹市新竹字東門外參番地 電話五五六番

新竹州柑橘同業組合 新竹市新竹字東門外二九番地

新竹移出柑橘荷出組合 組合長 劉 副組合長 月波石

新竹拓殖軌道株式會社 新竹市東門外三 電話五八番

新竹市消費市場 新興會員一同

合資會社 新竹自動車商會 新竹驛前 電話貳四五番

苗栗製油所 旅館 田中濱次郎 新竹驛前 電話壹八番

新竹驛前 塚廼家旅館 電話壹七番

新竹カフェー組合

新竹料理屋組合

㊤小出呉服店 新竹市東門 電話貳〇五番 振替六貳番

新竹座 有本泉治 電話壹四番

新竹市東門外十九番地 昭和自動車株式會社 電話四參〇番 社長 加賀龍夫 社員一同

竹東街 材木商 奧田廣吉

竹東街 新松宏洋服店 呉長典

竹東街 材木商 製材所 詹義春

竹東街 久壽乃家 呉永金

竹東街 東華旅館 宋鄒氏貝妹

竹東街 公醫 宋燕貽 女醫 朱氏淑妹

竹東街長 吉田三三郎 竹東街助役 彭達琛 竹東街會計役 蕭有賜

竹東街 カフェーライオン 竹東街國王廟側 彭如良

カフェー金雀 劉石水

卓蘭庄役場職員一同

竹南炭業合資會社 電話三三番

會席 大廣場 新設 竹南カフェー末廣

室內清潔 南華旅館 電話竹南參九番

親切叮嚀 群英旅館 電話竹南貳壹番

竹南建築信用購買利用組合

臺灣日日取次 萬得商店 竹南 電話貳五番

新竹州竹南郡頭分 展南拓殖株式會社 取締役社長 專務取締役

龜山庄職員一同

桃園軌道株式會社

大園庄役場

桃園街役場 桃園街家畜市場 桃園街業佃會

國際通運株式會社桃園支店 桃園街助役 王江波

新竹州大溪街 第十五區酒類賣捌人 中村二二郎 電話壹〇番

大溪街長 吉田次郎 同助役 徐 同會計役 外職員一同

大溪街協議會員
前傳李黃加江周楊三蔡林林黃
田祖金傳藤仁序江育塚讓昂長青煥
千
里鑑庚來作達海助才嬰茂山致

謹賀新年 大湖 松屋旅館 電話七番

謹賀新年 昭和十年元旦 大湖郡大湖 旭旅館（吉岡才次郎）

謹賀新年 昭和十年元旦 新竹州協議會員 嚴添壽

謹賀新年 昭和十年元旦 大湖庄役場 吏員一同

謹賀新年 保證責任大興信用組合長 理事 吉岡英吉 外役職員一同

中壢街長 村上正陽 助役 黃阿何 會計役 黃鏡堂 外職員一同

楊梅庄長 李金益 助役 松林忠太郎 會計役 黃阿枝 外職員一同

觀音庄長 鄉田彥次郎 助役 會計役 周鏡鏞 外職員一同

平鎮庄長 鄧盛求 助役 會計役 葉步番 外職員一同

新屋庄役場 職員一同

中壢醫院 中壢街 內科小兒科專門 院長 吳鴻森 眼科外科專門 院長 吳鴻麟 電話五六番

保安醫院 中壢街 內科外科 院長 戴役誦

煥生醫院 中壢街（電話壹參〇番）小兒科 花柳科 咽喉科 院長 傳煥生

濟春商店 中壢街（電話貳四番）日用雜貨 店主 尹榮開

曾珍美 中壢街（電話六五番）

曾安祥 中壢街（電話五番）

太原組 中壢街 土木建築 材木販賣 王 電話貳六番

宏隆商行 中壢街 米穀 肥料 劉廷興 電話參壹番

中壢作業團 豬股應治

中央商會 各種印刷 文房具 中壢街

中壢食鹽賣捌所 岡本寬之

中壢酒類賣捌所 村上昌彥

東榮自動車商會 中壢 電話四七番

中壢自動車合資會社 電話五壹番

謝春禧 伯公岡驛前

中壢街 米穀改善會 會員一同

中壢法院 出張所職員一同

米穀檢查 中壢出張所 職員一同

龍潭庄長 鍾會宏 助役 黃貴源 會計役 黃道中 外職員一同

中壢郡守 森田民夫

…キット御氣に召すサービスと料理… 御料理 珍香樓 中壢街（電參八番）

▲美人揃サービス▼ 御料理 朝日亭 中壢街

中壢郡庶務課長 上山捷清

中壢街協議會員（イロハ順）
石戶陳林劉李渡田黃宋許鍾
川健二 田友 學貴添清媽 邊與 中十 立榮阿新
郎一清邦貴雲進一藏枝華斗桂

楊梅庄協議會員
尹黃黃劉神鍾鍾
榮阿 阿 劉 戶 阿生和 欽 正
才葉漳春作鑑桂

國際電話株式會社 臺北出張所 中壢送信所 觀音受信所

新竹州中壢街 日本拓殖株式會社 電話貳番

張園

中壢農業倉庫 職員一同

宋屋信用購買利用組合

有限責任 中壢信用販賣購買利用組合

中壢軌道株式會社

皮革買賣 皮革化學 臺灣製革株式會社 中壢分工場 電話壹九番

中壢座通り カフェー三揚 電話六六番 ナンバワン女給サービスキット御氣ニ召ス

中壢街中壢座通り 西漢カフェー共樂 料理 主人 劉林貴 電話貳七番

中壢郡下 酒類 煙草 食鹽 小賣人組合

臺北州後村水利組合組合長 新莊郡守 金子辰太郎 外職員一同

鷺洲庄長 武生玉藏 會計役 蔡和興 外職員一同

蔡和興 臺北州新莊郡鷺洲

新莊郡警察課 上川豐

新莊郡 北條熊人

保證責任 山腳信用販賣購買利用組合 電話新莊二十八番

保證責任 三重埔信用販賣購買利用組合

有限責任 鷺洲信用購買販賣利用組合 組合長 專務理事 外役職員一同

有限責任 新莊信用組合 電話新莊七番

新莊街役場職員一同

新莊街 黃淵源 林家柱 黃煌煦 黃鐵柱 黃鋼柱 黃家柏 黃從驤

新莊郡五股庄 六十有二歲 林知義 長男 林學傳 次男 林新傳 長孫 林家雍

新莊食鹽元賣捌人 北野右一

新莊郡二重埔 陳上九

保證責任 五股信用購買販賣利用組合 役職員一同

林口庄役場職員一同

板橋街役場 街長 淀川喜代治 助役 吳春榮 會計役 水越千代吉 外職員一同

板橋街 大田修吉

臺北州海山郡板橋街板橋一八九番地 林本源維記興業株式會社 社長 林祖壽

海山郡板橋街 板橋信用利用購買販賣組合 組合長 林 外職員一同

海山郡板橋街 海山自動車株式會社 取締役社長 林清富

板橋 大觀舞臺

東興タオル製造工場 代表者 呂水山

土城庄役場 庄長 簡 助役 張 會計役 廖 職員一同

中和信用利用購買販賣組合 組合長 江讓慶 專務理事 許加 職員一同

海山輕鐵株式會社

陳佛齋 海山郡三峽庄

公醫 劉鉅篆 三峽庄保安醫院

成福炭礦 陳炳俊

煙草賣捌人 吉良一義

三峽酒類賣捌人 石垣用知

林源記本店 材木商 製材工場 店主 林 電話三峽六番

興業部 製材 主人 鄭石欽

三峽米粉 海山郡三峽庄八張 陳忠

保證責任 三峽信用利用購買販賣組合

有限責任 鶯歌信用購買販利組合

組合長 黃純青

海山郡三峽庄八張 鄭金塗

貨物自動車 日英商會 主人 三峽庄

汐止街長 李朝芳

石炭採掘販賣 双興煤炭公司 本店 汐止

有限責任 汐止信用購買利用組合 組合長 陳定國 專務理事 蘇宗

六堵炭礦公司 代表者 吳萬生 本店 坑場 七堵庄六堵

謹賀新年 北投料理屋組合 北投檢番 北投旅館組合

（いろは順）
五十鈴 八勝園 初音 新高 星乃家 星湯 竹葉 花月 佳山 上の湯 養氣閣 やまと 松島
藤家 小西屋 天狗庵 桔梗屋 吟松庵 ぎおん 沂水園 由喜松 神泉閣 松濤園 新蒼芳 新樂園 清秀閣

世界の石油界に突如進出した新竹

非常時日本の龍見石油坑の櫓 中空へその勇姿を林立

鑿泉と天を衝く石油坑の櫓！それは今や非常時日本の燃料新竹州下各地石油採掘への進みを急ぐ勇姿でなくて何であらう、千九百三十五六年の危機に向つて石油採取を急ぐ鑿井ボーリングの響は新竹州下に漲り、石油不足の日本の憂鬱をフッ飛ばさうとしてゐる。新竹州は今や臺灣の新竹州でなく日本の石油界の新竹州として眼が注がれ出した、既に採油中の出礦坑は別として錦水、青草子、寶山、湖口等油田は昭和九年鑿掘を開始した各油田は今年こそ大々大油層にブチ當り採油の凱歌を奏せんものと懸命にして必死の活動に入ることであらう、我々は此の年頭に新竹州下各油田の現況を新にし何れが本年最も早く採油の功を成し我々を驚喜させるかを期待し、更に又總ての油田が百パーセントに成功せんことを祈らねばならぬ、左に新竹州下油田の現況を示して置かう

◆出礦坑油田　苗栗郡公館庄　日本石油株式會社に屬する出礦坑油田に就いては讀者既に知る所のことで現在新に五坑を掘鑿中であるから本年は最近平均一日原油產額四萬三千六百四十三石をうんと超過するであらう

◆錦水油田　竹南郡造橋庄　之も日石經營に係り讀者の知つてゐるところであらうが九年九月二十八日第三十二號井を開坑、之に多大の期待を掛けてゐると云ふのは錦水油田が大油田になる資格を有してゐることをみすく知りながら深度三千米以上の掘鑿は今日迄至難とされてゐたところ、上野日石鑛業所長の大英斷に依つて米國より最新式掘鑿機ロータリー式と云ふのを購入、九年六月八百呎を掘鑿、深度三千米に達するのは十一年末か十二年春頃と豫想されてゐる

◆老田寮油田　苗栗郡頭屋庄　錦水のガス噴出鑿掘に刺戟され日石で新井掘鑿を企圖し右を第三十一號井として掘鑿すべく近く開坑の豫定である

◆通霄油田　苗栗郡通霄庄　通霄海水浴場を東に數丁の平地で十年二月に開坑すべく鑿掘準備中である

◆寶山油田　竹東郡寶山庄　海軍省試掘油田で日石が請負掘りをやつてゐる、九年五月十日開坑し十年秋深度三千米で目的達成の豫定である

◆青草子油田　竹東郡竹東街　臺灣鑛業株式會社が最初の石油試掘第一號井で九年二月十日開坑し深度二百米の豫定の所同年五月七日深度二百九十七米で大ガス層に到達、之が猛烈噴出し遂にガス火事を起し鉄櫓を飴の如く熔解したことは吾々の耳に新しい、目下附近に二號井、三號井を掘鑿しつつあり二號井は既にガス層に到達せんとし此の記事が新年紙上に現はれた時は二號井はガスを噴出してゐるかも知れない、二號井、三號井がガス層に到達すれば一號井の現に噴出しつつあるガスを二號井、三號井に誘引して一號井は油層に到達する豫定で大いに嘱目すべきである

◆横山油田　竹東郡横山庄　矢張り臺鑛の油田で青草子油田の延長と見るべきである、十年四月頃深度二千米の第一號井開坑の豫定

◆湖口油田　新竹郡湖口庄　之も臺鑛の試掘井で九年十一月五日開坑、日石錦水油田三十二號井と同様深度三千米を米國最新式掘鑿機ロータリー式ボーリングで掘鑿、約二年を要する見込である

以上で現在油井及び近く開坑せんとする新竹州下油田の現状を述べたが、日石にしろ臺鑛にしても更に前記以外の所に石油櫓が林立するのも近い將來であらう、尚最後に附記したいことは新竹市赤土崎には海軍ペンゾール研究所が設立され九年末より既に事業を開始し、總督府に於ては十年度に廿五萬圓を投じ新竹市に天然ガス研究所を設置計畫あり、また仄かに聞く所に依れば內地某會社が同じく新竹市に天然ガス利用の大工場設置の模様あり之等が實現さるれば愈々名實共に石油王國新竹となり、燦爛たる石油時代を現出地元の活氣推して知るべきで本年は必ずさうありたいものである

一切國語で 朗かな家庭

日本語で「君」と言ふところも「閣下」と言ふところも臺灣語では何でも「汝」の一語で片附けてしまふ—新竹州勸業課長の名は李讚生氏である、之を臺灣語と日本語とをごつちやにして讀むと「汝、贊成」となる、かうした讀み方から新竹州勸業課の面々は何かの書面を勸業課長の李讚生氏の所に持つて行く時は「汝さん、贊成の印を押しとけば間違ひありません」と贊成々々の印を押させる—李讚生氏は本島人官吏中勳六等の唯一の受者である、等級では督府水產課長の劉明朝氏が三等四級であり臺南州勸業課長が四等三級であり前者は從五位、後者は正六位を有するのみで、他に新竹市助役に七等九級の劉萬氏があるが、此の人はまだ僅か三十一歲で將來はいざ知らず本島人高等官では先づ右の四人を數へなくてはならない、その第一人者李讚生氏が畜業五ケ年計畫で汗だくの內海太守の勸業課長であり得意や思ふべくである、李讚生氏本年とつて四十六歲、臺北州新竹郡和尚洲の產、夫人は臺人家で知らるる臺北市萬華の人、夫婦の仲に男ばかり七子ある「元も中に女を二人作つたが佛様になつちやつた」と李氏は呵々大笑し夫人も「女は苦手らしいんです」と相槌を打つてゐる、夫婦子供間一切國語常用者である、記者の訪問時に於て臨梅で次男清猷君であう、中等四年河文雄本朗讀の「日月は光を失ひ…」の發音も流暢なものである、五つになる弟雄生れの六男雄見君が走り出て來て父さんの傍近く寄らうとする、お顏が少々汚れてゐる、父君の李讚生氏「坊やのお顏は母ちやんに洗つて戴いたらもつと綺麗になりますよ」と巧に諭し再び現はれた坊やを見ると可愛い御面相に變つてゐる「官舍は畳ばかりの生活で御不自由でせう」と夫人に水を向けると「主人と永く內地に行つてゐましたので今では大して不自由とも存じません」とのこと「臺灣人の家庭では澤山の子供を一室に寢せられませんが、內地の畳は一室に三人でも五人でも寢られてとても結構ですわ」と仰言る、殊に「臺灣人の食事では下が土間ですから食べ滓を卓の下にどしどし捨てますけど、內地式の家では畳の上に捨てても出來ません結局綺麗な習慣がつき、こんなに氣持の好いものは御座いません」なる程、女にして初めて氣の付きさうな小さな氣持よいことを聞かされる、李讚生氏曰く「內臺融和に最も必要なのは共學、共婚だ、それから內地人の家には椅子のある應接室、本島人の家には必ず疊敷の一間を設けることが大事である、急激な生活の變化は人間を窮屈にさせ習慣性を催がれるやうになる」と、味はふべき言として大人や可愛い子供さん達の「小父さんさようなら」を後にし、之が本島人高等官李讚生氏の和やかな內地式生活かと思ひ記者も欣びに胸をときめかして辭す、朗かな本島人先覺者の多幸を切に祈りたい

寫眞は李氏夫妻

山豚にも二種類ある

高山と山脚地帶に棲むものとは違ふ

「猪」は全島の高山又は山脚地帶に棲息するが花蓮港地方の山岳地帶には特に多い、本島人はこれを山猪、タイヤル族はボーヤッカと呼び內地人は山豚と俗稱してゐる、この山猪は內地の「猪」と全く同一種類であるが、蕃地のそれは日本の古い傳說にあるやうに野性が乏しいやうである、花蓮港地方に棲息する山猪は高山のものと山脚地帶のものと大體二つに區別することが出來る、高山に棲息するものは標高八千尺以下の山岳地帶で內地の「猪」とはその形、毛色、性質等が酷似して居り、山脚地帶に棲んでゐるものは、氣温、食物、地勢等長年の影響を受け、その性質や形態に多少の變化を來してゐるやうである、即ち前者は形が小さく精悍であるに反し、後者は形が大きく動作が鈍重で豚によく似てゐる、それから山猪の棲息地帶はどんな場所かといふと、夜間から拂曉にかけて平地へ下り、田畑を荒らし、甘蔗、籾、甘藷、落花生等を漁り、それを牙に引つかけて山に逃げ込み、大木の下とか洞穴の中などを見つけて休息する、從つて農作物の被害はかなり多く蕃地などでは年々甘蔗を荒らされるので蕃人は山猪狩をやらせてゐる、本島人の「猪」狩が他地方から入つて來るといふ話である。「猪」の交尾期は一年二回で、一頭の牝猪が一回二頭乃至十二頭位を生む

特に面白いのは山脚に棲息する山猪が夜間部落にやつて來て、牝の豚と交尾し仔を生むことで、東部地方の在來種の豚は大抵山猪の血が交つてゐるといふことである、山猪の肉は美味であるが、殊に高山のものは脂肪が少く赤味が多く珍重され山脚のものは脂肪多く、味は豚に似てゐる、皮は食用又は藥用とする外、馬具用として良質のものになり、脂はラードに製し、[illegible]として賣る効能がある、高山蕃人は「猪」狩をするのに主に銃を用ゐるがアミ族蕃人は數十頭の獵犬を連れ槍を携へて山猪の棲息地帶を包圍する、獵犬は猪の姿を見つけるとグルリとその周圍を取まいて逃げられぬやうに防禦線を張つて了ふ、そこを蕃人は勇敢にも槍を以て猪を突止めるのだが、一突きで見事打止めればよいが、萬一手負ひにでもならうものなら「猪」は猛然と飛ばれ出し、忽ち牙にかけられて了ふ、猪と獵犬との鬪爭は實に壯觀を極めるといはれてゐる、蕃人は山猪を仕止めると非常の名譽と心得牙は頭飾りとし頭は獲物として獎勵する習慣がある、多いのは一家で二十數頭を室內に飾つて置く者もある、猪は自發的に人畜に危害を加へるやうなことはないが、人間のために怪我をしたり害を受けるときは猛然と襲ひかかつて來る、その直線的な迫力は猛獸のやうで、アッといふ間にその牙に倒されて了ふ、これ迄花蓮港地方の蕃人で猪の毒牙にかかつて敢ない最期を遂げたものはかなり多い、山猪は花蓮港地方の中央山脈、海岸山脈其他の山脚地帶に多く棲息するが蕃人はその姿を見れば手當り次第に仕止めるから年々減少して行くやうである

基隆讀詠

高草美濃路

夕登る八斗子の海をはるけみとわが立ち仰ぐ平和公園

むら立つの松の木の間の夕づく日かすかには見ゆ彭佳嶼の灯

風の音はしぶきにこもり夕づく日潤ふくれ來てむれ立つ千鳥

香山千潮

波荒く霧なかければ霧笛のサイレン鳴りけたたましくも

さかり居の霧笛守をねぎらふと媼しき品を贈り來にけり

伊豆野千耶子

現そ身のたつきと思へ霧笛の灯火近く見ほるかす海

この母の歸りを俟つてまりなげを遊ばんとする吾子の心はも

外出せし母を迎ふと久しくも門の邊に立つ吾子は愛しも

御室翠路

雨の日はいと暗りの急がれぬぬかるみ深くゆきなづみつつ

落ち水のゆく音のみの明けさに山家の秋はたそがれにけり

しみじみと地蟲啼くなり秋の草の葉はひそかに伸びつつあらむ

秋晴れにむつまじくこそは[illegible]め死新近からむと思ほゆる友と

景山行代

たたなはる嶺の連つ方を霞みただ一群の霧のま白し

吊橋にしぶきする波見て居たり霧は一羽[illegible]の上とぶ

大遊園都市を建設 新竹の發展を圖れ

青木新竹市尹談

昭和十年の新春を迎ふるに當り、吾が新竹市も一大飛躍を試むるところがなければならぬ、既に、當市の近郊に於て石油或は天然ガスの鑛脈が存在せられて居るが、必ず成功し、延いては吾が新竹市が將來又必ず工業都市として發展することを確信するのであるが、然しながら是等は市民の獨力に依るものではない、固より吾々は其の成功を祈ると共に、又市民自身の限りの援助盡力を吝むものではないが、他面同時に獨力を以て達成し得べきものを攻究しなければならぬと思ふ、其の問題は多々あることと思ふ、私は其の問題の中極めて重要なものの一として當市を大遊園都市化する企てを敢て提唱したいと思ふ。

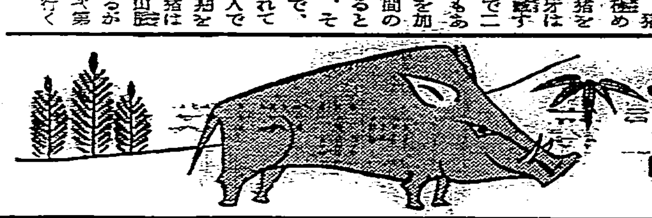
當市に五指山、李棟山を始として遠く中央山脈に大霸尖山の靈峰を仰ぎ、[illegible]此の大自然に包まれた吾が新竹市は元來自然的に遊園都市としての素質を備へて居るのであるが、更に之を助長して當市の地理的特勢のみに付て見ても極めて卓絶せる條件を見出すことが出來る、即ち北は頭前溪の清流には鮎の香が漂つてゐる、又東は十八尖山に至る一帶を過つて西の方牛埔山に至る一帶の丘陵のあることである、此の地帶は實に吾が新竹市に與へられた天惠の尤なるものである、是を活用し吾が新竹市を大遊園都市化することは誠に吾々市民の一大義務であり又當然の權利であることを痛感するものである。

而して此の地帶遊園化の方策は、一にして足らずと雖も、先づ以て十八尖山即ち所謂森林公園と牛埔山即ち新竹神社の外苑地帶に夫々自動車道路を縱橫に開鑿し之を基本として大規模の遊園地を造り更に其の兩遊園地を連絡する自動車道路を丘陵傳ひに開鑿することが肝要であると痛感する。

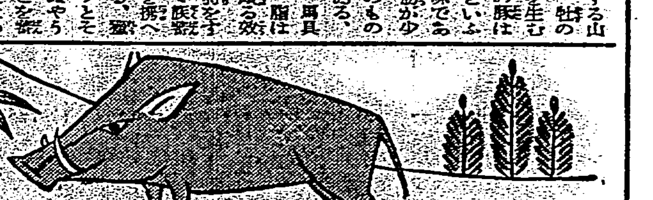
吾々は吾が新竹市が發展都市として何時までも其の本質に安ぜられることは全く吾等に堪へない、之を除去し、之を打開さんとするには一大決心と熱烈な努力とがなければならぬ、此の決心と努力とは如何なるものに對して爲さるべきか、天與の恩惠を強く認識し之を大いに活用するに用ゆるの外他に良策はなからうと思ふ。

見よ、吾が市を圍繞する丘陵、此の丘陵の地帶は實に天與の恩である、故に吾々市民は此の點に深く意を用ゐ、相當努力して之を眞の遊園地に完成しなければならぬ、而して市民の精神を[illegible]し、活力を涵養し、他面外來の客を吸收して都市の發展に資し、以て將來の實際に寄與する所がなければならぬと思ふ。

年頭に當り、國運の隆昌と吾が親愛なる市民各位の幸福とを祈る次第である。



謹賀新年



新竹郡

舊港庄役場　庄長 許三全　助役 遠藤善代治　會計役 鄭根塗　外職員一同

新埔庄役場　庄長 富山富利　助役 潘欽龍　會計役 楊署勝　外職員一同

關西庄役場　庄長 佐藤今朝松　助役兼會計役 徐嶽生　外職員一同

六家庄役場　庄長 何金城　會計役 周標　外職員一同

香山庄役場　庄長 陳雲如　助役 蔡順來　會計役 蔣玉珪　外職員一同

苗栗郡

苗栗街役場　街長 宇佐美信吉　助役 黃運元　會計役 富岡金藏　外職員一同

公館庄役場　庄長 黃玉盛　助役 湯甘稻　會計役 劉照春　外職員一同

銅鑼庄役場　庄長 本田達　助役 吳蘭森　會計役 連東安　外職員一同

三叉庄役場　庄長 陳永財　會計役 湯有榮　外職員一同

苑裡庄役場　庄長 陳嘉貴　助役 諸岡助　會計役 郭萬最　外職員一同

通霄庄役場　庄長 陳錫琛　助役 兒玉市次　會計役 邱雲河　外職員一同

四湖庄役場　庄長 張恩盛　會計役 郭達信　外職員一同

新竹市東川 玉川寫眞館 電話 [illegible]

竹南驛前 御料理 竹廼家 電話四壹番

新竹市東門 大國屋吳服店 電話 [illegible]八番

和洋雜貨 新州屋 電話 [illegible]

新竹市 內海忠司

新竹市東門外二番地 青木健一

新竹市東門外一番地 荻阪進治

新竹市旭町 塚本清吉

新竹市旭町 高木秀雄

新竹市北門 衛藤壽吉

新竹市協議會員

大塚才太郎　張式穀　陳傑　張其祥　林鑑　李良弼　劉萬　太田重助　大磯友明　何乾欽　田中濱次郎　連煥明　中內猷治　永石安三郎　藤原彌藏　古雲梯　小出正美　澤田佐吉郎　許延壽　森本健助

新竹驛長 又吉光憲

新竹 專賣局出張所長 小川末登

新竹市東門外 松野清純

新竹市驛前通（電話六〇六番） 辯護士 黃運金　事務員 劉森榮　同 李開林

竹東街 宮本金助

新竹市驛前 眼科專門 黃眼科醫院 醫學士 黃娘抬

新竹市水田 新益發商行 電話 [illegible]

喪中に付年賀缺禮仕り候 新竹市北門 周敏益

臺灣酒類賣捌人組合新竹支部　臺灣煙草賣捌人組合新竹支部　臺灣食鹽元賣捌人組合新竹支部　新竹酒煙草小賣人組合聯合會

新竹市南門外 臺灣金泉發蓪草株式會社

大礒醫院　永石醫院　山下醫院　小田醫院

國際通運新竹支店　日東商船組新竹支店　大同運輸合資會社　泰益運送部　聯結運輸組

新竹 カフエーオーム

新竹州米穀商同業組合　新竹州米庫利用購買販賣組合

香山信用購買販賣利用組合

新竹市水田 有限責任 樹林頭信用組合

新竹州新竹市 有限責任 新竹信用組合

新竹消防組

新竹郵便局職員一同

新竹市 苗加寬三

新竹市新竹字西門五二一番地 臺灣蓪草拓殖株式會社

新竹州協議會員

清水源次郎　桑原佐一郎　鈴木壽三　大江退作　鄭肇基　何金城　何友家　岡本賢一　吳鴻森　青木行清　本山直枝　山本新太郎　姜瑞昌　陳調元　劉德欽

新竹州食堂會員一同

竹南郡

竹南庄役場職員一同

南庄庄役場職員一同

頭分庄役場職員一同

造橋庄役場職員一同

三灣庄役場職員一同

後龍庄役場職員一同

新竹州新竹市 新竹昭和鐵工所

新竹市 江上商店

新竹驛前 村田齒科醫院

新竹 竹塹麻雀俱樂部

タカ印ランプ・器具 卸問屋 新竹市東門町 總成商店

新竹市 綿布商 茶茂商行 自動車部

新竹市北門七一 佐瀨洋服店

新竹市東門市場前 合發材木商行

清潭食料品店 店主 魏清潭

新竹印刷合名會社

新竹州竹北驛前 捷成米穀商 魏海水

新竹市東門 福榮商店

謹賀新年

天下ノ 名取屋

日本生命保險 臺中代理店 臺中市大正町二丁目 水田胸二

臺中市大正町三丁目 平井順次郎

臺中市寶町二丁目 臺中工藝傳習所 山中公

臺中市錦町二丁目 棚邊久太郎

有限責任 臺中協贊信用組合 臺中市新富町三丁目二六番地

臺中市橘町四丁目 東洋商會 張清泉

文房具 紙商 臺中州臺中市榮町一丁目 傍士商店

本店 臺中市旭町八丁目 佐野商會

共和自轉車商店 陳萬興 臺中市新富町四丁目 電話九五四番

臺中市御市場魚介部 仲買人 寶鱗組合

臺中市榮町二丁目 廣裕興商會

臺中市綠川町四丁目 廣裕興支店

中央車輛製作所 臺中市明治町四丁目四番地 中村清作

新ガラス コークス 臺中市旭町六丁目 源益昌商店 胡美

臺中樂舞臺公司

臺中市錦町三丁目 力餅

西洋料理 臺中市榮町一丁目 精養軒

臺中驛前 醉月樓 王川流

堀江商會

臺中市榮町五丁目 小林株式店 電話八〇八番

公債株式 現物賣買 臺中市大正町四丁目五 林株式店

臺中市新富町 富貴亭

所在地 臺中市新富町 榊原辻太郎

臺中市錦町二丁目 森文具店 森廉

西洋御料理 臺中市寶町二丁目 大正軒

臺中市寶町二丁目 平戸食料品店

臺中市大正町 馬場商店

專門 佐藤文化堂 佐藤仁彦

日用雜貨 堀食料品店

臺中驛前 運送店 楊阿居

本店 中和旅館

支店 中和ホテル

御料理 臺中公園内 弘園閣

臺中市 柳屋食堂

臺中 サロン日活 本店大正町 支店榮町

臺中市 カフエー ダイヤ 一同

臺中市 白鳩堂洋紙店 杜亮

文具 印刷 尚文堂本店 魏坎

臺中市錦町 平田商店

臺中州臺中市橘町四丁目 禎祥拓殖株式會社 取締役社長 林烈堂

生徒募集 臺中實業講習所 司法代書人 黄況

臺中市橘町二丁目 帝國運輸株式會社

新高郡集集庄水裡坑驛前 日月潭自動車商會

臺中州自動車協會

臺中市榮町 臺灣地方自治聯盟本部

臺灣産業資源株式會社

臺中貸座敷組合一同

臺中刑務所製品 室内裝飾洋家具 臺中市寶町二丁目 松本商店

東京内田靴鞄店 臺灣臺中寶町二丁目 臺灣出張所

臺中市寶町三丁目 福井治雄臺中支店

保證責任 臺中厚生信用販賣購買利用組合

合資會社 豐中商會 中清自動車株式會社 社長 張清泉

臺中商工協會

臺中市橘町四丁目 蓬萊劇場 吳子瑜

有限責任 臺中信用組合

臺中消防組

臺灣臺中市錦町二丁目 丸三大薬房 藤井二康

臺日運動具部 臺中市寶町二丁目三番地 臺中販賣店 電話一四一番

臺中市寶町二丁目 福原銃砲火薬店 電話一二二番

喪中ニ付年賀ノ御挨拶缺禮仕候 貴田商店 臺中市寶町二ノ六

内外鑛産 食品食器 保險代理 臺中市大正町二丁目 榎臺中支店

御旅館 寶町二丁目 蓬萊館

臺中市綠川町 高須印刷所 電話二七六番

臺中市 藝妓 富貴亭仲居 一同

臺中料理屋飲食店組合

臺中州酒類煙草小賣人組合聯合會員一同

映畫常設 臺中市大正町四丁目 娛樂館 館主 角田金作 電話九五六番

歐米雜貨 武術道具 臺中市寶町貳丁目 清水本店

臺中市榮町三丁目 清水支店

臺中材木商

東勝材木商會

東興材木商行

松山商行

協和商行

鐘三振商行

大森材木商行

謹賀新年 酒類賣捌人組合臺中支部

川端昇太郎 水田胸二 津島吉兵衛 高井九平 古藤誠助 矢住信夫 大岡泰曉 楊全 林建宗

笹川貫治 富田四郎 中山蕃直 柏玉彌 蔡谷邦 雨信雄 林嘉總 林亮 王峻槐

謹賀新年 臺中公園前 御旅館 青辰 電話四七番

御料理 日之本

臺中市橘町四丁目 臺中州米穀商同業組合 臺中州米穀信用販賣購買利用組合 役職員一同

カフエー ムンパレス

第二カフエー ムンパレス (新開業) 彰化驛前

加納芳次

古市虎熊

臺中吳服商組合 石川吳服店 平吳服店 肥後屋吳服店

臺中市醫師會 (イロハ順) 山本宗三郎 南尚一 辻守昌 宮原武熊 石津坂一

臺中市驛前 千代乃家旅館

臺中市榮町二丁目 常磐木ホテル

臺中市大正町二丁目 春田館

臺中市榮町 松山旅館

臺中二一會

馬場商店 河村商會 華生園 高橋糸店 棚邊書店 内田靴店 丸三薬房 マスニヤ商店 丸一商會 安西商店 吉備商會 調商店 末廣菓子店

臺中州食堂會員一同

臺中市 大東信託株式會社 社長 林獻堂 專務 陳炘

帝國製糖株式會社

本社 臺中市高砂町十八番地

出張所 東京市麴町區丸ノ内有樂館 大阪市東區瓦町山口ビルディング 北海道小樽市色内町拓銀ビルディング

新高製糖株式會社

彰化一工場 彰化郡和美庄中寮

彰化二工場 同 電話彰化(四四番)(四六番)

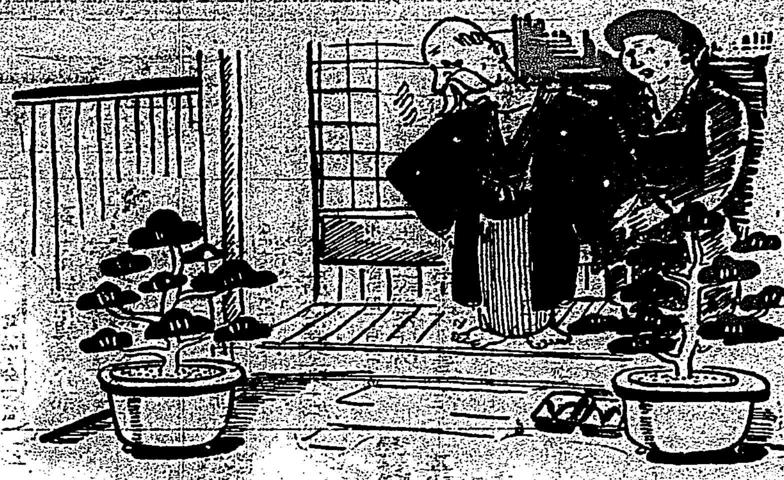
嘉義工場 嘉義郡大林庄大湖 電話大林一番

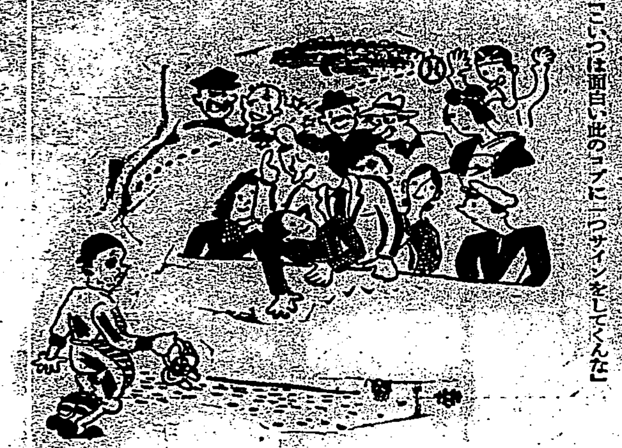
大阪工場 大阪市此花區春日出町上七丁目四番地

大阪事務所 大阪市東區博勞町二丁目一番地

東京事務所 東京市麴町區丸ノ内二ノ一八

新春マンガ

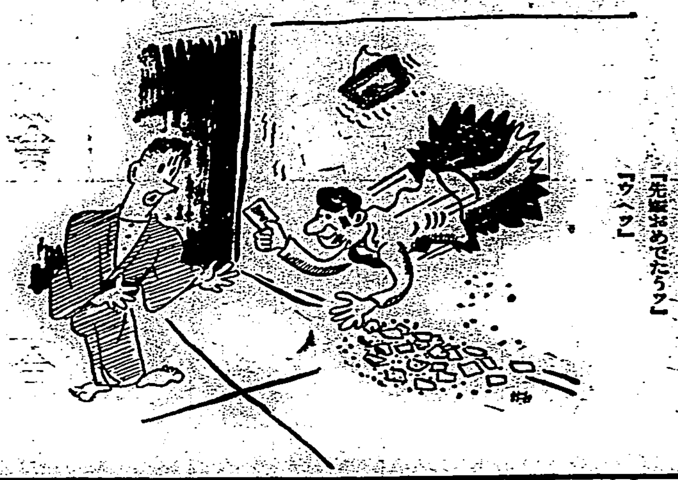

「世は非常時ちや門松はこれでよかよか」


サイン狂にボールが命中したです
「こいつは面白い此のコブに一つサインをしてくんな」

猪突猛春
亥の年の男がヨツパラつたら「もち、真直に歩いたですよ」

○は○でも
「まあどうしたの餅を一杯にひろげて」
「なあに○オクレつて親父に電報打つたらこいつを送つて來たんだよ」

屠蘇機嫌の猪突猛進
凸「岡山の野球もすんださてこれからどうせう、未だ時間も早いぜ、行かうか戻ろか」
凹「今晩は[illegible]ちや、景氣よく猪突と決めやうや」


猪の一番ラグビー選手の年始
「先輩おめでたう」
「ウヘツ」

昭和の宮本武藏クン
考へたりナ服野井〔?〕「サア來い、一人一人は面倒だ、束になつて來いゲーブン」

最後の接戰
出目金助「アリヤ、リヤ、ヅルイヤ貴ケソウテナルト、借錢ナンカハルナンテ…」

謹賀新年

員林郡醫師會

臺中州柑橘同業組合

員林郡守 豐澤勇治

青果物移出商 ㋻ 員林 建昌商會

員林消防組 組員一同

員林 秋永長吉

青果物移出商 ㋖ 員林 員林名産商會

青果物移出商 ㋕ 員林 黃火在商店

(ロ) 員林 通成百貨店 電話貳六番
旅館部 東洋ホテル 電話貳貳番

徳壽堂大藥房 度量衡器販賣特許人 李俊黨 電話參八番

有限責任 大村信用購買利用組合

坡心庄長 黃褒忠

陳天助 永靖庄

陳作忠 永靖庄

保證責任 永靖信用購買販賣利用組合 電話員林貳〇六番

員林商工會 電話參八番

員林郡 有限責任 田中信用購買利用組合

員林街 張清華

員林郡埔鹽庄長 康傳

員林郡埔鹽庄 施璜

員林郡 有限責任 社頭信用購買利用組合

有限責任 員林信用購買利用組合

員林東寧商會 劉益岳

員林街 鼎益興商店 游海樹

員林街劉益興商店 肥料商 劉標 電話六拾五番

會席御料理 元春樓料理屋 員林街 電話貳永

三笠自動車合資會社 代表者 力武卯八 員林街五一〇 電話五六番

員林街 新延年藥房

魏天德 永靖

永靖郵便局長 永井貞次

員林郡永靖 御料理 醉樂樓

張有火 永靖庄

邱傳利 永靖庄

佐々木定証 溪湖庄

御料理 東芳樓 溪湖庄

御料理 祝樂天 溪湖庄

御料理 太平樂 溪湖庄

員林郡溪湖庄 御料理 新開樓 電話貳四番

溪湖保甲聯合會長 楊木 電話參七番

員林郡溪湖庄 維新醫院 電話貳五番

肥料卸商 大成商會 溪湖本店 員林支店

員林郡溪湖庄 楊營 電話三二番

行政司法代書人 楊海桐 溪湖庄

溪湖 員林 御料理 鮮月樓 朴永基

員林街 待客親切 カフエー 銘國 電話貳四番

員林郡 保證責任 坡心信用購買利用組合

員林郡田中庄 食鹽元賣捌人 王萬傳 電話七番

豐原郡內埔庄四塊厝 蔡汝修

豐原街 ことぶき料理店 電話貳〇番

泉商行 紀必笑

有限責任豐原信用組合 組合長理事 陳章

御料理 醉翁樓 電話貳七番

藥材、材木 謝協源本店 電話四七番

御旅館 高砂館 岡本フミエ 電話貳貳番

御旅館 員林ホテル

員林米穀商會 電話一〇二番

臺灣員林 青果物移出商 園角美商會 陳建勳

員林街 青果物移出商 ㊂ 張厚

員林 張銅水

員林街 明和印刷所 汪平 電話貳五番

員林街 中山洋服屋 鄭仁天

大村庄長 喪中缺禮 賴維種

金物商 時計販賣 貴金屬製造 員林郡永靖 純青居 邱沛然

蕭雲章 田中庄

員林郡田中 肥料商 潁川商行 電話貳番

田中庄長 武部幸一郎

員林郡田中庄 北斗米穀商協會

蕭敦仁 田中庄

臺中州豐原郡豐原街 臺中輕鐵株式會社

臺灣豐原街 臺灣製麻株式會社 電話一番

豐原男子公學校長 星萬壽雄

豐原 岩下實業

宗藤大陸

豐原 張祖蔭

豐原 期米・正米・株式・三品賣買仲介 瑞倉商店 電話一八〇番

豐原郡內埔庄 有限責任 內埔信用購買販賣利用組合

豐原郡大雅庄 喪中ニ付年始缺禮仕り候 張文德

豐原 榮裕商行

豐原街 裕豐支店 本店臺中市

豐原女子公學校長 山崎睦雄

豐原 陳蔡喜

豐原 林祚熿

世間に認められた世間唯一の血液 血素 豐原街 新高商會

豐原 イロハ料理屋 渡邊寅吉 電話貳九番

豐原 大隆商事株式會社

豐原郡內埔庄 張堪 電話貳拾七番

溪湖庄長 楊本 電話一六番

員林郡溪湖庄 李功垂

保證責任 二水信用購買利用組合 役職員一同

社頭庄長 戶床政憲

社頭庄 蕭煥奎

田尾庄長 北斗信用組合長 黃深泉

田尾信用購買販賣利用組合 組合長 邱漢水 外役職員組合員一同

溪湖信用購買販賣利用組合 電話一九七番

謹賀新年

今川淵

林田正治

佐々木金太郎

古澤勝之

臺南 若槻道隆

田中友二郎
松井治吉
渡邊節治
矢野速吉
石井權三郎

臺灣總督府糖業試驗所長 岡出幸生

臺南州新營街 勝又奬

藤野幹

臺南州新豐郡守 太田周夫

臺南市本町三丁目 澤田洋服店 電話一七九番

臺南市明治町三 川中鐵工場 電話五八壹番

臺南市錦町三丁目 三勇自轉車商會 電話參八參番

臺南市錦町 村上初太郎商店 電話壹九八番

●昭和九年度より一割引配當實施します 帝國生命臺南代理店 主幹 幕内菊太郎 電話貳參○番

高級家具販賣 椅子窓掛敷物 木工品設計製作 臺南銀座 中村洋家具店 電話貳八五番

林藥局 藥劑師 林虎三 臺南市潤町二丁目 電話七七參番

第五十三區煙草賣捌人 許廷光 電話七參壹番

臺南漢葯種營業組合 組合員一同

臺南綿布商組合

臺南淺草 マーケツト組合

臺南市錦町三丁目 長岡自轉車商會 電話七五三番

臺南市 養元堂藥房 三輪良 電話四參番

臺南州警務部保安課内 臺南州自動車協會

臺南市港町二ノ二三 臺南州自動車講習所

臺南市大正町二丁目 御料理 鶯遷閣 電話五五七 五貳番

臺南市銀座 印刷紙器 水木本店 電話五四五番

臺南宿屋組合員一同

煙草賣捌人組合 臺南支部

酒類賣捌人組合 臺南支部

臺南三郊組合 代表者 陳明沛 同 盛世澤 同 張江搴 外組合員一同

臺南州購買組合

臺南市銀座(電話參九八番) 漆器家具荒物商 五端第二支店 主任 山本壽太郎

臺南市西門町四丁目 阿波藍印絆天 劇場引幕 其他印物一式 角屋染物店

明治製菓の洋菓子 喫茶 食堂 トヨダ 臺南市末廣町 電話參七番

臺南市清水町三ノ六 住吉組 中井清枝 支店 臺北市 出張所 帝國生命保險會社代理店

臺南市大正町二丁目七五番地 株式會社 安部幸商店 臺南支店

銅鐵工具及自動車販賣 合名會社 山田商店 本店 臺南市大宮町三丁目 出張所 高雄市新濱町一丁目

野村精策

余縄章 臺南市大正町二ノ三

臺南市壽町一丁目 株式公債 米穀問屋 啓源商行 電話九九九番

臺南市本町二丁目 三共金物店 電話壹○九番

臺南市大宮町 山吉金物店 電話四八參番

天幕各種貨車雨覆 ゾツク製寝具 卸行手ゾツク製品 臺南市港町二丁目 森川シート屋 電話八〇九番

臺南市大宮町三丁目 鴻文活版舎

活版印刷 新盛文堂印刷所 臺南市壽町一丁目

臺南市本町二丁目六二 金義興商行 王汝禎

臺南市港町壹丁目六番地 海陸產物卸商 永茂商行 電話貳五七番

臺南市 協昌商行

臺南市白金町二丁目 臺灣物產 建鳳物產店

順發號 邱老方

臺南市西門町二丁目 展南藥行 主 康再成

臺南市本町三丁目 菓子と喫茶 トミヤ 電話九七參番

臺南市錦町三丁目 橋本紙店 電話參參八番

臺南市大宮町三丁目 橋本紙店印刷部

臺南市白金町二丁目(電話六六九番) 西陶器店
臺南市本町二丁目(電話貳四參番) 西提灯店
臺南市本町二丁目(電話參參參番) 西履物店

臺南市北門町貳ノ參七 永野商店 電話九五壹番

臺南市西門町四ノ參七 森山園茶舖 電話六〇八番

臺南市錦町貳ノ八九 菓子商 紅葉軒 電話參六壹番

臺南市田町 今林商行 電話六六貳番 魚源

臺南市末廣町 ハヤシ百貨店 電話六〇七番

大日本鹽業株式會社 本社 東京市麴町區丸ノ内二丁目六番地 支店及出張所

臺南銀座 レストラン カピタン 電話一二〇〇番

諸機械金物商 吉田商店 臺南市大正町二丁目九番地 電話五六參番 私書函第十七號

臺南 寺川印刷所 寺川喜三郎 電話參五八番

臺灣弘仁株式會社 臺南市白金町四丁目 電話四一〇番 高雄出張所 電話二三番 嘉義出張所 電話二〇六番 屏東出張所

臺南驛前 臺南タクシー株式會社 電話三〇〇 七五一番

五端第三支店 臺南市港町一丁目 電話三七一八番

歐米雜貨 貴金屬類 書籍文具 運動用具 小出商行 臺南市白金町

臺南 御料理 鶯 電話四〇九番

臺南和洋雜貨商組合 臺南和洋雜貨商 安業貯金會 事務所 臺南市本町四丁目 電話五八番

臺南市郵便本局前 松金料理部

臺南市本町三丁目 松金旅館

文具商 臺南市白金町二丁目 いろは堂 電話四七四番

臺南市大宮町 頃安開進堂 和洋紙類 文房具類 活版石版材料一式 同 印刷部

臺南市本町三 羅紗綿布商 八幡商店

臺南市明治町二丁目 御料理 一筆 電話參四七番

臺南市 御料理 小梅園 電話貳七番

臺南貸座敷組合 電話九八二番

臺南市大正町二丁目二〇番 土木建築會 電話八一六番

臺南市港町 電話七四番 豐國火災保險株式會社代理店 材木 板類 佐々木商店 高雄支店 セメント 佐々木嘉義出張所

臺南市田町四二番地 臺灣南部無盡株式會社 取締役社長 栗山新造

皆様の最も良き娛樂場 映畫劇場 臺南 宮古座 電話一二四五 二〇六番

臺灣倉庫株式會社臺南出張所
臺灣運輸株式會社臺南支店
合資會社南部運輸組
國際通運株式會社臺南支店
株式會社日東商船組臺南支店
丸三組運送店

臺南市新町一丁目九八 臺南氷業共同計算所 電話一九一番

◆洋畫と新興映畫 臺南 世界館 ◆毎日晝夜二回興行

臺南商友會 (順はろい)
西村商會
越智商店
宅商會
辰馬商會
矢頃商店
近藤商會

產業組合臺南六日會
信用組合臺南友信會
信用組合臺南興信社
臺南信用組合
臺南庶民信用組合
臺南建築組合

臺南州食堂會員一同

短歌

安成二郎選

一等　新竹　星田德夫

とどろ波寄せては返すこの島は太平洋のわだつみの中

淼々たる平敍のやうであるが、底にはつきりした主観を擬して見る歌である。寄せては返す波を見るにつけても、それが涯なき太平洋の波であり、自分の立つてゐる島はその大海の中にぽつんと存んでゐるのだといふ感慨が歌はれる。非常時の元日の歌として見るとき特に面白い。

二等　基隆　長田一郎

御園生の池に遊べる田鶴群を遙かにおもひ御代を祝く

鶴の歌はむづかしい。殊に池塘園と所在を限定されては動きがつかない。尤も吾々は池の鶴しか目にしないのであるが、それだけに鶴の歌は殆んど平凡であつた。中にこの歌は想像の飛躍があつて歌ぶりも巧みである。新年の作として申分がない。

三等　臺東　篁人

浪荒き太平洋のただ中に初日拜まば事し足るべし

太平洋のただ中にて年の初日を拜むことが出來たらよからうといふので「事し足るべし」は外に思ふ事なしといふ程の意味であるが、歌としてやゝ條理に乏しい憾みがある

佳作

臺北　岡部勝子

新たなる眞陽の輝やきまかげして太平洋の朝凪きに立つ

臺北　林田正雄

初日さす太平洋は波もなく大空のもと唯にはてなし

臺北　山本柳子

太平のわたつみ明く初日さし今年のみくに安らけくこそ

臺北　武田隆夫

宇ち寄する太平洋の浪の音ただに恐れじ島守る我ら

この年も太平洋の安かれとみなみのはてに初日をがめり

黒潮の躍る南の岬にて太平洋にのぼる日を見る

臺東　和田恒好

おごそかに天照す日の昇り行く太平洋の曉の空

選外

陽の丘の邊に立ち見はろかす太平洋の黒潮の色　佐賀縣　安永宗春

おほらかに初日かがよひ何事もあらざる如し太平洋は　新竹　鄭嶺秋

黒潮の渦まく岩に爪立ちて太平洋の初日おろがむ　臺北　宮尾照子

新しき年の光のさし出でて池邊の田鶴の聲さやかなり　臺北　島村喜

高砂の島のしづめの神垣のみ池の田鶴の千代よばふなり　基隆　松本はるを

ひた寄する太平洋の波の音を聞きつつ島に生くる嬉しさ　北門　中島睦子

太平洋その波に浮く小さなる島にしあれど神在ます國

事多き世にかかはらず靜かにも太平洋に今日も昇る　大南澳　吳阿泉

雪降るる太平洋の海原をはげしく燃やす初日の出かな　基隆　岡幸二

世をあげてことほく春を迎へて太平洋を照りわたる日は　基隆　帝岡南海子

非常時の太平洋に新らたなる光がかがやき初春は來ぬ　旻野縣　宮澤邦彦

太平洋にあがる初日の大いなり子等慾あげて拜かみまうす　臺北　武田直子

噴水のしぶきをあびてあしたつぼ朝の日光にみじろぎもせず　臺北　秋月規人

綠に立てば防風林の梢にて太平洋の波の香るみゆ　基隆　佐々木櫻子

池の邊におりたつ田鶴のしろき羽根あざやかにはえて日はさしてゐ　臺北　中島相子

うらうらと初日かがよふ池の邊に鶴やすむなる鶴の靜けさ　臺北　佐藤郁子

大空のかげうつろへる池の邊に鶴の初聲高ひびくなり　臺北　芥川芳明

元日の清く澄みたる池のべに立つ影長し丹頂の鶴　基隆　御園履信

人通り少なき午後の公園に影靜かなり水際の鶴　斗南　信國三緒

太平洋はさ靜かなり砂濱にとんど焚く見ゆ子等の集ひて　臺北　本郷ミツ子

煙々しくも太平洋に乘り出でて國守る海のつはもの　臺北　森平正人

しづやかに亞細亞のはてにひろごれる太平洋の初日の出かな　文山　賀永春日

明滑み池の眞清水張り澄みてまな鶴ひろそぐ影のゆたけさ　臺北　大桃一倍

雪光る高砂うつしてまさやけき宮居の池のつるほけたかき　文山　森谷美奈春

公園の朝のしじまをゆるがせて池邊の鶴は羽ばたきにけり　鹿港　丁酉山

初日さす池のほとりを靜かにも鶴歩み居り南國の春

俚謠

若草會同人選

天位　臺北　伊地知美惠子

伊達ぢや照らさぬ太平洋の波を治めに出る初日

地位　臺北　渡邊三星一

昇る初日に君萬歳の意氣で羽搏く池の鶴

人位　臺北　高井花之助

吠えろ仇波太平洋の潮で磨いた腕がなる

五客

臺北　曉馬猿

鶴の聲から御題の春が明けて初日に染る池

瑞芳　更家紀の子

國の光りを太平洋の波に映じた初日の出

新竹　津田加壽雄

鶴の水影一きは澄んで松の葉風に薫る御代

臺北　江夏紅邨

ならば見せ度い太平洋で波に鍛えた腕の冴え

臺北　紅家お紺

どんと來たとて太平洋の濤にや碎けぬ大八洲

秀逸

鶴に御慶のつもりで來たか池に降り立つ夫婦鶴　宇野直一郎

起せ初鷄太平洋の星の國では未だ覺めぬ　佐藤重利

御題畏む池邊の鶴に鶴が御慶を述べて居る　富永翠山

吼えろ太平洋荒波飛沫國は亞細亞の防波堤　森永淺一

池の邊りに首さしのべて鶴も長閑に初化粧　宮尾番岳

何を氣にして太平洋を圍むお國の眼が光る　笑面坊

千代に榮ゆる大内山の池の邊りに鶴の聲　石村耕舟

揚る國威は太平洋の濤に映え行く軍艦旗　安良城あの字

聞けよ若者御池のほとり國威あげよの鶴の聲　明曉星

非常時局の太平洋に旗を拔け出た日が登る　外ヶ濱伊大留

佳調

五五三では太平洋の波の靜まる時は來ぬ　紅村

霽ぎの一聲天まで澄んで田鶴も長閑な池の端　お三輪

裏は日の丸太平洋の空を制して初飛行　綱子

うねりどんと打つ太平洋の浪にやびれぬ海女もある　二輪

日出度初日で黄金の波だどんとどんと來い大八洲　伊大留

春をカメラに納まる御代を歡ぶ御國の夫婦鶴　馬猿

飛翔日本の初日は明けて池邊靜かに鶴が舞ふ　紅邨

池の水面を鏡にかへて化粧してる夫婦鶴　お睦

物は言はねど太平洋の波は世界に呼びかける　萬順

人も持ちたや太平洋の廣くゆたかな心意氣　艶女

明けて嬉しい鶴の床に掛けた池の夫婦鶴　水村

昇る初日に一さし舞うて丸く納まる池の鶴　如山

見やれ太平洋めりけん浪を東風が靜めて明けの春　無節郎

千代の友鶴池邊に群れて御國長閑な御代の春　萬順子　あの字

追加　小松獨鯉

[illegible]

初装ひ　野村誠月氏畫

亥の歳生れの文藝家オン・パレード

筆頭は德富猪一郎翁

ををしま・ひろし

昭和十一年の新文壇に、亥の歳の特色を背負つて立つ人々にどんな人があるか

まづ現文壇に於て活躍する人々の中で、亥の歳に生れた人々と言へば、古く文久三年、明治八年、同二十年、三十二年生れとなる。恐らく四十四年生れの中には、文壇に一本立ちを以て認められるものは殆どない。しかも文久三年、明治八年と言ふに至つても言り話ると言ふわけにはゆかない。[illegible]

德富猪一郎氏

ひとなる。文久三年では、日本が生んだ世界的文豪德富蘇峰こそその名を思し得る。本名を猪一郎、明治二十三年「國民新聞」を發刊して以來三十年、昭和四年一月に至るまで社長兼主筆として[illegible]

老翁は近世日本國民史を始め、實に百身以上を數へてゐると言ふ

▲……▲

明治八年組では、漱石の名をもつて句作多き大谷正信「寒川鼠骨」の俳生文藝の一著に依つて知られる寒川陽光、國際大學教授として令名を馳せたる野口米次郎がある。二名共に詩或は句を以つて文壇に貢獻するに過ぎない

▲……▲

明治二十年組になると、現文壇に於ける優秀を集めたるの感がある。江口渙、折口信夫、加藤一夫、長田幹彦、西村陽吉、灰野庄平、林和、宇田良平、正木不如丘、水上瀧太郎、山本有三などが、皆二十年亥の歳組であり、更に女流[illegible]

折口信夫氏

文壇の長谷川かな女もまさしく此の仲間入りをしてゐる

江口は東大英文科を中途にして退いて東京日日新聞記者たること暫時、左翼文壇の闘將としてプロレタリア文學華やかなる頃「惡と辛辣」「勞働者誘惑」を發表して、その存在を價値づけた。[illegible]

共に著名である。國學院大學教授となる前、國學院大學教授として、であつた頃から、既にして彼の詩藝は文壇に於ける注目を呼んでゐた

出生は大阪市である

加藤は紀州和歌山縣の生れで、明治學院神學部卒業後、しばしの間傳道に從ひつつあつたが、自らの傳道を以つて良く多衆を感化し能はぬことを識ると文藝生活に入り運動に參じ、傍ら文藝生活に入り「村に歸る」「幻滅の彼方へ」などを著した過去を有つてゐる

長田は現日本文壇に於ける一旗頭であり、ドラマチスト文學に依つて文壇に[illegible]

長田幹彦氏

正木不如丘氏

[illegible]

西村は長田と共に東京に生れた小學校を卒へたと言ふ以外に學歴は傳へず、文學青年の歌を經驗すると共に「歌集」と「自由」を詩とし、石川啄木一を著し、その文學的價値を世に問うた。昨今の彼の不振は、[illegible]

灰野は近代歌壇の重鎭[illegible]

[illegible]

正木は現在高原日光療養所長として、[illegible]

水上は本名阿部章藏、[illegible]

山本は栃木縣が生んだ文人、[illegible]

本大學文科の新城に立てこもる、[illegible]「女人哀詞」の名作があり、問題作「風」の著がある

▲……▲

明治三十二年組では石濱金作、藤本靖一郎、川口松太郎、貴司山治、菅忠雄、武野藤介、德永直、森岩雄、舟木壯一郎と女流文壇から中條百合子が入る

貴司山治氏

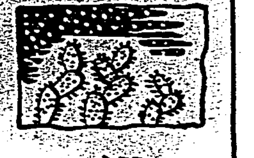
そのうち、貴司山治、德永直、中條百合子は往年プロレタリア文壇に、詩評と共に名を成した錚々たるところで貴司は[illegible]

至つては、昨今新聞三面に傳はる左翼行動により、その文名以上に彼女の名は社會に喧傳されてゐる

石濱は文化學院の教授たる事暫時文名は昨今の選を以て[illegible]

川口は雜誌「苦楽」の編輯に從ひしことがあり、[illegible]

三野は岡山縣の出身で、[illegible]



俳句

彬々子選

天　臺北　藤並三葉

蘆田鶴や初明けの池に湯氣はえる

地　斗南　信國亞椰子

書初や太平洋を前にして

人　佐賀縣伊萬里　安永宗春

左義長の灰かかりけりはらひけり

五客

臺北　芹野咄々

初晴や鶴なごやかに池あゆむ

臺中　森良月

初日今あかねうねりの太平洋

樹林　東郷西人

新らしく買ひし棚田や鋤初め

臺北　田畑快泉

初空や皇國に續く太平洋

汐止　福山秀子

太平洋濤高けれど大初日

佳作

臺北　江原米子

[illegible]

川柳

大屯坊選

題　太平洋、池邊鶴

一等　彰化　梶山正男

太平洋黒眼碧眼の土俵なり

二等　臺北　島田舍

池邊鶴片脚あげてウインクをし

三等　同　渡部新吉

五・五か三の度胸に辟易し

佳作

臺南州北門　土持愛山

太平洋飛ばか潜ろか九千キロ

臺北　井上居士

太平洋星の惱みの種となり

同　宮尾蕃岳

太平洋凸凹比率波をたて

新竹　鄭嶺秋

山本は太平洋を呑んでかかり

新莊　山田良雄

太平洋かき廻すにはてつか過ぎ

秀作

基隆　一啄

軍縮を釣る冊もあり太平洋

太平洋環來洋と名が變り

太平でない日も來よう太平洋　土庫　吳坤成

太平洋へ世界こぞつて砲を向け

コダックへ池邊の鶴はそつぽ向け　北門　糸原勝

火遊びを太平洋の上でする　臺北　田畑快泉

太平洋日本音頭が寄せて行く　臺南州北門　土持愛山

太平洋臨くな日本男子あり　臺北　江夏紅邨

溢ぎすぎて喧嘩にならぬ太平洋　新竹　片岡青人

此の頃は仇波も立つ太平洋　東京　郭章垣

本年は太平洋と申されず　臺北　宮尾蕃岳

戰爭は彼方の噂音太平洋　嘉義　多久治

平常だ太平洋だきつ平ら　臺北　吳太坊

太平洋越えれば明けぬ星の國　臺北　千代

太平洋西と東で睨み合ひ　基隆　平島一夢

文明の利器太平洋を狹くなし　臺北　節子

[illegible]

哭くな青春

(86)

三上於菟吉作　吉邨二郎畫

事務所で（その二十三）

野山は、ここの家でも女中たちが、けい子を眺めて、とかく、何かの噂の種だらうといふやうな、好奇心を交へた表情を浮かべるのを見ると、まざまざ、いはば人道的な腹立たしさを覺えて來るのだつた。

そのうちに、食卓の用意が整ふと、彼は、自分の手で、けい子の皿に、鍋のものを取つてやつたり、酌までしてやつたりした。そして御馴染の女中たちが、揃つて挨拶に出て來ると、わざとらしい笑ひを見せながら、

「君たちに紹介しようか。この子は、僕の姪なのだよ。今まで、田舍にゐたのだが、今度はるばる出京して來たのだ。けい子、この人たちには、僕が何時も世話になつてゐるのだから、よろしくお願ひを云つておくれ」

[illegible]

「御用がございましたら、お呼び遊ばして――」

などと、急に丁寧な言葉になつて、彼女らは、座敷へ去つた。

野山は、けい子と、たつた二人になると、突然、側にあつた大きな杯に徳利の酒を、とくとくと滿たして、[illegible]

彼は、熱い息を、ふうと吹くやうに吐いた。

「けい子さん、これが人間生活なんだよ」

[illegible]

けい子は、嬉しげに微笑して、頭を下げて見せた。

[illegible]

謹賀新年

嘉義市榮町二丁目 齋藤小間物店 電話四四貳番
三浦商會 電話壹〇五七番
嘉義 耳咽喉科 回生醫院 森灝雄
嘉義市榮町 映畫常設 電氣館 館主 今福豐平 電話
嘉義市 嘉義畜產牧場 洪寬敏 電話貳〇八番
嘉義市 德豐材木商行
嘉義市 長利商行 電話六四〇番
嘉義市 嘉義珍商店
嘉義市 許子
嘉義市 謝捷三
嘉義市 白善允 電話壹貳七番
嘉義シンガーミシン分店 久保田彥之助
嘉義市南門町四ノ一 臺灣料理 碧霞樓 電話壹參六番
嘉義市榮町七丁目六番地 有限責任 臺南州米穀信用購買販賣利用組合 電話五貳九・九五八・壹〇四壹番
嘉義市 陳福財
嘉義市 早川直義
嘉義市 徐乃庚
岩淵文吾
日用雜貨 坂內商店 電話參參六番
嘉義市 平戶食料品店 電話四貳九番
永松完

嘉義市 泉利商行
嘉義驛前 臺灣運輸業組合
嘉義支局管內酒類煙草 小賣人組合聯合會
嘉義 酒類煙草 小賣人組合員 一同
嘉義 樋口友吉
嘉義商工會
嘉義宿屋組合
嘉義市 大同自動車合資會社 嘉義新港間及嘉義朴子間乘合自動車
嘉義市 林文樹
嘉義市 ビール製造元 森商會 電話七〇二番
喪中缺禮 蔡酉
有限責任 羅山信用組合
嘉義 大津義人
嘉義貸座敷組合
院長醫學博士 加藤病院
嘉義市元町三丁目 ㊂丸三藥房 電話四番 振替四〇八番
嘉義市役所前 藤田電氣工業所 電話長七四〇 四〇四番
嘉義煙草賣捌人組合 嘉義支部
嘉義木材商組合
嘉義吳服商組合
臺灣酒類賣捌人組合 嘉義支部
諸官衙、會社御用達 文房具、書籍雜誌 吉川山陽堂
印刷、文具、製本 加土紙店
津本寫眞館
嘉義市 臺灣電燈株式會社

嘉義市榮町 白井藥局 電話四五番
嘉義本局前 日向屋本店 電話四〇六番
嘉義 津田健治
嘉義 秋吉惠壽
嘉義市北門町五丁目 商號登記 古文堂
嘉義市元町五丁目 富士自轉車代理店 三五商會 電話貳五八番
永和畜產牧場 黃新發 電話七〇貳番
嘉義 梅獅
嘉義市西門町六ノ三三 內科小兒科 喜多醫院 醫學博士 喜多兵太郎
嘉義市榮町 嘉福ホテル 電話貳四六番
嘉義市榮町 嘉義自動車株式會社 役員一同

嘉義郡
大林庄長 藤本大藏
水上庄長 畑山丑藏
竹崎庄長 王景游
中埔庄長 陳茂如
番路庄長 劉潤
溪口庄長 張早
小梅庄長 江德樹
大埔庄長 葉耳
民雄庄長 安倍俊亮

保證責任 溪口信用購買利用組合
保證責任 番路信用購買利用組合
有限責任 月眉潭信用購買販賣利用組合
有限責任 小梅信用購買販賣利用組合
有限責任 中埔信用購買利用組合
有限責任 竹崎信用購買利用組合
有限責任 新巷信用購買組合
有限責任 水上信用組合
有限責任 民雄信用組合
有限責任 大林信用組合
臺南州青果同業組合
眞木勝太
佐藤內科醫院 佐藤八四二
嘉義市北門町五丁目一七一 南部土木建築同業組合 電話三三五番
嘉義市 川添修平 江口操
嘉義市 新築なる發展には 伊ケ崎商店へ 電話九番
嘉義 堀池義專

嘉義市西市場前 カフエー便利 店主 蔡德永 從業員一同
嘉義市南門町 劉能才
嘉義市榮町四丁目 米穀仲買 精米 各種肥料 源發商店
嘉義 津久井半三郎
嘉義市榮町貳丁目四五番地 嘉義產婆講習所
和洋割烹 蓬萊 中野藤香 電話四五五番
嘉義 佐竹文六
嘉義市 青果拓殖株式會社
嘉義郡 漢藥種商組合員 一同
嘉義 木藤才二
割烹 魚喜
嘉義市 濱田印刷所
四方醫院
嘉義齒科醫師會
嘉義驛前 南國運送公司
電熱すき燒 清香亭 電話五貳八番
嘉義 松永雅逸
嘉義市西門町 臺灣料理 天仙閣 電話壹〇貳〇番
嘉義市元町四ノ貳〇〇 臺灣料理 別天地
嘉義市西門町 會席御料理 西會芳 電話七五貳番
嘉義市榮町一ノ三六 菓子卸商 泰馨商會
嘉義市西門町四ノ六三 臺灣料理 宜春樓 電話二四九番

株式會社 豐茂商店 本社嘉義市元町五丁目 支店高雄市
嘉義市 黃文陶
土木建築設計工事請負 太田工務所 嘉義市北門町四ノ一一 所主 太田半五郎 電話二〇九番
漢席御料理 文明樓 電話七〇〇番
カフエー ヒノキ 電話貳〇貳番
嘉義 割烹 ともゑ 電話五〇八番
嘉義郡守 猪口誠
土地家屋貸付 棉花栽培獎勵 ㊣義立商行 嘉義市 電話六四三番
嘉義 勝田素章
嘉義驛 飲食 松田伊三郎
嘉義市 林義順炎記合資會社
嘉義市 伊東增雄
嘉義市 庄野橋太郎
嘉義信用組合
嘉義市 瀧野讓治
林木根
嘉義市 林文欽 電話二〇四八番
嘉義 金物商 吳阿欽商店 電話八四六番
臺灣食鹽元賣捌人組合 嘉義支部
臺南州嘉義市南門町七丁目二六番地 平井力松
理髮營業組合
喪中ニ付年賀缺禮仕候 臺灣日日新報嘉義取次所 鹽見芳四郎 電話五二一・五〇番
嘉義市漢藥種商組合 組合員一同
嘉義市 潘崇山 電話一〇五三番
三井生命保險株式會社代理店 泰西商會
嘉義市 黃德壽
彰化市北門 御旅館 千代乃家支店 電話貳參〇番

埔里街 釜田喜太郎
埔里街 養父菊次郎
埔里街役場 林其祥 片山 陳如商定
埔里街 深山要助
埔里街 大久保彥右衛門
埔里街 黑澤元吉
埔里街 王峻槐
埔里街 施雲釵
埔里街 黃敦仁
埔里街 中央貨物自動車株式會社
魚池埔里間 乘合貸切 二高自動車株式會社
埔里醫師齒科醫師會 會員
埔里市場內 日用雜貨 食料品 洽記商店 蔡秀清
和洋御料理 仕出し 滋養軒 埔里街
埔里街料理屋組合
埔里街 能高ホテル 劉應坤
埔里街 御旅館 日月館 電話五番
水社 御旅館 涵碧樓 電話甲七番
埔里街 烏牛欄信用組合
魚池庄役場 陳金龍 黃江和 賴連生
魚池信用購買組合
霧社 櫻花將滿開 櫻旅館
彰化市尹 佐藤房吉
彰化郡守 拔井光三
彰化市
彰化信用利用組合
彰化同志信用利用組合
彰化建築信用購買利用組合
彰化振業信用組合
彰化驛前 彰鹿自動車合資會社
クスリ 化粧品 卸小賣部 ㊂三光堂藥房 彰化市三角公園通り

竹山郡役所 郡守 中松乙彥
竹山庄長 林朝槐
鹿谷庄長 林長金 助役 邱進益
竹山郵便局長 坂崎誠一
藤田秀
劉雍
竹山信用組合專務理事 劉憲章
臺中州協議會員 竹山庄竹山 林如璋
竹山庄協議會員 黃啓奏
竹山庄協議會員 中島修平
竹山庄協議會員 曾厲水
鹿谷庄協議會員 賴茂林
竹山庄協議會員 眞鍋穰 山口安平 榎戶道之助
竹山食鹽元賣捌所 加田喜八郎
醫學博士 楊招壁 竹山醫院
木材 石灰 セメント 肥料 豆粕 泰和商會 竹山電話九番
醫學博士 王美木 英美醫院
林內運輸組竹山支店 竹山電話二六番
乾筍山產移輸出卸商 竹山庄竹山 代表者 賴宗源 宗德商行
乾筍山產移輸出商 順元商行 竹山 電話貳七番
盛合公司
裕源商行 林紹猷
陳國清 行商
裕美商行 林德
陳協隆 行商 陳清枝
太芳商行
林自成 行商 林溪
德和商行 竹山 電話貳〇番
富源商會 竹山 電話四番
御料理 竹山 玉美樓 黃萬得
竹山集雲樓 王金發
和漢洋御料理 カフエー日活
竹山郡役所構內 竹山郡筍出荷組合 組長 中松乙彥 副組長 船田勇記 顧問 本田正義 主事 渡邊長一郎 外一同
有限責任 竹山信用購買販賣利用組合
保證責任 鹿谷信用購買利用組合
保證責任 社寮信用購買販賣利用組合
竹山庄竹山 竹山代書人組合
竹山郡 漢洋藥業組合
竹山庄竹山 竹山理髮營業組合

昭和十年島民之覺悟
以忠勇正義勤勉研究爲本

歲月如流。非常時局之昭和九年。已於緊張平穩裡度歲。玆迎有光輝之十年元旦。然而對外之非常時局。尚未打開。或者至見深刻。內而臺灣。將實施地方制度改善。吾人當依何種精神涵養。庶幾可望順適內外情勢。日必以忠勇正義。勤勉。研究四者爲生活運動之標準。一般於原夫國家之隆替。民族性如何。民族性劣者政治無軌道。生活不合理。是故內而無安寧秩序之可言。外而乏一致進取之氣象。一大民族性之優劣。雖蓋鮮已史。未始不由人提倡。自省改善。越爲四戰之國。其民智戰。要亦基於趙武靈王之易服。越王勾踐。十年生聚。十年教訓。微諸前例。是其效驗。我國奉戴萬世一系之天皇。上下和睦。義則君臣。情同父子。臺灣雖屬改隸新附之國民。亦沐同仁一視之皇化。此四十星霜。固自有相當之進步。然此後必先養成忠勇精神。進而求服役三大義務中之徵兵。殊如非常時局。猶爲至要。夫忠則夙興夜寐。服勤奉公。罔有異念。勇則一旦緩急。執戈前驅。適異乎全軀保妻子者。此點學校之注重於德育體育。及中等學校之軍事教育。在々彌見成效。

正義。孔子不云乎。鄉人皆好之未可也。鄉人皆惡之未可也。必也鄉人之善者好之。其不善者惡之。在孔子之意見。皆非以互鄉。則鄉人之好惡。多非正義。故日未可。而況奸邪之黨。恒以小惠惑衆。枯黨羽嚇人。又西哲有云。坐視不正義之跳梁。而不敢與之抗爭者。其罪與自犯同。蓋何其言下之凛然。有不可犯者也。如是則正義之維持。一爲與不正義反抗。一爲自制。人能自制。則富者貧者。智者强者。皆不敢恣用其地位及所長凌人。法之所在。人盡平等。利之所在。不當壟斷。臺灣此去若實施州市街庄議員民選。政治的之訓練。第一當以正義爲標準。排除私的感情利害。不則其黨弊。有不可勝言者。

勤勉。國土安全。國民保健。兵力而外。厥惟生產。是故古人有足食足兵之主張。又日富國强兵。玩其詞旨。皆注重夫生產者。而生產量之增加。則有賴於國民之勤勉。一息尚存。此志豈容少懈。臺灣人於產業方面而外。對於工業上之製品爲然。日月潭水電告成。本島人宜如何最後更於工業界圖發展。不當利用厚生耶。通貨膨脹。日本貿易品之長足進出海外。在々可爲臺灣人師也。

研究　今日文化之昌明。在於科學。國民性穩要改善。而改善方法。非根據科學的研究。則或至於改惡。吾人日常生活。固不待論。文化及商工農方法。皆須研究其合理。而排去其不合理者。以古爲師。泥古又最有害。其命維新。而新亦非即完全者。天賦人類以智力。使長萬物。人類生存之間。物格知至。利用厚生。有若源泉。滔々不竭。臺灣人對於科學上之知識。固多缺憾。凡百方面。誰以受益。皆不可無研究精神。而研究方法。或入學校。研究學理。及根據各種實驗。或視察海外。以廣見聞。迷信宜破棄。而研究在於公開。不可自祕。學不厭。致不倦。天道健。君子以自强不息。氣候溫暖。天惠較厚之臺灣。苟勿退嬰。自招落伍。則幸甚之至。

領臺四十周年
强仕年華施爲絕好
非常時四民皆應緊張

歲逢乙亥。恰逢領臺四十周年。四十不惑。正在强仕時期。改隸於玆。凡百設々日進。臺灣新自治制。已按今秋十一月一日施行。州市街庄會議員。官民選出各半。從來不得志於宦場者。行見負收人氣於民間。逐鹿界又多事。本島人固維期待仕途之騰騰。而就職一途。愈覺不易。而氣靑年爲能徒食。勢必求諸海外進取。滿洲國南洋。在在有活路。而漢文中國語之學習。爲隨身要業。近年渡滿而不得志者。皆緣要素缺乏也。

農　米穀統制法發動。植民地米在調節統制之列。輿論囂囂。九年度督府雖實行減段。易以代作。無如南部水利事業已成。蓬萊米耕地激增。早晚季產米反盛。恰逢內地失收。米價暴騰。蓬萊米源々移出。幸歟不幸歟。萬一內地米豐收價賤。則臺灣米之販路。當不堪設想矣。苧麻。甘蔗。地瓜。棉花。柑橘。蔬菜之栽培。不可不著力也。

工　臺灣工業。最爲幼稚。農漁山村原料豐富。惟人工機械之獎勵施設未備。工業智識幼稚。島內所有原料。往々移出內地。製成器物食物。然後再逆移入者不尠。良由政府致導不周。以一偌大臺灣。僅設一工業學校。至少各州須設一校。方可養成自食其力人物。以應新時代之要求。

商　今秋將開紀念博覽會於臺北。內外商品觀光客必擁至。此時正要未雨綢繆。厲行實價實賣。切勿違古法製。當改則改。薄利多賣。今年農村景氣當漸恢復。商界定形活氣。

致君澤民三年有成
滿洲國務總理大臣　鄭孝胥氏談

日新。又日新。此語所以湯之盤銘曰。苟日新。日表現聖賢自强不息之心理。滿洲國建國以來。對於飛躍世界各國大衛者。已有望塵不及之概。玆際康德二年。改定省制。乃目前最大建設。除暴安良。革除積習。當與政府省長。日夜孜孜爲謀。其次即豫防水患。在乎立根本計畫。外此整頓司法。效練警察。養成官吏。擴充教育。其雖等於逆水行舟。稍有不慎。則前功盡廢。須務勉努力。余謬膺重任三年。轉瞬間歲月推遷。未能稱職。然固未嘗一刻偷閑苟安。希全國吏僚。盡瘁爲國。俾本年長足進步。上不負吾君。下不負吾民。此孔子所謂三年有成。得再見於今日也。

臺灣平面農業改爲立體
栽暖溫寒帶農作物
調查山岳地帶標高適地

臺灣今土氣候。屬于熱帶。故諸農作物。多栽種熱帶植物。依當局適宜之獎勵指導。現已無再發展餘地。爲是農業關係者。依然提唱將從米之平面農業。宜漸改爲多角的複雜之立體農業。顧迄今農業。僅限栽于熱帶或亞熱帶之平地。本島多高山。一萬尺以上者。多至四十八座。且山岳地帶。占全島面積五分之三。是等皆稱蕃地。至今未見開發。顧諸山地氣候。分有暖帶。溫帶。寒帶。非如平地之熱帶及亞熱帶。而暖帶地以上農業。至今全未顧及。該地域農作。若利用於果樹園藝。及栽種飼料。油料。單寧。藥用諸植物。變成立體農業。成功之日。則從來由內地移入。或向外國輸入之農產物。殆無必要。可得自給自足。而且生產餘剩之時。則可以移輸出。事在臺中州理蕃課。早已著眼。就立體農業。加以研究。藉以開發蕃地。苦心調查各種適宜植物。如現在蕃人所栽者。不過六十四種。內五十四種。係食糧物品。比內地之四百餘種。非常少數。又蕃人多利用野生植物。其數約有百六十一種。而從來取平地或內地農作物試栽。因缺耕作智識。及指導ㄨ非專門家。皆由各駐在所警官。且不考慮蕃地特異性。故栽培中。不能十分培土施肥。管理等。致成績皆劣。州當局。按就果樹種類其他。調查適地標高。及現存果樹標高。以資今後研究資料。玆將種類。適地標高。蕃地名錄如下。松茸。九千三百尺乃至二千二百尺。八通關。透姑蕾南崗。椎茸三千尺乃至七千三百尺。蕃大山。立鹿。南庄。柑橘(內地及蕃地在來種)三千七百乃至六千尺。霧社萬大。梨五千二百乃至五千六百尺。栗三千九百五十乃至五千尺。臺灣柑橘三千五百尺以下。白毛及理冷。內地柿三千九百乃至五千二百尺。斗轉及伊巴納。在來柿二千六百尺以下。眉原及南勢。蘋果五千百五十乃至五千二百尺。敢武々。枇杷四千九百尺以下。斗轉及卓魯鹽。葡萄四千五百尺以下。丹大。小時計草四千八百尺以下。邸拉斯。水蜜桃三千四百六十乃至五千六百尺。出雲山。芭蕉及鳳梨二千七百尺以下。內茅埔。以上觀之。栽培高低。皆見有異。而由平地或內地。取到苗木試栽。初年成績皆不佳。若經三年後。順應環境。始得表現優良性。果樹類。依以蕃地自生。爲臺木。依接木法。使其更新。有依此方法。產優良水蜜桃。又作物栽培限界標高如下。

水稻兩期作二千七百尺。同單期四千尺。陸稻五千尺。蕃薯九千五百尺。里芋八千三百尺。麥六千尺。玉蜀黍八千三百尺。馬鈴薯。菜頭。白菜九千五百尺。蔥蒜四千尺。草棉二千七百尺。落花生六千尺。右以外有廣大牧場。甚適于乳牛肉牛等之放牧云。

淡水街　陳敬輝氏畫

臺北市　蔡雪溪氏畫

內地正米市價
視公定價格
近最高値

米穀統制法之九年度產米穀公定價格。最低定爲二十四圓三十錢。最高三十一圓五十錢。比昨年度各起一圓。九年度因未曾有凶作。端境期供給不足。米價異常昂騰。現在米價三十圓以上。比今比最低公定價格。加貢五圓餘。八年冬季。正應破二十圓。至九年冬周。國事情大異。今次最低公定價格。於農民無大影響。現在內地正米市價。大體近於最高價格時。値全國的盛出期。季節的產地賣米增加。或見相當下落。

山猪　臺北市古亭町　石原紫山氏畫

變乎。共存共榮。不足感也。昔漢宣帝。嘗謂漢家之法。雜以王霸。夫純則王。雜則霸。爲政之人。心有誠僞。則其治有純雜。誠則王。僞則霸。純則本立而道生。民有可循而行也。雜則朝令而暮改。民不知所適從也。日滿兩國。所謂王道者。純而無雜。得以自內而外。自近而遠。自親而踈。均沾其利澤者。我臺灣爲最乎。

千九百三十五年之危機。非常時。自今年始矣。焦土外交也。協和外交也。二者可言。蓋中有所存。則外有所現。心堅而行切似一。當柔則柔。當强則强。臨機應變。似二。雖然。單一不可。徒二亦不可。

貽禍於無窮矣。觀之漢以前以後。事跡昭然。歐米派外交家。似無所悟。明知聯盟之不足恃。猶意與周旋。甘爲其政治侵略。經濟侵略。而不知不戒。不亦大可慨耶。

東北凶作。官民量力救濟。然豈能周且徹哉。德川發親侯家。近見珍本。當夫元冠時代。農村凶作。北條貢時。特採之以救民。即後魏賈思勰。所撰齊民要術。昔中詳陳農業政策。農業技術。在平安朝。頗見流傳。是後散逸。今發見之。復可取資矣。宋朱晦翁。潘叔度。所立社倉。萃民有欲爲者聽之。民金多恭從者。內登各地。目下所建農倉。庶幾近之。當事者。成去其衆歛與疾之意。而存儉恤忠利之心。固可行於一鄉。亦可行於天下矣。

王氣普鼓舞之。則赤穗四十七士。可以爲大和魂。爲武士道。可以捍社稷。衞國家。爆彈三勇士。蓋忧忠烈者。謂赤穗示範於前。無不可矣。不善鼓舞之。雖有田横五百餘人。從容就義。除韓昌黎外。千載下。未聞更有感其高義而爲傾倒崇拜者。國家之盛衰。民族之隆替。所由判焉。

陳同甫曰。天地之正氣也。天命之所鍾也。人心之所會也。衣冠禮樂之所萃也。百代帝王之所以相承也。其言何大。而氣何壯哉。苟無正氣。人心失矣。雖有天命。未由鍾之。衣冠禮樂。安能保全。可不猛乎。

臺南州下水產業
年益約二百四十六萬圓
養殖而外獎造發動船機

臺南州下之水產業。以養殖漁業占大宗。收獲漁業爲次。是蓋因臺南近海。向無良漁港之設。況州下沿岸線三十餘里。岸灘多淺沙。一屆冬季。朔風起時。則漁獲大難。故從前漁業。多用竹筏。所行不遠。得漁至微。迨迎年來發動機漁船之盛出。遠洋漁業隨之而進展。而漁港亦在計設之中。他日定成。則州下漁業。殉堪期待。且來年度。州將對建造三噸小型之發動機漁船五隻。各予以五成之津貼金。藉以獎勵州下漁業發展。而營斯業者。亦可視爲有望。查南州昨年度水產業之收益總額。多至二百四十五萬八千六百九十圓。就中養殖漁業百九十一萬五千四百三十六圓。占島內養殖漁業之七成。收獲漁業四十三萬四千六百二十四圓。製造業十萬六千四百三十圓。若製造業一項。以信魚子居多。運來該品銷路。遠至內地。朝鮮。滿洲諸市場。均知其聲價。將來加工得宜。推消之廣。可計日而待。而特產捕獲者。爲牡蠣。草魚。虱目魚。鯪魚。鯽魚。[illegible]魚。猶爲遠洋漁業重要之餌料。餘如鰻鱔。(魚刺)牡蠣灰。亦加工品中之大宗者。近年鱗鰻之人工養殖。既大收成效。因之水產前途。殊爲有望之事業云。

讀書管見

或曰。世界史。東洋史。今日可再吟味。自滿洲事變。至獨立爲國。國際聯盟。喧囂論難。本邦雖力剖白。仍不相容。不得已自行脫退。而承認之。於是世界多一國。東洋亦多一民族。且滿洲國民。[illegible]之日。爲古言者。可也。國民外交。從而行之。可以補當路所未逮。而與萬邦相親厚矣。[illegible]和帝之世。有謂東狄相攻。中國之福。[illegible]

嘉義市元町　林玉山氏畫

臺中州欲除去水禍
籌六河川治水大工事
五年繼續工費二百萬

臺中州下。稱全島果物及米大宗產地。而瑕。流于臺中市之旱溪。大里溪。草湖溪。頭汴溪。部子溪。乾溪等六河川。一旦豪雨。便見汎濫。市郡交通。恒告杜絕。是不獨阻碍諸產物搬出。而且沿岸農作物之被害。年達四十萬圓以上。爲地方農民所最苦痛者。因是州當局。視前記河川治水工事。爲刻下最急務。自客年春以來。即派遣土木課技術員。實地踏查。總工費要二百萬圓巨額。右依準用河川法。總工費十分之七。即百四十萬圓。欲向國庫補助。由州負擔[illegible]沿岸受益者。各負擔半額。按作五年繼續事業。州當局擬與督府接洽。力使其實現之云。

臺灣之天然樟腦
人造樟腦亦著手研究

世界各國。能生產天然樟腦者。其惟日本。與中華。日本。內地雖有多少生產。然大部分。爲臺灣之特產。而中華之樟腦。雖有古歷史。然樟樹散在。交通不便。加以內亂天災等。甚見不振。昔價高。則多少生產。最近[illegible]於世界市場占獨占的地位。至於用途。昔日爲醫藥。火藥香料。消毒等。然最近八成以上。爲樟腦製品之原料。故樟腦製品工業發達。同時樟腦需要激增。世界大戰後。一時價格奔騰。其後逆料各國々需要激增。遂有德國之人造樟腦出現。所謂人造樟腦。[illegible]出增進。產額約七千噸。脂時副產物之達班達引油而製者。美國等。有量大之生產。價亦安廉。德國輸入爲原料。因此人造樟腦出現。天然樟腦市場。陷于恐慌。我政府。再三降價。力講對抗策。人造樟腦。可得製造樟腦製品。二三年前。天然樟腦產額約五千噸。人造樟腦產額約四千噸。然至最近。天然樟腦。雖日本品盤出增進。競爭倒之。德國人造樟腦。致減至三千噸左右。雖然不能安心。即至今。製造人造樟腦者。殆屬德國。然此屬化學工業製品。今後各國。如何進步。亦未可料。一面現在援助我天然樟腦月輪出增進之策。就其現象。亦非能永久。故就其對策。官民異常努力。對于製造天然樟腦時之多量腦油。極力利用。俾使生產費降下。其後苦心研究。可得各種之高價香料。以其全部。爲原料。若我國利用其一部分。製造香料。則於香料工業。亦自可冠全世界各國。是蓋世界生產香料原油。種類雖多。無如我樟腦油之多量。且品質優秀。化學的組成。甚然複雜。依今後研究。可得而抽出多種類之香料也。又最近由我國之松。不得採取優秀之達班達引油。然若由臺灣之赤松。自可得採取。總督府已入本格的試驗。將來對此植物之適地亦旅。若以此達班達引油。爲原料。製造人造樟腦。臺灣與天然樟腦同時。人造樟腦。亦應被棄。爲世界的產地云。

勅題池邊鶴

○臺北　謝汝銓
閒啄莓苔不爲飢。御園梅守歲寒枝。上清自有翔宮瑞。沙苑應無帶箭奇。松九皐時。香山八絕詩千古。雲天鳴徹未高杭。猶太液姿。

○淡水　雷俊臣
青草池塘景宛如。兩邊仙鶴步徐徐。唳聲遠和鳴岡鳳。露眼旁窺在藻魚。昔獨橫江游子夢。今同樂巡隱人居。瀛東日早春陽戟。鶴鳧沖霄好展舒。

○臺南　吳紉秋
然似老仙。旭日光涵霜羽麗。清波影漾雪毛鮮。偏擇京象和。綠水碧空明逸性。和風瑞雪更精神。蓬壺逸邀聚同伴。太液澄清承春草。迎香殿。故向鳳松瀰月作隣。身沐恩波欣舞御鶴。物類還同沾聖澤。和聲鳴盛應堯天。

○朴子　楊爾材
當陽先祝鳳池春。

臺北市太平町　呂鐵州氏畫

彷彿昆明。暝九天。髣髴光臨帝王前。休將舞態羞羊祜。却得鳴聲憶謝玄。金陛相隨鵷鷺集。皇祥合趁鳳凰翻。幸銜皇澤恩波上。不減乘軒韻事傳。

○仙遊　李問村
霜翮雪翅復玄裳。太液池邊任舞翔。一夢臨風橫碧落。九皋鳴露逢穹蒼。聯翩曾記參軍賦。高潔還陪處士莊。更羨時遊丹禁裡。婆娑尤得伴鸞凰。

○基隆　大鹽面江
羽毛如雪鶴雌雄。倩影瑤池圃苑中。曉露零時秋鶴曲。春陽麗處喚松風。九皋遙去歸華表。一舉飛來舞碧空。好共鵷鵬同獻瑞。吾皇壽算永無窮。

○新竹　陳金龍
昔日乘軒辟衛侯。終身不欲利名求。彼人離下知非計。託跡池邊自由。恥與鴨鷄同啄粒。欣從鷗鷺訂交遊。放懷山水無拘束。適意逍遙幾百秋。

○西螺　廖學昆
幽閑小立禁池邊。未許鷄群發比肩。記得鳴皐聲向在。應知瓶翠志猶堅。紫姿白歷瑤簪舞。丹頂紅迨旭日懸。不羨乘軒還有祿。愛他德厚羽毛鮮。

○龍潭　黃道中
昂藏磊落傍瑤池。得意東風翩碧漪。日伴煙霞陶逸性。天放梅雪襯毛姿。壺詑迹春呼醒。午夢遲。激激恩波涵太液。欣偕鳳侶並來儀。

○汐止　謝蒼五
昂藏獨立鳳池邊。姿致居[illegible]落。一聲嘹唳響青天。手姿皎潔高風在。羽翼光明逸性全。見兆昇平鳴鳳匹。昌隆壽算與無邊。

○陳[illegible]

朝涵旭日漾波光。詩詠仙禽兆吉祥。翱翔奇姿翔玉羽。徘徊清影映銀塘。翼横碧落乾坤大。身傍瑤池日月長。千歲願期澄寶鑑。照明丹頂立昂藏。

○竹山　張笙川
祥禽飲啄無慾谷。御柳風微雨露濃。王駕有時迎聖駕。銀塘隨處寄仙蹤。飛鳴早和朝陽鳳。起舞常偕出水龍。縞袂翩翩清蔭影。石苔磯畔立雲茸。

○王雲鶴
萬里天池舞跡高。佇看白鶴自雄豪。朝暾能襯金冠頂。細羽還梳玉羽毛。雲霄異日任翔翻。鳴時入耳聲清切。國此時堪寄托。

○臺北　林欽賜
浴罷翎毛雪色欺。一儀然适似仙姿。幾看高舉青雲上。忽復低飛碧水湄。海宇昇平鳴獻瑞。楊園雅態。掛向朝陽杲々時。

○高文淵
水光一檻繞迴環。丹頂霜翎態自嫺。世必傍池名太液。何妨寄跡比孤山。素志長懷。身羞立雞群裡。浩蕩恩波春漲滿霄漢間。

○陳文忠
呼群不羨鶖鵝班。

乙亥元旦

○汐止　謝蒼五
消埃無以報。半愧世雍熙。政治風微草。脉達蕃有候。鳳仲盛鳴時。賴有生花筆。春王給滿詞。

○屏東　楊敬亭
[illegible]

○臺南　陳雲汀
青帝東來日。桃符耀眼新。英雄藍尾酒。已是白頭人。見女團々樂。山川處々春。九衢車馬盛。共識歲元辰。

○臺南　陳雲汀
五十慚初度。光陰又一年。盃闌開拜歲。籬菊放當筵。除夕傾椒酒。迎春掛杖錢。遂萊仁者壽。熙皞樂堯天。

○赤崁　陳文忠
爆竹聲喧裡。桃符萬戶新。旌旗飄旭日。羅綺燦芳辰。醉飲屠蘇吸。歡歌盛世仁。非常時正始。護國慶長春。

○淡水　雷俊臣
屈指年常亥。迎春刻卜寅。五更聞竹爆。萬戶見桃新。交禮官民會。相逢成友親。豚來占樂歲。文質共彬々。

○文山　高文淵
鼕鼕說大運。華箋試筆時。椒樹迎新日。桃版燦朝曦。春色江山麗。年光景物滋。人間新氣象。老幼盡雍熙。

小說之價值 (三)

小說之爲物也。一般人之心理。殆無不以爲作者之虛構。觀之爲無稽書籍。實則不然。不論其爲文體。可以爲語體。就其大者而言。可以爲覺悟時勢之木鐸。可以爲針砭時勢之利器。就其小者而言。亦可以表現文藝之藝術。明個人之品性。英國小說家卡那特生云。小說之功用。是有普偏性。比書族的文章。功用宜多。此言殊爲不差。所以從事小說者爲無足重輕。却將小說看爲之人輕。小說三字。在中國書籍中。最先發見者爲莊子外物篇。飾小說以干縣令。彼以爲小說乃瑣屑之言。無關輕重之物。其後班固漢書藝文志云。小說家者流。蓋出於稗官。街談巷議。道聽塗說者之所作也。如淳注說。王者欲知閭巷風俗。故知稗官。使稱說之。此一說之所謂稗官。是比於採風之官。此等小說。也都是民間風世實情之作。然考核班志所著錄小說家十五家之性質。如伊尹說。鬻子說。其中却又不相符合。固自注。謂其語淺薄。以依託也。鬻子說。固自注。謂後世所加。周考。考周史也。青史子。古史官記事也。等等。有所是依託古人。有所是記述古事。顯然不是閭巷風俗。書經藉志。所以後世所不存。而首不外是記述而已。與夫街談巷議。無可深考。類。唐書經籍志。宋史藝文志等。都有小說之稱。至明代胡應麟先生。少室山房筆叢。分小說爲「志怪」「傳奇」「雜錄」「叢談」「辯訂」「箴規」等六類。如斯言。是小說又包函一[illegible]

謹賀新年

西澤義徵　高雄

村上一郎　高雄

松尾繁治　高雄

中川幹太　高雄

中村一造　高雄

荒木萬三郎　高雄

陳啓貞　高雄

高雄酒精株式會社　專務取締役　外山省吾

土木建築請負業　高雄市湊町　東本定楠　電話貳四四番

田中賢三　鳳山街

高木拾郎　高雄

高雄郵便局　福田看

森直吉　高雄

西巻南平　高雄

永原喜太郎　高雄

高雄州高雄市三塊厝五〇八番地　東洋製罐株式會社高雄工場

鳳山郡
鳳山街役場　街長　平間重兵衛
同　助役兼會計役　林金鍾
小港庄役場　庄長　有馬源太郎
同　助役兼會計役　李輝煌
大樹庄役場　庄長　吳清壘
同　助役　黃榮賢
同　會計役　黃設
鳥松庄役場　庄長　趙從貞
同　助役兼會計役　黃安心

土木建築請負業　金子組　高雄市堀江町一ノ一七　電話貳九五五番

仁和醫院　楊金虎　高雄市榮町　電話貳六四五番

東京履物　ナカノ履物店　小賣部　高雄市山下町　卸部　高雄市堀江町

高雄勞働需給組合

高雄商人組合

興業信用組合　高雄市堀江町三丁目三十番地　電話貳四六六番

仝森本吳服店　高雄市湊町　電話貳四參四・參參八壹・參參八貳番

菓子問屋　水月堂支店　高雄市堀江町三丁目角　電話參壹〇參番

賣藥　辻天生堂　高雄市新濱町　電話貳參壹六番

高雄職工組合　代表者　土田健四郎

アイデヤ寫眞館　高雄市湊町　電話參〇貳貳番

和洋紙　文房具　印刷　村木商店　高雄市湊町　電話貳〇參五番

烏樹林製鹽株式會社

高級映畫常設　金鵄館　高雄市榮町　電話二一、三二九番

日本食料工業株式會社　高雄出張所　高雄市新濱町三丁目二十四番地

眺望絶佳　伊東旅館　高雄市西子灣

辰馬汽船株式會社　高雄出張所

三郵組　高雄市湊町三丁目十七番地　電話貳六貳五番

高雄州自動車協會　高雄市

小川吳服店　高雄市新濱町壹ノ壹五

和洋雜貨・鏡・額・玩具・袋物・入子・トランク・足袋　元岡商店　本店　高雄市堀江町　支店　高雄市山下町　店主　元岡正一

高雄醫會

高雄州協議會員（いろは順）
飯橋林陳陳筧楊高蘇中大阿龔許右白蕭
田本　啓光順千　橋雲　村槻久澤　天受　田石喜恩
耕安　城　傳　一嘉　吉代
一博廉峰燦和夫縛吉英造造胖降全人治郷

臺灣運輸株式會社　高雄市

高雄州廳食堂團　團員一同

壽旅館　高雄市壽町　電話貳七壹九番・貳五六九番

有限責任　高雄信用組合

海陸運送業　勞力請負業　代理業　株式會社　日東商船組　臺灣高雄市新濱町二丁目一番地　電話代表番號 3251 (3252) (3253) (3254) (3255)　（發電略號　タ三）　振替口座臺北貳〇六番

高雄州青果同業組合

淺野セメント株式會社　臺灣支店　臺灣工場　電代表三三四一番

高雄　陳中和物産株式會社

高雄製氷株式會社

高雄劇場株式會社

高雄魚市株式會社　高雄市新濱町二丁目十番地

歐米雜貨　室内裝飾品　洋家具製作　眞砂洋品店　高雄市湊町一ノ卄一　電話長貳貳貳六番

高雄材木商組合　本田材木店　佐々木材木店　奥村材木店　宮本材木店　永田材木店　宮幸材木店

臺灣高雄市　高雄中央卸市場株式會社　電話二一九三・二六六六番

臺灣鳳梨罐詰同業組合

臺灣酒類賣捌人組合　高雄支部員一同

內外食品　株式會社　臺灣事業所

市内バス　高雄共榮自動車株式會社

臺灣地所建物株式會社　高雄出張所　基隆出張所

臺灣高雄　株式會社　臺灣鐵工所

日本炭酸株式會社　高雄市苓雅寮

印刷・紙・文具商　南報商事社　高雄市　山内留吉

高雄土木建築請負業組合　高雄市榮町　電話二四一六番

カフエー　高雄市榮町

船舶用達　中野彌三郎商店　高雄市新濱町

各艦船御用達商　井上益喜商店　高雄市湊町一丁目十六番地

林自轉車商會　高雄市驛前

藝術的　フランス料理の　大宴會場　グラウンド　ライオン

御料理　調子庵　本店　高雄市驛前

臺灣運輸業組合員會　臺灣運輸株式會社支店　國際通運會社支店　日東商船組　川田運送店　松野運送店　共榮運送店　協和運送店　臺灣倉庫會社支店　丸一運輸組　武智運送店

高雄實業協會
陳林董何揚潘李王葉楊蔡陳李葉揚黃孫
啓古金瑞炳鴻天文瑞仲宗慶
清迦錐傳完玉森沃猷送豹泰麟鑫江雲來

各種船舶新造製作並修繕及動力引上船架　造船業　龜澤松太郎　高雄市哨船町

高雄驛前　太田旅館

大庭鐵工所　大庭定吉　高雄市壽町一丁目七番地

シボレー　日本ゼネラルモータース株式會社特約販賣店　合名會社山田商店　高雄出張所

土木建築請負業　宮岡組　高雄市入船町一丁目　宮岡長重

福田屋製菓舗　高雄市山下町　電話貳五八八番

高雄州米穀商同業組合

有限責任　高雄州米穀信用購買販賣利用組合

高雄佛教聯合會

有限責任　高砂信用組合

臺灣南部無盡株式會社高雄支店

高雄臺南親友會

米穀雜貨　下平田支店　小林小太郎

高雄雜貨卸株式會社

藪そば本店　高雄市湊町

高雄市　富重造船鐵工所

高雄市組合銀行

海野組　高雄市

臺灣鳳梨罐詰株式會社

臺灣煙草賣捌人組合　高雄支部

古鐵商　山崎楠猪　高雄市榮町二丁目

全乳　山陽牧場　高雄市大港埔

土木建築請負業　大江組

浪花そば　高雄市湊町

中尾岩市

吉井吳服部　高雄市壽町
山下町　吉井洋品部第一支店
新濱町　吉井洋品部第二支店
屏東市　吉井洋品部第三支店
高雄山下町　吉井マート部
山下町　吉井布團服地部

高雄洗布所　高雄市山下町

中間自轉車商會

西畑商行

鍋井運動具店　高雄市湊町三丁目

大木藥局

辰馬汽船株式會社代理店　大連汽船株式會社代理店　丸一組　高雄市堀江町二ノ七

合資會社　高雄檢番

高雄料理屋組合

高雄貸座敷　共榮檢番

本島の特產物 鳳梨事業の統制
將來の發展上是非必要
臺灣鳳梨罐詰同業組合組長　西澤義徵氏述

沿革の大要

パインアップルは其の芳香と美味に於て世界的果實の王座を占めて一般の嗜好に適してゐる、此果物は蛋白質を分解する强力な酵素ブロメリンを含有する優良な食料品である、而して此植物の性能は光と熱とを條件とする熱帶地帶にのみ成長するのであつて、パインアップルはバナナ其他の熱帶果實と共に臺灣の特產物として、臺灣總督府は殖產局に特產課なる一部を設け砂糖、茶、柑橘類と共に之が奬勵助長に特に力を致してゐるのである、農水產物はそれが季節的に多量產出せらるる時に之を經濟的に價値付けるものは加工の方法である、加工に適しない若くは加工方法の研究されてない產物は商品としての經濟價値を著しく低下するものであるが、パインアップルは最も低廉な加工貯藏方法たる罐詰に適するが爲め果實の大部分は罐詰として市場に進出しつゝある狀態である、即ち臺灣のパインアップル產業はパインアップル罐詰が代表してゐるのである、臺灣に於けるパインアップル罐詰業は明治三十五年高雄州下鳳山岡本某により初めて試製せられ、それが產業的に價値付けらるるに至つたのは大正末年から昭和に入つてからで其の推移は左の數字に依り窺知することが出來る

年次	罐詰製造數	工場數	製造者數
大正十三年	三四、七九〇	二二	二三
大正十四年	一六六、五〇〇	二六	二二
昭和元年	一九〇、八〇〇	三九	三五
二年	三四〇、一二〇	三五	三二
三年	五八〇、一四〇	四四	四〇
四年	三六〇、六八〇	五二	六九
五年	四八〇、九九〇	五三	六九
六年	六二〇、三〇〇	六四	七四
七年	八七〇、三四〇	八五	七七
八年	一、二七〇、八〇〇	七八	八六
九年	一、二〇五、二六〇	七九	八五

罐詰の共同販賣制度

パインアップル罐詰の取引は從來の販賣方法を執り來り殊に市場に於ける罐詰製造者の特殊事情に基き各個別々の販賣を無理遣せる小資本家——それが製造家の大多數であるが——は資金回收に汲々たる爲め、市價確立の點に於て統制を缺いて居り、パイン罐詰の聲價を傷つけたのみならず業界を擧げて一般的に市價の暴落を惹起し甚だしく不安狀態に陷れつゝあつた實情に鑑み、總督府及同業組合が慫慂して昭和七年三月臺灣鳳梨罐詰共同販賣株式會社の設立を見、業者の製品は共販會社が依託を受けて販賣し、共販會社は依託者に資金の一部を貸出して賣急ぎを防止し市價の安定を期する所ありたるも、同社の現在は創立日尚淺き爲め、又業者の步調一致せざる爲め充分其の機能を發揮する能はざる狀態にあり

輸出奬勵

本產業を國家的に價値付くる爲めに總督府に於ては極力製品の海外輸出を奬勵して特に他國品との競爭の爲めには適應の處置を採りて輸出を敢行せしめ、關稅輸出補償法を本島に施行して輸出取引の萬全を期してゐる

業界の現狀と將來

我國罐詰業は近年急激なる發展を遂げ年產額七百萬圓の盛況を呈してゐる、而して其の第一位たるカムチヤツカを主とする鮭鱒罐詰の二百萬箱に次ぐものは臺灣パインアップル罐詰の百萬箱である、鰹罐詰界からすればパインアップル業は實に樞要な地位に置かれてある而して其の將來性に付ては前途洋々たるものありて、しかも本島重要農產物たる米、砂糖、バナナ等の耕地を競爭すること無き山間地帶の維林地に栽培し得る爲め、臺灣に於て現に殘されたる適地を調査するとき其の產額を現在の數倍に增加し得ることは疑ひの無い所である、然るに本產業を原料、製造、販賣方面より具に檢討するとき、其の產業形態及内容が大產業としての要素を缺き、未だ幼稚產業の域を脫せず、展ぶべくして展び得ざる缺陷を暴露してゐる、其の大根を擧ぐれば

一、原料と製造と販賣の三位一體の機構に聯携無き事

二、原料生果の耕作、供給に統制無き事

三、資本の無統制と小工場の濫立

イ、内地資本の無統制

ロ、企業者の素質に缺陷少からざる事

ハ、工場設備の不完全と製品の不統一

ニ、優良製品主義を破壞する事

ホ、同一マークの同種製品の多數量を期待し得ざる事

四、販賣の無統制

イ、小資本家が資本回收を急ぐ爲め行當主義の販賣方法を採り一般の市價維持を混亂せしむ

ロ、内臺資本の關係に於て動もすれば兄弟鬩牆の醜態を演じ常に製品市價の安定を得ず

ハ、市價不安定は商品の價値を低下し金融機關利用の範圍を著しく狹隘する

ニ、内地市場に歲月無き蝸牛角上の爭を爲すため海外市場の開拓徐々として振はず產業的價値向上せず

要之本島パインアップル事業は總督府の奬勵助長の政策に惠まれて其の生產販賣の機構の如何に係らず或程度の發達を見たるも、現在に於ては資本の無統制と、小工業の濫立——六十三の資本家と七十九の工場——當業者の無自覺、販賣上の無統制に依り同業者間の抗爭時代を招來し事業自體の共同發展を忘却したるかの感がある、此儘の狀態に推移せば昭和八年度を顧して今後の進展を期する事困難であらう、總督府に於ては上述の事情に深く鑑みる所ありしが最近企業團體夫れ自體の内部的改造强化に專ら力を注ぎ、先般來工場業者の大合同が目論見まれつゝあり工場合同は既に諸條件を纏まり近く新會社創立發起人の選任を見る迄に運ばれて居り、殘る販賣會合同も同業組合と殖產局に於て大體の腹案が纏まり、近く實行委員會を開いて具體案が作成さるる迄に進展を見てゐる、統制產業の理論的論據は別としても本島に於ける重要產業たるパイン罐詰業の助長發展の爲めに此政策は絕對必要の事であり吾人は其の實現の一日も速かならん事を期待するものである。之が實現の曉には斯業の進展を阻止する一切の弊害は解消し、天惠と地の利と相俟つてパインアップル事業は名實共に臺灣に於ける特種產業として内外に確乎たる地步を築く事は期して待つべきである

初日
佐佐木信綱

大八洲めぐれる海の八百潮の音とどろとどろと年來る
〇
譲りますず代々木の森のかがり火の光しらみて年來る
〇
國に寄る御民の胸にあたらしき力あたへて年は來る
〇
滿州の曠野の雪に燃えたたへてかれなるもの天たたへて年は來る
〇
神の國に海への寶の光に初日たたひてて年來る

乃木將軍が愛馬を繫だ榕樹
由緒を訪ねて憩ふ人も多い

屏東驛前に行人の眼を惹き、蔭を添へてゐた大榕樹も多くの人々に惜まれながら市勢發展の勢に押出され、幾百春秋此の土地の過去の歷史を叩かけば應へもせんものを、あはれ榛木にもならず空しく伐り崩されようとしたが流石惜を知る市の當局に依りて去秋若松町公園の一角に卜し、其齡數十年を容るるに足る枝を繁らせ細根を地上に垂らす老榕樹の傍らへ移し植ゑら れ、も若芽してきた、公園内の茶亭高砂を前にして夫婦松の風情はそのかみ東都目白臺細川邸前の道路を飾つた夫婦の松も想ひ偲ばれるだけ將來此の地方の名所に數へあげられるのであらう、けれ共此の松はフヨウの松でもにんじんの松でもなく全く緣もゆかりもないガジマルである所の榕樹を、四季常磐である點からタイワン松と言ひ做らして居るんだ、忘種類にもの多殊更に同じ名にそして貰ひたい、内地たなんてわけへだてを附けるにも及ぶまいではあるまいか、阿熱帶に熱帶植物のあるのは人間の住む所に家のあるのと同じ程度の定石で珍らしい事でも不思議でもないガジマルならガジマル、榕樹なら榕樹とその本名を喚んでやつてこそ樹も笑むであらう、此處を名所として誇るとき殊に巨大な榕樹の偉容、それよりもその向くれ立つた根つこによりかかり幾多の枝に抱きかかへられて閉される堅の門が面白い、凡そ歷史を有たない土地程無味乾燥なものはないと言ふが此の城門の傍の岩かりし時の榕樹には曾て南進軍を率ゆる乃木將軍が暫時愛馬を繫いだと言ふ傳說を留て居る

屏東驛前の榕樹の行方を探ねて不圖想ひ起すのは臺北萬華（往時の艋舺萬安街時代）の四辻の眞中に巍然と四邊の新聞を睨してゐた大榕樹だが、島都の發展は何時の間にかそれも取拂はれて今では往りし姿を知る人も稀に、老松町の町名に僅かに名殘を留てる、それこれ無心の樹木の去就にも時の動きと土地の樣の移り變る姿の浮かび窺はれる點だけは捨て難いがまゝ、南北老榕樹の由來物語依而者の如し（屏東驛前の大榕樹、若松町公園に移植さる）

全蕃社勇み立つ 勇壯な山ブタ狩り
老蕃の一發は見事獲物に

冷涼の秋となつて緋木や珊瑚刺桐の葉がひらく〜する頃になると山近くの駐在所では俄に貸與銃器の貸出が頻繁になつて來る、それは蕃人達が待ちに待つた猪が群をなして何千尺の奥山から人里近く出沒するので、米や粟の收穫を了へた蕃人の「ぶた猪」が初まるからである、猪は本島では一般に山豚と稱するが疾走する自動車のヘッドライトに照し出されたり、家豚と友愛關係を結ぶと云ふ滑稽に彼等の蕃族を愛する蕃の山脚地方では通常に「ブタ」と通稱して居る、彼の蕃東縱所々移民村を圍繞する蕃族豚の石又はパブド緞の垣根は「ブタ柵」と云つた方が通りがよい「ブタ狩」は決して家豚やヨークシャーを追ひ廻すのではない、最も勇壯活潑な猪の狩獵を意味するのである、それは一つには農作物の防禦のために、又二つには山の人達の蛋白質攝取のために、或は單調な山の生活の慰安娛樂に、一面又最も進取的なスポーツとしてこの「ブタ狩」は多くの意義を持つて居るのである、弓や槍や研ぎ澄された蕃刀など思ひ〜の道具が用意されて自他共に許された名射手老蕃の居には貸與銃がいいと得意氣に遂が昨夜古老が占つた夢判斷は獵期違ひなしと出て古老の面上は輝き、惣たりと叫ぶ聲も元氣一杯に蕃犬數頭は一行十數名の前後を駈けまはつて勇み立てゐると云ふが「ブタ狩」の門出の狀況である、蕃人達の此の出獵には「クシャミ」は法度であつて之を犯したるものが一行中にあるときは彼等は折角の此の企ても即座に中止して引返すと云ふ迷信になつてゐるが此の「クシャミ」法度に價値の無い内地人達が蕃人と共同狩獵の途中ウッカリ大きな奴を吐き出して飛んだ失敗を演じたといふ實例を聞く、やがて一行は目的地の狩獵場へ着くと古老の一人は嚴肅な態度で酒物に聳つて祭獻玉と檳榔子とを供物として呪文を稱へて天神地祇に今日の獵果の大ならん事を祈る、而して此の儀式が終るを待つて愈々獵は開始されるのであるが狩獵には通常二つの方法が行はれる、一つは獵場の周圍に銃手、弓術組を配置し社丁と犬を以て猪を追ひ出して獲る所謂卷狩と他の一つは犬と人間の代りに火を放つて獲物が飛び出すのを擊ち獲るのである、獵場は峻嶮な密林か或は丈餘のコワチンの密生地を選び困苦に耐へる體格と勇氣を有する條件とするので極めて活潑勇壯なる蕃族スポーツと稱し得やう、ドーンと林にこだます銃聲を聞けば大猪はミットの中に這入つたのであるこの時こそ百發百中の的證さだ、仰向けに横たへられた大猪の胸元は蕃刀に刺されて鮮血に染れ手と足とは功名の手形として逸早く切り取られてしまふ、間もなく社丁の手によつて山蕃に運ばれた獲物は妙な手さばきで殆ど一物も殘さず燒却され骨は悉く蒸げられて蕃社の夜は酒宴に賑はふのである、實に猪は蕃人達にとつて一枚の貴重な報償ともなるもので一つの蛋白質源である、ビタミンBの寶庫である

春
前田夕暮

空に新らしい太陽を感じる。空は私の上に青い翳をなげる。みやくみやくと季節の色彩が私のこころを新らしくする。みやくみやくとして來る春！

椿の朱い、みづきの上の空からくる感歎は春でしかない

さかき、南天、冬青などのぬれた葉つ葉の上に、春もたぬ

空、春でしかない

私は空をみてゐる。空は私をみてゐる。はつきり春を意識してゐる

謹賀新年

屏東　谷國三郎

屏東　佐藤敏

屏東　福田嘉太郎

屏東　津下猪太郎

屏東市　藍高川

屏東信託株式會社

屏東宿屋組合員一同

臺灣酒類賣捌人組合屏東支部

臺灣煙草賣捌人組合屏東支部

屏東驛運送業者一同

飯塚醫院　電話四五五

博愛醫院　電話參〇番

藤田眼科醫院　電話參五貳

保證責任屏東興農信用購買販賣利用組合　屏東市　電話長四貳參番

有限責任屏東信用組合

會席御料理　赤木館　屏東電話壹參八番

屏東市一二〇　大和興業株式會社　電話長壹四八番

御料理　朝花亭　屏東市電話參參貳

長興庄　庄長 馮安德　助役 川村喜代吉　會計役 徐慶鳳

鹽埔庄　庄長 葉寶山　助役 龜田佐太郎　會計役 董恩賢

高樹庄　庄長 西村勘二　會計役 曾德旺

里港庄　庄長 立野圓治　助役 楊增春　會計役 藍萬順

九塊庄　庄長 龔天降　助役 陳總鎭　會計役 張文金

保證責任長興信用購買販賣利用組合　組合長理事 邱潤寬

保證責任鹽埔信用購買販賣利用組合　組合長理事 葉寶山

保證責任高樹信用購買販賣利用組合　組合長理事 溫慕春

保證責任里港信用購買販賣利用組合　組合長理事 張明

保證責任九塊信用購買販賣利用組合　組合長理事 陳總鎭

謹賀新年　東港郡役所　郡守 谷義廉　庶務課長 米山耕造　警察課長 谷川龜三

萬丹庄役場（イ七一〇）　庄長 李開山　助役 生田目與七　會計役 黃清助

東港街役場　街長 蔡朝取　助役 川野觀太平　會計役 何達

林邊庄役場　庄長 有川貞治　助役 鄭如南　會計役 林鼎

琉球庄役場　庄長 宇田薰　助役 李響　會計役 曾事義

佳冬庄役場　庄長 蕭恩鄕　助役 林劍泉　會計役 羅綸郞

新園庄役場　庄長 陳清桔　助役 手代木駒之助　會計役 郭榮祥

產業組合協會高雄州支會東港郡分會

有限責任萬丹信用購買販賣利用組合　組合長 張山鐘

保證責任東港信用購買販賣利用組合　組合長 蔡朝取　專務理事 陳金水

有限責任林邊信用購買販賣組合　組合長 阮朝江　專務理事 阮朝吉

有限責任佳冬信用購買販賣利用組合　組合長 蕭恩鄕　專務理事 李金錄

保證責任溪洲信用購買販賣利用組合　組合長 蔡丁貢　專務理事 林水順

有限責任新園信用組合　組合長 陳林石

東港漁業組合　組合長 伍朝枝　主事 張明色

屏東市協議會員（イロハ順）　飯塚實　入田龍雄　陳興雲　劉榮頭　劉棟　李明道　林耀明　小野田連巳　渡邊發藏　郭一清　高橋近信　谷山亮太郎　黑木彌之進　升島戸野一　鄭清濂　施福義

會席御料理　西湖閣　屏東公園北町通り　店主 楊等嗣

貸切乘合　三榮自動車商會　電話二〇〇番

鳳山街　高旗自動車株式會社　電話參八番

鳳山街　慕德醫院　醫師 鄭紀園　電話壹五番

虎尾郡役所　鈴木信太郎　竹村將城

虎尾　廣松　電話花島壹九番

虎尾　喜久亭　電話田川一四　幸吉

虎尾　日用雜貨　㊂秀島商店

虎尾　慈濟醫院　主 王標　電話四貳番

虎尾　パパヤ羊羹製造元　木村新治　電話三二番

虎尾　臺西自動車株式會社　電話參四番

虎尾　日東商船　壺石定

虎尾　臺日取次店　河野初次郎

虎尾郡土庫　土庫信用購買組合

虎尾郡土庫　土庫米穀改善協會

虎尾郡土庫　林永振

虎尾　土木建築請負　陳懷

虎尾　日興商店　黃吉　電話壹七番

虎尾　代書業　陳變　電話八番

北港料理屋組合　電話八番

北港郡北港街北港一〇九一番地　煙草賣捌人　徐乃庚

北港小學校長　鎭目滋平

北港女子公學校長　中井悟

北港宮前通り　金長源商店　電話六四番

北港郵便局長　菅田九十九

長谷川林　陳直　鄭請傳　林岸　王達　福井鶴吉　深川辰平　吳羊　蔡老錯　許致　北越常松　蔚連　瀨川浩正

酒類賣捌人　道山保

自動車部、旅館部　合興商店　蔡青山　電話四六番

SO　聯發堂　蘇錦　臺南北港街北四五番地

北港街北港　御料理　曾英園

北港公學校長　石川止才

有限責任朴子信用組合　役職員一同

有限責任布袋信用購買利用組合　役職員一同

有限責任東石港信用購買利用組合　役職員一同

保證責任鹿草信用購買販賣利用組合　役職員一同

有限責任太保信用購買利用組合　役職員一同

有限責任牛桃灣信用利用組合　役職員一同

東石漢藥種商營業組合　組合員一同

東石郡守　田中保

東石郡庶務課長　小田鹿吉

臺灣總督府評議會員　朴子街長　黃媽典

帝國在鄕軍人會　東石分會員一同

鹿草庄長　白井房吉　外職員一同

布袋庄長　宮崎權八　外職員一同

六脚庄長　黃班爵　會計役外職員一同

東石郡朴子街　貸切乘合　東石自動車株式會社　電話一番

謹賀新年

花蓮港街　政所重三郎

花蓮港街　阿部熊男　瀬野尾寧　東有恒　松本留吉

花蓮港街　古藤齊助　清水倉太　山中秀樹　渡邊柳三

花蓮港街　梅野清太

中村五九介　吉村佐平　大江虎吉　小川浩　花蓮港

花蓮港街協議會員

(イロハ順)

西村繁三　林玉鑾　小川浩　吉村佐平　玉置彌四郎　中村五九介　福井公　古賀朝一郎　鄭國賓　佐藤恒之進　許聰敏　謝萬福

和田廣　花蓮港

圖子武八　美濃部良晴　花蓮港

緒方足躬　渡邊文吾　花蓮港街

野中松次郎　武田博磨　花蓮港醫院

花蓮港街　羽鳥醫院　羽鳥重郎

花蓮港　濱田醫院　電話三四七番　濱田隼雄

鳳林　饒永昌

臺灣煙草賣捌人組合東部支部　高橋與六　山田孝使　赤木佐太郎

司法代書 行政　宮崎喜太郎　花蓮港 電話一二八番

張石如

宮崎末彥

山路傳造

堤廣治

泉二吉

田中兹

玉里　松尾溫爾

藥種　福岡至誠堂　花蓮港 電話四一二番

花蓮港　南華興業公司　代表者 李 支店 新城 大和 電四六番

花蓮港　和泉屋家具店

鹽製業　平山貞市　花蓮港

船舶運送業　豐隆支店　花蓮港 電一〇七番　王玉寶

玉里信用組合

藥と印刷　中村回生堂　花蓮港 電一九番

靜岡銘茶　灘友古龍堂　花蓮港 電六六番

風景えはがき　片山寫眞館　タロコ峽口 電二三番

花蓮港 喫茶部　神田寫眞館　電六四番

花蓮港　稻垣吳服店　電三〇三番

花蓮港　仁生醫院　電五二八番

米穀油豆餅商　金泰興商行　花蓮港 電四三九番

高橋分店　花蓮港 電一四〇番

文具と印刷　鈴木活版所　花蓮港 電四六五番

武具と小間物　岸川商店　花蓮港 電三三二番

花蓮港高砂通　野口又男本店　電四五三番

花蓮港…池南　花蓮港バス

東臺灣畜産株式會社　花蓮港 電二二八番

土木請負　山田組　花蓮港 山田越太郎 電三二四番

花蓮港名物一等當選　あんま芋　ゑびす屋　電三三三番

活動常設館　筑紫館　奥井松太郎

花蓮港信用組合

花蓮港　東部信用組合

花蓮港　住田物産株式會社　珈琲農場舞鶴　支配人 國田正二

花蓮港煙草小賣人組合

花蓮港廳　庶務課員一同　警務課員一同　稅務課員一同

花蓮港菓子業組合　大黒屋　十種堂　文化堂　ゑびすや　湖月

花蓮港料理店組合

土木建築　吉村組

㊤ 村上洋品店　電話二〇五番

分 佐藤金物店　電話一六七番

翁山英砂金部　加禮宛事務所

花蓮港　上村齒科醫院

花蓮港物産會社　電三三番

吉村商店油部　花蓮港 電長三三番

雜貨　振興商會　花蓮港 電三一九番

土木設計　德永工務所　花蓮港

藥品化粧品　海野高砂堂　花蓮港 電二五一番

(ビクター)(コロンビヤ)レコード專門店　小出博文堂　花蓮港 電三二三番

洋雜貨　玉屋洋品店　花蓮港 電三七番 大川米吉

書籍文具　並木學生堂　花蓮港 電三〇一番 並木利三

米穀雜貨　梅津商店　花蓮港 電四〇六番

臺灣酒類賣捌人組合東部支部

花蓮港　渡邊晉　岩崎房吉　白井逸次　兒島俊二　唐仁原景俊　大江虎吉

土木請負　揚泉組出張所　花蓮港 電五一九ノ甲

食料雜貨　小林商店　花蓮港 [illegible]

花蓮港　青山疊店　電二六六番　青山季一

司法代書　岡林義繼　花蓮港 電三一四番

カフエー　タイガー　花蓮港 電四五二番

カフエー　クロネコ　奥田みち　電四〇七番

土木請負業　角谷組　花蓮港 [illegible]

醬油釀造　森金商店　花蓮港 [illegible]

玉里　岩田商店　電二番

銃砲火藥 土木請負　田村組　花蓮港 電二二番

土木請負　安武組　花蓮港 電二五八番　安武作平

文具　出古屋　花蓮港 電二四八番

賀正　花蓮港玉里　加藤好文

賀正　花蓮港玉里　岩田仙吉

賀正　花蓮港玉里　菅齒科醫院

花蓮港自動車組合

東臺灣無盡株式會社　花蓮港

花蓮港電氣株式會社

大阪商船會社花蓮港代理店　株式會社 朝日組

花蓮港木材株式會社

鹽水港製糖　花蓮港製糖所　壽工場　大和工場

東海自動車運輸株式會社

太田政弘氏新年試筆

宜蘭濁水溪畔の 二千甲の浮覆地
何人に拂下げらるか

宜蘭郡と羅東郡の境界をなし蘭陽平野中最も大きな河川として知られてゐる宜蘭濁水溪堤防を通過する旅行者の殆ど全部は濁水溪の兩岸に蜿蜒長蛇の如く築き上げられてゐる大堤防を望見するであらう抑も宜蘭濁水溪は源を海拔一萬二千四百九十尺の南湖大山に發し延長二十二里本島著名の河川でその流域面積は五十五方里あり、平時は一萬七千五百餘甲の水田を灌漑してゐるが、同溪も本島河川に見ると同樣一旦豪雨の際は雨水は忽ち奔放な濁流となり濁流は渦を巻いて河岸を決潰し耕地の表土や農作物を流失し村落を破壊し、良田も一望の荒蕪地と化せしむる等慘害の限りを盡し沿岸住民の生命財産を脅かす事甚だしく去る大正元年の大洪水の際には溺死者三十二名、土地被害二百四十六萬八千二百八十九圓、家屋被害五萬六百九十九圓その他を合し總被害三百五十五萬六千九百八十圓と言ふ莫大な損害を蒙つた事もあり其年數萬圓甚だしきは十數萬圓宛の損害を來したのである、ここにおいて督府當局では宜蘭濁水溪治水工事の必要を痛感し昭和四年工事費五百二十八萬四千圓をもつて河川改修の計畫を樹て翌五年五月羅東郡五結堤防より着手した所、緊縮内閣のため六、七兩年度で工事費を六十五萬九千圓削減され四百七十萬五千圓の豫算をもつて工事を進めて來たのである、昨年迄に完成した堤防は壯圍、五結、大洲、柏朗、紅柴林の五堤防、員山、三星、中溪洲三堤防は目下八分通り竣功し來る六月迄には完成せしめ九芎湖堤防は新年度に入ると共に着手年度内に完成せしめる豫定である、全堤防中最も長きは羅東郡側下流九結堤防で延長一萬二百十九米第二位は員山堤防の九千二百九十一米、次は八千六百十八米の壯圍堤防と言ふ順で堤防總延長五萬二千百四十五里に及ぶ大工事である、全堤防中工事技術者らが最も頭を惱ましたのは員山三星兩堤防で兩堤防共昭和九年の洪水期に間に合すべく工事を急ぎ辛うじて目的を達成、三星堤防のため紅柴林部落を初め員山堤防のため宜蘭河が締切られ延ては宜蘭街壯圍庄方面が水難から救はれたのである、現在一日の出役人夫約千五百名十年度は九芎湖堤防に着手する結果一日平均二千五六百名の人夫が働かねばならぬ見込みで、これら出役苦力は蘭陽地にある地方農民の出役せるは勿論臺北州下一般から、遠くは中南部方面からも募集集めたもので一人平均賃銀一日六十七錢、總支拂苦力賃は一月約一千圓にも及んでゐる有樣で附近の農民を潤してゐる事も莫大である

水害から救はるる 人口實に六萬餘

それではかかる莫大な經費と長い年月を要して出來上つた堤防により受ける利益は？と言ふ事になるが、今の所細な數字で現はし得るものでなく、大體の豫想をもつて示せばこの堤防により浸水を免れる土地面積七千三百餘甲、決潰を免れる土地二千四百餘甲あり、この地域内には約一萬戸と六萬の人口が包含されてをり、これらの生命財産が水害から救はれるばかりでなく、河川改修により必然的に現はれて來る新生地即ち浮覆地二千餘甲あるが同堤防完成による利益は如上の數字のみに止らず、年々水害のため疲弊したこれらの土地を回復せしめると共に浮覆地の開墾による地價の騰貴見込約三百萬圓、農作物增收約六十萬圓、其他道路、鐵道、樹栽の□決利益等々有形無形直接間接の利益は測り知るを得ず、蘭陽地方關係の今更年は宜蘭濁水溪堤防の完成によりとも言はれてゐる程で同堤防の地方產業發展に貢獻する所は絶大なものだと言はれてゐる、ではその二千甲に餘る莫大な浮覆地を誰に拂下げ利用せしめるかと言ふ問題が殘るが前述の如く二千餘甲の浮覆地があり、しかもその中には簡單な開墾で直に一甲當り三千圓位の水田になる箇所があり地元宜蘭羅東兩郡下民の等しく注目してゐる所で、昭和三年濁水溪治水工事の計畫發表されると同時に浮覆地拂下げを目指して願書を提出する者日増しに多く現在宜蘭郡下だけでも約一千通九年の如きは三百通に餘る出願數で、これに羅東郡の分を合すれば浮覆地拂下げ出願者だけでも優に三千通には達すべく、出願者中には帝國製糖會社の一口千餘甲歩と言ふ大口もあり、督府當局でこれを如何に處分するかは昭和十年に課された大きな宿題で二千餘甲の浮覆地を廻つて各方面にナンセンスや悲喜劇が演ぜらるる事であらう（寫眞は宜蘭濁水溪堤防）

蕃社若人らの 血肉を躍らす踊
アミ蕃に今に傳はる

花蓮港廳下の平地蕃アミ族には古來各種の蕃人踊が行はれ、粟の收穫が終つた後のイリシン祭の踊を始め祝賀を意味するいろいろの踊があり今日に及んでゐる、茲には新年に因んで芽出度い祝賀の踊一、二を述べよう

サカルンルン、この踊りは昔蕃社の男子が山野に出獵し、女子は粟を耕作するために畑に赴き、其處の蕃社には屈強な若人は一人も殘つて居らず、警戒が不充分な隙に乘じて不意に敵蕃の襲擊して來るのを恐れ、壯丁中の強健な者を選んでこの警戒に當らせたのであるそしてその壯丁を選拔するにはいろいろな方法を用ゐて心身の鍛錬せしめると共に、よく艱困缺乏に堪へ得るか否かを試みたのである、それに起因してその後毎年全蕃社の壯丁は、色々の試錬を經た後長距離の徒歩競爭をなし、體力の優劣を決定することになつた、もし壯丁中でこの競爭に落伍するものがあれば、社内に於つても一人前の男子として待遇を受ける資格がなくなるので、競爭の當日には一旦落伍しもし中途で落伍した場合は家族の者が落伍者を目的地まで運んで行き死んでも目的を達する意氣込を示したものである、それで優勝者は社内壯丁の第一人者として優待され全蕃社の羨望の的となり、平生思つてゐる戀人を妻に娶ることが出來る慣習となり、アミ族男子の最も名譽ある行事とされてゐるため、この行事が終ると同時にそれに參加した壯丁は勿論全社を擧げて數日間に亙り盛大な酒宴が開かれ、老幼男女が打ち交つて踊りをなして祝賀の意を現はすのである

サカクマントカドム、この踊りは野作祈願の踊りである、從來蕃人の常食は粟が最上のものとされ、その財產の多少は粟の收穫の如何に依つて定められてゐるので、播種に當つては齋戒沐浴して神を崇め豐年を祈り夜に入つては親戚會合して酒宴を張り夜を徹して踊り抜くときに、男子はこの踊りを踊り、女にはサビサオマを踊つて神を慰め、豐穰の祈願をこめるのである

サカヲリキド、前述のサカクマントカドムを踊つて神を慰めた後秋になつて粟の收穫が上作となれば蕃人はその粟で酒を造り神樣への御禮としてその酒を獻上し、明年も豐作であるやう祈願をこめ、殘りの酒で酒宴を張り一同は謝恩の意味で踊るのである

サビアナシ、この踊りは神の惠みで粟がよく稔り、一つの穗でも自分等の踊りの沛然以上に延びて食用に盛れるばかりである、明年もこのやうな大きな穗が出るやうにとの心で踊るので、若者たちはわれもわれもとその踊りに加はり迷踊を長くして踊るのである、歌詞は何れも即興で一定のものはないが、蕃人は聲量が豐富朗かで、その聲は遠方までひびき渡り、明月夜などにその聲を聞けば、そぞろに無限の感傷に打たれるのである

女流歌人 田中志賀さん

歌を作る女性、何にも日本では珍らしくないが、その熱心なのと六十五の老齡である點では珍らしからう、この歌人中々薄命で夫君に死別して三十五年、長男義郎さんは今を時めく花蓮港驛長で、武八氏とは中學の同窓であつたがこの息子さんにも死別して次男義夫君（現花蓮港檢查出張所勤務）と暮してゐるが歌をはじめた動機をたづねると、運命的に悲慘を極めたので、いろいろ宗教の救ひを求めたが與へられなかつたので歌によつて慰めの世界を求めたのであるといふ、このお婆さん仲々のモダンで、元氣一杯で野球がお好き、スポーツは何でも――作品に現はれてゐる

グラウンドは朝の露にしとりゐてスパイクのあとあざやかに見ゆ

野球見に近道すれば草の實の裾にいつきて歩みかねける

上り坂ビスード出せる自動車の中にコスモスの花ゆれてをり

など元氣潑溂とした作品が見えるが、さすがに身の老齡をしづかに歌じて

ぬぐはれし鏡に映るわが顔に老いのきざしの血のあざの見ゆ

といふやうなものもあり、花蓮港の短歌結社あらさる歌會の紅一點としていつも歌會席上を賑はしてゐる

馮齒科醫の家庭 國語で最も朗か
夫人は東京日本橋生れ

國語を常用する家庭と言つても花蓮港では國林區長碇永昌氏の家庭や花蓮港社住で齒科醫を開業してゐる馮子明君の家庭の如く內臺共婚の家庭の如く徹底した家庭は少いだらう、碇永昌氏の家庭はもう結婚後二十年も經過してゐるから家庭の國語化は勿論のこと、些かもう色つぽい色彩を失つてゐるが馮子明君の華やかな家庭を紹介しよう、いささか話は古くなるが昭和四年十一月の菊月祭には社用で本社へ出向いた際の歸途共時分はまだ東海バスがなくて蘇澳から逆で結婚別府丸に乗り込んで花蓮港に歸つた、その船は蘇澳の波では猶しぐれが蕭々と降つてゐた、そこにあでやかな千代子夫人（當時二十二歲）を東京から同伴して一緒の船で花蓮港に降りたので同君の家庭を紹介するのに因緣淺からぬわけである、夫君馮君は日本大學齒科出の花蓮港本島人開業人の第一人者と行くまいがとに角新人には違ひない、結ばれるまでのロマンスもあつたに違ひないが日本大學の齒科に患者として夫人が入院したさうである、馮君はそれが知り染めですよと多くを語らない、夫人千代子さんは東京日本橋で桑喜堂といふお菓子屋さんの娘さんでお母さんは南拓祭といふ花園を經營しておいでる由、千代子さんは家庭に於ける國語常用につき夫や皆さんといつとなく兩方から接近して來まして別段の努力も要せず今では何の不便も感じてゐません、案外樂です、さうですね、蓄音も珍しくはありませんがやはり趣味としては音樂が好きです、故郷の東京が戀しいと思ひます、最初私をダンサーだつてなどといろいろ噂をされましたけれどダンスなんて當地にまゐりましてからはじめて習つた位のものです、口さがない批評をされましたが今日ではもう斯樣な誤解であつた事が一般に判つていただいた樣です、近來ゴルフはやりません、ハンデー二十四まで行きましたが、さうですね私の趣味の中心はサボテン三百種ほどあります、次に石です、仲々面白いところもあります、花蓮港の水石は優秀です今では長女惠美六歲、次女恩美四歲、二人のよいお父さんである（寫眞は馮氏と夫人長女惠美子さん）

模範的の行爲を 全蕃社が崇敬
ブセガン社の多數の人々を 文化へ導いたツチハ君

身は一介の蕃人でありながら模範的蕃年として蕃社の改善改良に努力し、國語の指導は固より教育、產業、土木、衛生等に至るまで多大の貢獻をなし蕃社の面目を一新せしむに至つた感心な若者がある、それは花蓮港廳研海支廳ブセガン社の首魁モウナワオチハ君である、君は十三歲の時、始めて研海蕃童教育所に入所し、卒業後は蕃社に歸つて民蕃に率先する傍ら、蕃社の改善に着手したが第一として同民の蒙を啓くには教育が最も肝要であることを認め、昭和三年ブセガン教育所の設立されるや學務委員を拜命し、向學心の乏しい父兄を説得して子弟の入學を極力勸誘した甲斐あつて、入學率が增加し、現在では有數の教育所となつた、又蕃年行はるる家政講習會及び蕃年夜學會の向上を圖り、或は貧困者に學用品を給與し、或は會員の増加に努め、又昭和九年九月同蕃社を國語部落となすため五ヶ年計畫で蕃社の老年男女を中心とする國語普及會が設けらるるや、之れが指導の任に當り、優秀の成績を擧げてゐる、次に產業方面では社蕃に對し施肥の實地指導、稻子の改良、定地耕の奬勵、新作法の改善に盡力し、自ら率先する所多く、その結果つき不斷の努力を拂ひ、以て農事比較的土地に恵まれてゐない蕃社をして自給自足の狀態に至らしめた、その他竹林の造成、苧麻の栽培、果樹の栽培並びにその整備に努め、蕃社の慣習をなし以て蕃人の惡癖である爭鬪の弊風を一掃することが出來た、次に土木方面では蕃地内の道路の補修新設をしたこと數知れず、之がためにタロコ探勝客に多大の便宜を與へたことは特筆に値するものがある、更に衞生方面では從來蕃社が甚しく不潔でマラリアその他の疾病が蔓延するに鑑み蕃日を設け出して自宅の清潔をなし以て家屋の改善、又地物整理を勵行してマラリアの防遏につとめ特に便所の改善を痛感し、全蕃社に向つて建設上の結果、現在では各戸が理想に近い便所を持つやうになつた、既に蕃人に對しては蕃議に依る新築の奬を勸めて家屋を新しめ、社内の住家狀態は全く一變するに至つた、その他常に蕃長として蕃年の指導教育に當り、或は貧民、病者の救恤につくし蕃務官を扶けて理蕃又は社外の聽事に盡力するなど共の業跡は見るべきもの多く、殊に蕃社の崇敬するところである

對岸福州慶賀號

旅閩之中堅臺僑

福州臺灣公會（電話二○八號）
會長 林熊祥　副會長 陳□君
議員 林慶春 許三 李□泉 大□ 石井喜之助 ……
顧問 周錫□ 吳知母 ……

福州臺灣公會金融組合（同構內）
組合長 林熊祥
理事 林慶春 ……

福州臺僑青年團（同構內）
團長 林熊祥　副團長 高樹發
幹事 ……
顧問 桑原義夫　書記 康金富

林熊祥　福州市城內楊橋巷（電話四五四六號）

臺灣青果同業組合聯合會指定代理店　昭惠公司　主任者 周錫堯　福州市南臺中平路（電話二五四六號）電略 Shokei foochow

貿易商 合泰菁洋行 楊文疇
質商 慶菁典 楊文疇
雜貨材木金錢貸付 永裕洋行 楊人權
質商 慶泰典 楊人權
海產雜貨木材茶棧 正泰春洋行 林慶春
春和洋行 林漢
五金機械電灯材料 建昌商行 黃來興
薪炭商 義興洋行 黃來興
材木古物 保利公司 柯保羅
共和醫院 張瑞鳳
養生醫院 陳天星
救世醫院 呂耀唐
金錢貸付買賣古物商 瑞泰洋行 黃江柳
船頭行 建亨洋行 李金塗
旅館及料理業 大東洋行 劉水樹
中國式提灯製造及販賣 泉成洋行 張成家
紙類輸移出商 新源紙莊 蔡爾全
青果、土產雜貨、海產 協興洋行 蔡國家
香取線香、汽水雜貨 合泰洋行 周天乞
吳服商 聯義勝洋行 王塗

金錢貸付買賣吳服商 南興洋行 黃反生
土產雜貨貿易商 永嘉洋行 林鎭江
源隆洋行 李萬土
海產雜貨 俊泰洋行 何俊
布疋海產物 西裕洋行 李烏甜
電氣材料機械雜貨 協順洋行 陳添喜
振春洋行 辛文春
雜貨商 江元洋行　江元醫院 江福成
砂糖米炭雜貨商 泉興洋行 曹阿水
海產雜貨古董書畫 展東洋行 周阿本
雜貨商 保生洋行 王阿盛
布疋雜貨商 昇發洋行 周□題
海產雜貨商 崇益洋行 唐則劍
雜貨商 敦厚洋行 李清溪
雜貨商 蘭禎協記洋行 鄭林氏月嬌
雜貨 森春洋行 楊水土
振泰興洋行 楊水土
海產雜貨反物糖粉 坤記洋行 翁坤々
糖粉雜貨薪炭反物 東隆洋行
海產雜貨 陳泰隆洋行 陳傳宗　陳陞隆洋行 陳約伯
海產雜貨 (日)美德洋行
海產雜貨 泰茂隆洋行 陳甫論
青果商 天章洋行 潘清江
青果商 義成洋行 柯火旺
大和洋行 林大鵬
海產雜貨 振盛洋行 黃阿九
海產雜貨 源興洋行 謝水火
海產雜貨商 源裕洋行 葉生
雜貨印材商 同發洋行 施玉田
和洋雜貨及罐詰 普益洋行 楊山嶺

石炭海產貿易商 振利洋行 林番王
石炭、海產、コークス 大祥洋行 林丕鴻
石炭、海產貿易商 三民公司 劉太秀
海運及貿易業 合發洋行 高秋朗
福星洋行 李繼煙
馥泉酒廠
森裕洋行 王國土
砂糖、石油、麥粉、雜貨 興記洋行 王興銘
電氣材料及雜貨商 德記洋行 高得福
砂糖、麥粉、雜貨 源泰洋行 李田圳
三和商會 高煜煥
海產雜貨薪炭商 信和洋行 陳沛生
金錢貸付質當商 輝記洋行 陳培輝
材木、茶、雜貨、米、麵粉 公平洋行 徐□
骨董商 集古齋 王得秋
柴炭商 復泰洋行 王國華
自轉車販賣 瑞華洋行 楊四華
化粧品及雜貨卸商 悅來 林潮波
木炭商 永利洋行 陳慶雲
海產雜貨 達信洋行 李金應
果物及海產物 山海公司 盧貴政
石炭及貿易商 光東煤炭廠 周水丞
馞香堂洋行 周阿勃
海產雜貨商 興和洋行 劉乞食
材木商 萬興洋行 葉趕

福州本社特置員 林阿仁（靜山生）

謹賀新年

高屋庸彥　澎湖島要塞司令部

横井爲男　馬公重砲兵大隊

永松三郎　澎湖島衛戍病院

小林耕藏　澎湖憲兵分隊

大磐誠三　澎湖廳

淺生四市郎
水野啓
梅本敦　澎湖廳

大塚忠太　澎湖廳

吉良貞雄　澎湖廳

三田村茂樹　澎湖廳

近藤榮太郎　澎湖廳

鄭曝文　澎湖廳

中村卯兵衛　澎湖廳

三浦光次
副島官市
上野滿藏
青柳和吉　馬公街

山宮忠藏
田代博　澎湖醫院

久保元助　澎湖廳

高橋盛三郎　馬公

瀨戸崎市之丞　澎湖郵便局

田中庄之助　澎湖郵便局

木下忠治　馬公

富澤愼　馬公

馬公 井手呉服店　井手英孝 井手孝　電話六三番

馬公 伊東正成　電話二六番

馬公 上瀧柳作　電話二〇番

上瀧利雄　馬公

青木紀　馬公

海軍糧食品御用達　馬公 山口信行商店　電話三三番

海軍糧食品御用達　馬公 丸八旅館　電話九番

海軍糧食品御用達　西室直次郎　本店 第一支店 第二支店　電話五六番 [illegible]

馬公街 北川呉服店　電話二九番

馬公街馬公 煙草元賣捌所 稻田岩一郎　電話一四五番

酒類賣捌人 鍾鉅　馬公街馬公 電話五二番

馬公 大久保百貨店　電話一〇三番

佐々木七福堂藥房　馬公 電話七番

馬公街馬公 内科小兒科 池田醫院　醫師 池田隆[illegible]　電話一六番

産婆 青木ユキ　馬公街馬公 電話一四七番

糧食一式 燒物及金物 荒物雜貨 列多久島源太郎商店　馬公街馬公七百四十二番地 電話六九番

澎湖島特産 [illegible] 製造元 宮崎商店　陸海軍酒保御用達　電話[illegible]

澎湖廳馬公街馬公五八〇番地 日用雜貨商 豐進商店　電話[illegible]

澎湖醫院購買部 田殿市松

食料品 卸小賣 中國商店　陸海軍御用達　電話[illegible]

日用雜貨 義發商店

澎湖島特産 [illegible] 山本清九郎商店　馬公市場構内

日用雜貨 日進商店　陸海軍糧食品御用達　馬公市場内 電話[illegible]

馬公街馬公 糸永直太

馬公街大案山 土木建築請負業 三好虎吉　電話四五番

大渡組

各種清涼飲料販賣元 山井商會

金足美

聯昌洋服店

永聯泰洋服店

タエナカ寫眞館

有村寫眞館

馬公 旭自動車商會

澎湖廳事務官 庄長 佐藤乾

西嶼庄長 鍾鉅

湖西庄長 平間鶴吉

白沙庄長 張懷

臺南地方法院馬公出張所職員

會席御料理 寶來　馬公街馬公 電話一九番

和洋御料理 乙姫　電話四〇番

御料理 ひさご　電話一〇七番

城外支店 朝日樓　電話一〇六番

御料理 富貴亭

篠原武熊　喪中ニ付年始ノ禮ヲ欠ク

本間善庫　臺東廳

重森確太　臺東街馬蘭

松井金次郎

中村源次郎

古澤昇

毛利之俊

渡邊晋

島義雄

宇敷斐夫

赤城佐太郎

專賣局臺東出張所職員一同

臺東郵便局職員一同

機關庫保線區職員一同

臺東醫院職員一同

東部農産試驗場職員一同

株式會社 櫻組　臺東街

臺東商友會

澎湖廳馬公街城外 馬公貸座敷組合

馬公料理屋飲食店組合

馬公 理髪組合員一同

有限責任 馬公融通信用組合

有限責任 澎湖信用販賣利用組合

有限責任 西嶼庄流通信用組合

有限責任 白沙庄信用組合

有限責任 湖西庄信用組合

馬公會館
澎湖文庫　電話一一〇番

町田雄作　臺東新港

旅館 旭館 金子幸七

料亭 さゞ波

料理仕出 山田家

料理仕出 振和樓

臺東信用組合

東大醫院

賀正　花蓮港廳 玉里信用組合

清原文雅堂

南志信

岩花政之助

料亭 富乃家

里壠 竹乃家

鳳林 山中秀樹

會席御料理 喜久家

花蓮港廳下小公學校 (順不同)

中條福安　牧内憲五郎　早川義雄　村富俊平　中島眞澄　岡元雄二　長岡秀夫　井上佐　山本英夫　高橋文雄　池田申平　田邊昌美

林田村信用組合

豐田村信用組合

吉野村信用組合

新港自動車會社　臺東新港

花蓮港廳下公醫

工藤三二　岡田俊吉　高田留春　唐牛宜光　山本政司　鶴崎虎吉　内木場豐吉　田島乙滿　張舟

吉野區 中島常雄
平野區 呉阿慶
新社區 陳應時
瑞穂區 細井治三郎
大庄區 水谷勝
研海區 山口次人

藥種及賣藥 塚原博愛堂　電話貳貳番

公醫 前田醫院　前田廣人

玉里 加藤醫院　加藤好文

花蓮港街黒金通 日夏呉服支店　本店臺東街

大嶽せともの店　大嶽廣三郎 (電話弐八番)

花蓮港旅館組合

臺東ホテル　臺東街 電話百十番

カフエータカラ　臺東街寳町

臺東製糖株式會社　臺東街馬蘭 電話長三七番

臺東廳職員一同

臺東廳各支廳開導所職員一同

臺東廳學校職員一同

臺東廳各區役場職員一同

臺東廳下公醫一同

新興製糖株式會社　臺灣高雄州鳳山郡大寮庄山子頂百九十番地　電話鳳山三〇番